

602

602-3



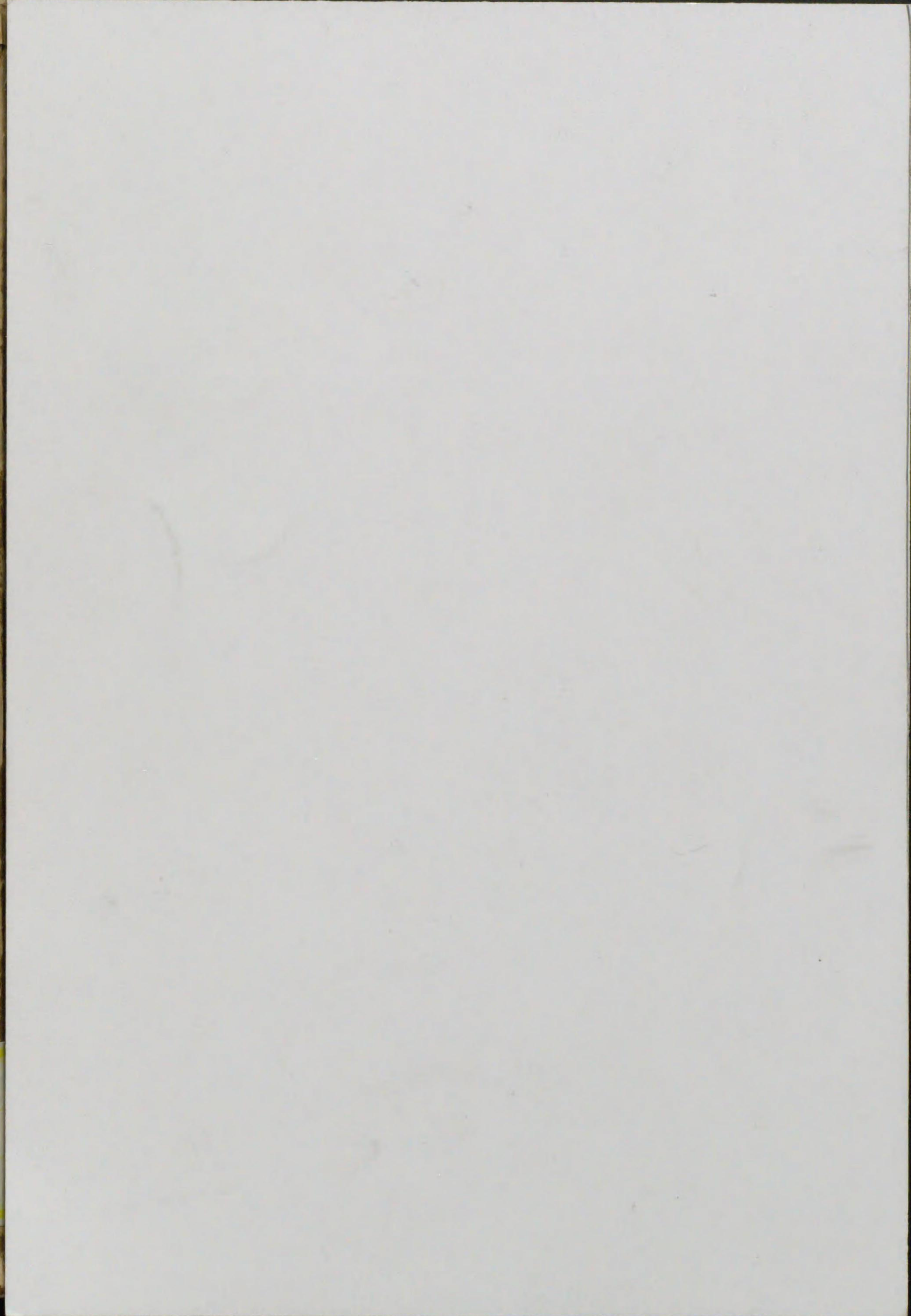
1200501530548



樺太土産

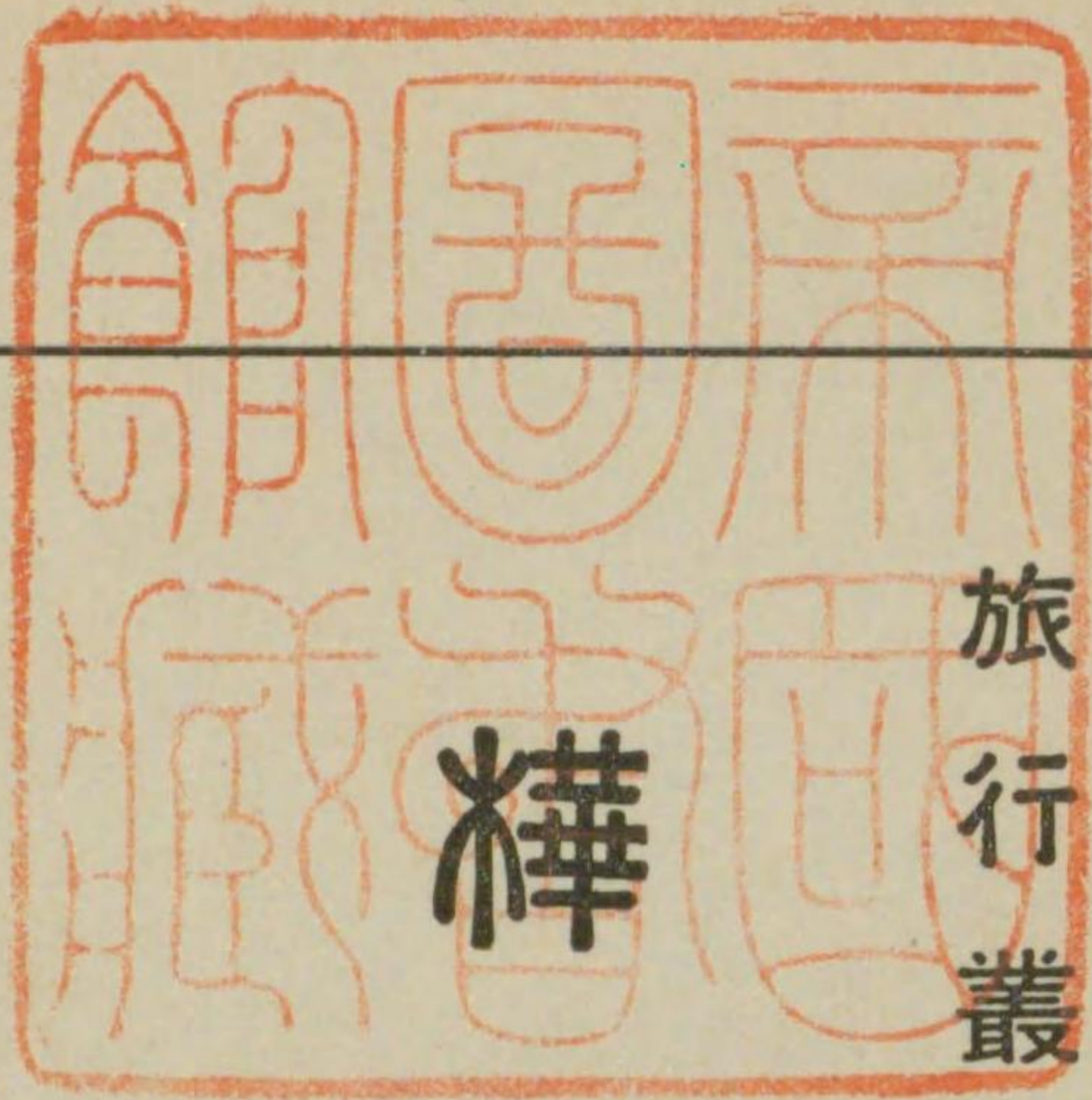
旅行叢書第三

秋守常太郎著



新刊圖書第三

神皇正統記



旅行叢書第三

太土產





影小の子幸娘亡

本書を亡娘幸子の記念出版とするのに就て

本年十二月七日は私の亡娘幸子の一周忌であります。私は昨年私の「歐洲土産」を彼女に對する記念として出版したのに就き本年も亦本書を彼女に對する一周忌記念として出版致します。由來私は、彼女は素より一般の死者に關して其靈と云ふものがあるの乎否乎に就き全く不可識であります。否な寧ろ其靈はないと信じて居りますのに加へて、仮りに其靈があるとしても、現在では其靈と私とは全然別個の世界に存在して所謂幽明其境を異にして居りますから靈犀相通する事も出来ぬ、古來幾多の人士が靈犀相通するものがあるを云ふて居るのは畢竟自己が描いた幻想に捉はれた結果にあらざれば、それが感情を満足せしむる上に於て便利であるからで、結局は其靈と私とは何等直接の交渉がないものであります。若し強いて何等乎の交渉があるをすれば、生きて居る者の側に於て死者に對する追懷を新にする事によつて、一は自ら慰め他は他人を慰める事が――

—死者に對する關係を起縁として生きて居る者同士が互に援助し合ふ事が——唯一の交
渉即ち死者に對する供養である、と信じて居るものでありますから、私は昨年娘の死亡
當時に於て世間並の葬式を營まなかつたのと共に、其後も亦隨時隨所に其機會があつた
毎に、彼女に對して生前に於て何等乎の縁故を有せられた方々のお集りを願ふて彼女に
關するお話をして頂いた以外は、世間並の供養を營まなかつたのであります。従つて此
回彼女の一周忌が到來するのに就ても亦、私は一切世間並の供養を排する代りに本書を
彼女に對する記念出版とする事によつて、生前に彼女を知つて頂いて居つた各位に對し
て彼女に關する記憶を呼び起して頂いた上で、本書を通じて各位と供に供養ならぬ追懷
がしたいのであります。然り只それのみがしたいのであります。

昭和四年十一月

父 秋 守 常 太 郎

亡妻の一周年忌に際して

田 坂 茂 忠

茲兩三日内に私は亡妻幸子の一周年忌を迎へんとして居ます。昨年十二月七日の朝、身邊に
重大な異變事の生ずることも知らず、只管彼女の病狀が昨日よりも佳良なることを祈りつゝ、「
お早やう」と握手をかはしたのを最後に、彼女を失つてから今や一周年忌が参りました。秋守
の父が今夏の樺太旅行記を物して彼女にデイクイットする此機會に、昨年來私に直接間接に少
なからざる御同情を賜はつた皆様に對する御挨拶に代ふべく、この文を草したいと思ひます。

「人間の死」は必然の事象であつても、「幸子の死」は私に取つては、現時も尙、必然の事
象、自然律として諦らめて終ふことの出来ない事柄であります。御挨拶にかふる文として、妻
を失つた夫のこの心持の一端を素直に披瀝して見たいと思ひます。これは或は女々しい感傷の

訴へに墮するかも知れない。その感傷を待つ自分に關する、つまらない自己辯解乃至は自己欺瞞と判定さるべきものであるかも知れない。しかし茲に、私が入様の前に自己を曝露する危険を敢てする所以は、一つにはこの事を、御同情を賜はる皆様に御納得をして頂き度い希望と、また今一つには或る夫の心の記録としてこの世に存して置きたい希望を抱懐するからであります。短直に云へば、斯うした「諦らめられない心」を持續して行つていゝのだと私は信ずる。宗教的に觀、世俗的に觀、更に理智的に觀ると、既に相當月日を経た現時は、妻の死に對する悲しみの情感を薄らげて諦らめに徹して居なければならぬと云ふ理屈に、一應納得され得るふしもあります。田坂の母は、分骨して拙宅に保存する彼女の遺骨に對しこの一年間一朝として禮拜しないことはありませんでした。茶を供へ花を立て直す毎朝の行事に、母は毎朝幸子の思ひ出を持つて居ることせう。幸子は最早や如何なる質、如何なる形にも存して居ないものであると信じて諦らめかねる心を持って居る私と、反芻動物のように幸子の思ひ出を噛みしめて居る母は、相互に幸子の名、幸子のことに會話の觸れることを避けては居ますが、幸子がありし日になしたる家の内の整頓を成るべく持續することに努め、出來得る限り家の内に幸子のな

したる整頓と所業を満たして行つて居ります。

私等二人のさうした氣持は、前述の私の「諦らめかねる心」と共に、或は、我々が民族的に引繼いで來た傳來の「悟脫の道德」に背る蒙昧なものであるかも知れない。不徹底な感傷かも知れぬ。有害無益、去勢の素となる、と他の人には見えるものかも知れない。がしかし、其所に私共の愛する幸子の本當の墓があるのではなからうか。其所に幸子の永遠性の素があるのではなからうか。私共の胸裡、其所を措いて、何所に彼女の墓や永遠性があらう。悲しい事實であるから諦らめねばならぬと云ふ理屈はない筈である。悲しみは人を殺す、それは事實である。しかし悲しみが人を生かすことも事實ではなからうか。私等社會科學を習得する者は何人も、社會が大きな悲しみを動機として生長し伸展して居る事實を見逃がすことは出來ない。社會と云ふ群衆運動のみでなく、それをかたち作る一人々々各個人の生ひ立ちに於ても、それは事實ではなからうか。

過去一ケ年私の不幸は幸子の死に止まりませんでした。今年の二月には實家尾澤の母を、更に七月には實兄尾澤慶忠を失ひました。皆それぞれ病氣ではありましたが、ホノル、に居まし

たその母は、昨秋の大平洋婦人會議に出席し得る程度のものでありましたのに、幸子の唐突の訃に遭ひ頓かに狭心症を起して就床逝去しました。その節は尾澤の父よりの書簡、最近では御歸朝の原田助博士夫妻より、この事情を詳細に伺つて、私は悲痛至極に感じて居ります。兄の方は、佛蘭西留學の歸途持病を起し病身のまゝ歸朝し昨春來拙宅附近で加養して居りましたが、母の死後頓かに病狀を悪化して立つ能はなくなり、遂に多年研鑽鍊磨したる研究と人格を空しくして逝きました。逝きました母は、彼女を母として持つ私共四人の子供達の大きな誇でありました。兄の人格と學究努力は、私共をして堅く彼の學者的將來の大きさを期待せしめ、敬愛措く能はざらしめたものでありました。

先賢の申されるように、まことに、人間の幸福は愛からなり立つて居ります。それを意識すると否とに拘らず、また、「愛」と云ふ言葉が通俗に持つ弱い、やはらかい、女性的なる意味を好くと嫌ふとに拘らず、どんな人でも幸福を愛から享けて居ることが、私は今日の不幸に沈淪して始めて理解し得て居ります。過去の私の愛生活の對照から、妻、母、兄と矢繼ぎに愛するものを失つた私の悲痛は、御想像通りのものであります。愛の對照を失つての不幸は仲々充

たされないものであります。過日佐分利公使が逝かれし夫人に對する情感から自己の思慮と分別を自殺に結ばれた、私はそれを理解し得ます。勿論愛の對照が決して個人に止まるものではないことは、思考し想起しなければならぬことであります。其所には、社會愛もある、人類愛もあります。喪失した愛の對照、幸福の資源を、他の個人、社會、人類と云ふ方面に見出すこともよく考へねばならぬ更生の途であります。それと同時に、或は——この現在の悲痛に鑑みて——それよりも先づ、母や兄や幸子が在世して居た當時の愛を、矢張り、母、兄、幸子を對照として更新して行くところに、幸福の資源を求めて行かねばならぬと、私は考へて居ります。逝きしものを對照として愛を更新する方法としては、逝きしものが愛して居た人々を逝きしものに代る對照となすべく努めることも出來ます。また逝きし者の人格と所業を痛くも反芻し嚙みしめて自己のうちに逝きしものを把握して行くこともその方法であります。私はその他にも種々方法があり得ると信じ「諦らめかねる心」を以て痛切に考へつゝあるのであります。斯した心持を以て一種の悲しみの哲學とでも云ふべきものを待つことを、自らは認して居り、自己更生の努力をしつゝある所以なりと自認して居るのであります。しかしそうした努力が、

非常に寂しい感じのするものであることを現在體驗しつつあることは、こゝに潔く告白して置きます。晩秋の曠野を行く風のような自分を見出して居ります。さうしてそれが三度に渡る激しい心の打撃に私の心の或るものが挫かれて居るためであると反省して居ります。この反省から近頃時々、アメリカ人がよく言及する「ヤング、アンド、ゲイ」——若さと歡喜——という言葉を想起します。若さと歡喜、これを失つたら、これを欠除したら、何人と雖も、彼の後方には死の影が漂ふであらう。彼は何事もなし得ないであらう。現在私の心の内で挫かれて居るものは、これではなからうか。逝きしものを對照に愛の更新をはかり、更に社會愛人類愛といふような方向にまでも愛の擴充を努めんとするに當つて宜敷私は、運動でも趣味でも、何でもいゝ、健全なる機會を掴むで、若さと歡喜の回復に努むべきであると反省して居ります。以上心持の一端を述べて御挨拶に代ふると共に斯かる新生志願の後輩の私に對しこの上とも皆様の間斷なき御鞭撻を御願致す次第であります。(十二月四日稿)



景實の島 豹海太 樺
で群鳥のベツロがのるへ見くき小に上殿方左
るあで群イセトツオがのるおに地平方右

一切の中に於て最も重要な問題である事と見て、私は國民をして其政治に注意せしむる事と我國の物價を引下げて全世界中第一の安値とする事とが最も急務であると信ずるものである。

蓋し、往時に在つて藤原氏が專横を極めたのも、武將が戰鬪を逞ふしたのも、將た又最近に至つて大小の政治家が殆んど例外なく腐敗して居るのも、皆之れ國民が其政治に無頓着であるからである。私は、野蠻人と雖之を當才的に見て決して馬鹿ではない、只彼等は自己一身の利害にのみ急にして國家に於ける共同の利害即ち其政治に注意せぬから、其政治が腐敗し延いて其生活を必迫せしめ其智識を増進せしめ得ぬのである、と信じて居るものである。従つて如上兩者の中、之を我國の現状としては國民をして其政治に注意せしむる事の方が根本的に必要であるが、更に之を反面から見て、我國民をして其政治に注意せしむるが爲めには國民の生活に餘裕あらしめ其智識を増進せしむる事が必要で

ある。而してそれには我國の物價を全世界中第一の安値となし我國の産業を發達せしむる事が必要である。否な我國の物價を安値にして直接には國民の生活に餘裕あらしめ間接には外國貿易と共に産業を發展せしむる事によつて其智識を増進せしむる事が第一の急務である。

蓋し徳川氏の三百年間を通じて我國の人口が二千五六百萬人であつたのに不拘、明治以來今日に至る六十二年間にして舊日本内丈だけで六千三百萬人即ち二倍四割に達する人口を包容して兎も角も民衆の生活を今日の程度に向上せしめたのは、明治以來外國貿易が開けて商工業が擴張せられたからである。云ふ迄もなく、我國に於ては土地に限りがあるから農業は地域的に行詰つて居るのに反して、今日迄は素より今後と雖何程にても擴張の餘地があるものは外國貿易と商工業とである。然るに現在に於ける我國の外國貿易は從來交通の便利がなかつた地方に對して擴張する以外は、現在の物價を以てしては最早擴張の餘地

がないのである。之れ現在我國に於ける一切の行き詰りと共に我國の外國貿易が引續きたる輸入超過にあつて金解禁が出来なかつた主なる原因である。従つて之を金解禁以後の財界に處する上から云ふても、又は之を我國の外國貿易を擴張する上から云ふても、我國の物價を引下げる事は急務中の最急務である。而して外國貿易に於ける口錢は通例百分の二乃至五を標準として居るのであるから、此際我國に於ける現在の物價を百分の五の程度丈けでも引下げる事が出来れば、我國の外國貿易は一大飛躍をなし得るのであるが、更に現在の物價を三分の一乃至四分の一の程度に引下げる事が出来るに於ては、我國の外國貿易と共に商工業の發展は如何なる飛躍をなし得るであらう乎、私は此事を思ふ毎に所謂神飛び魄鳴るの思ひがするのである。而かも此程度の物價（即ち生活費）の引下げが出来るに於ては、現在に於ける勞資問題の如きは忽ちにして煙散霧消するのみならず、更に民衆の生活に於て大々の餘裕を生ずるから、教育の

普及と共に智識及び道德に於ける極度の發達も亦期して俟ち得べく、我國に於てユートピアの社會を出現する事は眞實に容易である。而して我國の物價（生活費）を其程度に——然り現在に於ける三分の一乃至四分の一の程度に——下落せしむる事は、土地を國有として地料又は小作料の全部を政府に收納すると同時に一切の獨占權を全廢しそれ等の收入によつて一切の政費を辨じ兼ねて現行一切の税金を全廢する事によつて、一舉に成就し得るのである。

二、由來人間は平等である。否な平等であらねばならぬのである。而かも我國の現在に於て平等である乎の如く見へるのは、政治上の平等に過ぎぬので、之を經濟上としては各種の獨占權が存立して人間が平等でないから、——經濟上の平等がない政治上の平等はナンセンスである、——現在の如き貧富の懸隔を生じ延いて國狀の行詰りを來して居るのである。従つて獨占權は之を單に人間が平等であらねばならぬてふ点からのみ見ても直ちに全廢せられねばならぬもの

であるが、更に我國の物價を引下げ外國貿易と共に商工業を極度に發達せしむる上から見る時は一日も之が撤廢を猶豫する事の出來ぬものである。

三、社會が共存共榮の壇場であるのに就ては、總べての個人は直接と間接とを不問各自に生産して之を社會に提供し（賣却し）互に有無交換（買入れ）するに於ては、現在の如く生産する者が其生活に窮して生産せぬものが贅澤であること云ふが如き變態を生ずる事はないのであるが、而かも事實は其反對にして我國の社會が全然行詰つて居るのは、直接には獨占權によつて、——我國の如く土地が狭小であるのに反して人口が饒多である國に於ては特に高値である地料によつて——、間接には獨占權によつて其高率を維持せられて居る利息又は事業の利潤によつて、自己は生産せずして他人の生産したものを奪掠して生活するものがあるからである。

四、而して現在我國に存立して居る獨占權は大畧左の四種である。

甲 日本銀行・朝鮮銀行及び臺灣銀行の如き紙幣發行銀行並に正金銀行以下政府の特別保護による各種の事業。

乙 關稅の保護による各種の事業。

丙 礦山・電燈・電力・水力電氣・瓦斯・鐵道及び電氣鐵道等特殊の地形を利用獨占する事業。

丁 土地の私有制度。

五、前項四種の獨占權中に在つては土地の私有による弊害が最大にして最惡であるから、私は眞先きに土地の私有を廢して之を國有とする事を主張するものである。而かも土地の國有にして急に實行する事が困難であると思はゞ、（事實は容易であるが）、地租の増徴を以つて之に代用すべきである。

六、更に人間は個人的であると同時に社會的であるのに不拘、兩者の比較に於ては個人的である事の方が主で社會的である事の方が従である。従つて人間は個

人的である上に於ては絶對的に自由であらねばならぬが、單に社會的である上に於ては政治上には社會の公安を害する事項と經濟上には他人又は社會に損害を生ずる獨占權とに關して共に制限を受けねばならぬものである。

七、斯くて其結果は之を現在に比して著しき自由の擴張であるから、政治上には衆智を盡さしむると共に其政治を簡單化する所以であり、經濟上には現在社會に於て貧富の懸隔を生じつゝある獨占權の排除であると共に民衆の生活を豊富にする所以である。而して民衆の生活に餘裕が出来れば其教育が發達し智識が向上するから、思ひ切つた自由の擴張も亦何等危險を生ずる恐れがないのである。

八、人間は個人的であるから自己の利益を重んずるのである。而かも人間は社會的であるから他人の利益を尊重せねばならぬのである。否な自己の利益を全ふするが爲めには他人の利益を尊重して之と協調せねばならぬのである。蓋し他

人の利益を尊重する事は自己の利益を全ふする事の延長であり且同一心理に出發するものである。

由來宗教家又は聖人と稱するものは「自己の利益を後にして他人の利益を先にせよ」と説くから、折角の教へが感情的には美であるが道理的には不合理にして人情に反すると共に其實行が不可能である。之に反して私の説は他人の利益を尊重するのは自己の利益を全ふする所以であると云ふのであるから人情に合すると共に其實行が容易である。

以上一切の獨占權全廢と自由の擴張とは、私の著書の總べてを一貫して居る理想である。私は私の著書を読んで頂く各位に對して豫め之がお含み置きを願ふのである。

尙重ねて希望する事は、私の著書が私の實驗を主として居る上に於て、書中に引照して居る事實の多くが直接又は間接に私が接觸した方々に關する事柄である

のは私としては止むを得ぬ事であるのに就ては、私は特に匿名として御迷惑のない様に努めたと同時に何等私心を挟んだ結果でないから、各位は社會の爲め之を諒とせられたいのである。

最後に本書の發行に際して私の店員竹内秀夫氏は本書に於ける原稿の整理並に印刷の校正等に關して殆んど其全部を擔當せられたのである。私は此機會に於て感謝の意を表す次第である。

昭和四年十一月

著者 秋守常太郎

目次

第一章 私の旅行	一
第二章 樺太に關する概況	六
第三章 樺太に於ける産業	三
第四章 樺太に於ける政治上の腐敗	三
第五章 樺太に於ける交通	三
第六章 樺太に於ける政友會と三井系	七
第七章 産物から見た中國と樺太との優劣	四
第八章 樺太に於ける長所	四
第九章 樺太に於ける雜件	四
第十章 北海道に於ける米作	五
第十一章 北海道及び樺太に於けるローングラス	六

第十二章	房州に於ける仁右衛門島	五
第十三章	驛	七
第十四章	大東京市の人口	七〇
附 録		
第一章	民政黨政府に於ける緊縮と節約	八一
第二章	無産黨に於ける借家賃値下げ運動	九六
第三章	私が政治の實地運動に關係せぬ理由	一〇四
第四章	小商工業者の資金難	一一三
第五章	政治的腐敗の根源は政黨員にあらずして一般民衆にあり	一二三
第六章	地方政治と政黨色の排斥	一三六
第七章	美術は果して尊ぶ可きものである乎	一四九
第八章	生産の制限	一五九
第九章	現在の不景氣は此後何ヶ年を繼續するか	一六六

第十章 雜 件	一七一
イ、金儲はツマラヌものであるが職業は愉快なものである	一七一
ロ、地主に先見の明があつたとして	一七四
ハ、人間味があると云ふ事	一七五
ニ、社會的 事業	一七六
ホ、政友會に於ける地租移讓と民政黨に於ける地租法	一七六
ヘ、我國婦人の解放	一七九
ト、尊敬せらるゝ人間となれ	一八二
チ、尊徳先生と借財	一八三
リ、我國人の感激性	一八四
ヌ、北米人の文明と社會相	一八六
ル、都市に於て極貧者が多數である事に就て	一八七
ヲ、個人の生活方法	一八八

第十一章 自由に對する私の理想 一九〇
第十二章 靈魂の有無に就て 一九五

樺太土産

第一章 私の旅程



私は本書に於て本年夏期に於ける私の樺太旅行に關して記述するに先ち其旅行日程に就き説明する。

私は夫婦帯同で八月十六日の夜行にて出發東京市を經由北上したのであるが、私が暑さ嫌ひである關係上責めては北海道に於ける片道だけでも汽船に頼らんとした結果、十八日午後七時青森港から近海郵船千歳丸に乗船したのであるが、之れは二つの点に於て私の失敗であつた。

其一は、同船が荷客船であつた關係上十九日午後から二十日午后迄の一日間を小樽港に碇泊したのに就き、私は同港から札幌市に往復して道廳に就き同道に關する出版物を貰ひ受けた等同日を空費せなかつたとは云ふても、尙同じく乗船するとすれば寧ろ小樽港から乗船すべきであ

つた事である。其二は、私に於て同道の各地を通じて数回の往復を重ねて已に充分に詳知して居るのであれば夏期の乗船は必ずしも不可ではなかつたのであるが、同道は十ヶ年前約一ヶ月間を費し當時に於て開通して居つた鐵道の全區間を乗廻して可なり詳細に調査して居つたとは云ふても、それ以來相當の變化を來して居るのに加へて當時見落して居つた箇所も亦相當に多數であつたから、私は暑熱を忍んで往復共に同道に於ける陸上を視察すべきであつた事である。斯くて私は二十一日午前十時大泊港上陸正午同驛出發午後二時豊原町着直に島廳に出頭同島に關する豫備智識を得るが爲め各種の質問をなし且同島に關する出版物を貰ひ受け、翌二十二日は同町内を見物し、廿三日は川上線により川上炭山に往復し歸途小沼驛に下車して廳立農事試験場を見學し、二十四日は豊眞線により西海岸に出で先づ南の方本斗町に至り直に引き返して同夜は眞岡町に一泊、二十五日は北上樂磨驛に下車廳立水産試験場を見學の上西海岸に於ける鐵道の終点である野田驛に下車更に自動車にて北の方泊居町に至つて一泊、二十六日は引き続き自動車にて北上久春内に至り轉じて東海岸に於ける眞縫驛に出でたのである。而して通常なれば直に引続き北行する筈であつたが豫ねて島廳水産課から指示せられて居つた處によれば、

全く單調にして殺風景である樺太に在つては、二萬有余の海豹と數十萬羽のロツペン鳥とが集合する事によつて眞實に唯一の見物個所であると同時に世界的に有名である海豹島行の最終航船が、九月一日に北の方敷香村から出帆する由であつたのに就ては、當日眞縫驛から直に北行したのでは二三日間の余日を生ずる恐れがあつたから、當日は殊更に南行して落合町に一泊し、二十七日は豊原町に引き返し同日は同町に滞在して歸途同町に於て辨すべき用件を先きに済ませた上で、二十八日から再び北上し同日は東海岸に於ける鐵道の終点である知取驛に着して一泊。翌日は引続き北上の豫定であつたが不幸にして前日來の暴風雨による出水の爲め途中の橋梁が墜落して自動車不通であつたから止むを得ず二十九日は同町に再泊。三十日は三四十噸級の發動機船に便乗して船量に悩みつゝ途中新間村に上陸、同村から自動車にて同々敷香村に着し直に海豹島行の便船に關して問ひ正したのであるが、如何なる間違ひであつたか同便船は已に去る二十八日同島に向け出帆し同日は同村に歸着して居つたから、私共の同島行は遂に其目的を達し得なかつたのである。而かも敷香村から南行の道路は依然として不通であつたから九月三日迄同村に滞在し其間東の方多來加湖及び北の方幌内川に於ける網場（流送材木の仕

譯箇所であるが一ヶ年間の輸出量二百萬石と云ふのであるから随分の壯觀である、等を見物し、三日自動車にて知取町に歸着。四日豊原町に歸着。五日午前十一時大泊港發にて樺太を出立同夜は北海道稚内港着一泊。六日旭川市着一泊。七八兩日札幌市宿泊。九日大沼着宿泊。十日函館市發乗船十一日夜東京市着。十二日から再び東京在住の實姉を帶同し三人連れにて十六日迄房總地方を遊歴し、十七日に歸宅したのである。

以上此回の旅行は往復三十二日間にして樺太の外北海道及び房總地方を遊歴したのであるが、其主なる目的地が樺太であつたから本書は題して樺太土産としたと同時に其記述も亦同島關係の事項を主とし兼ねて其他の地方に關するものを併記し、更に附録として五六の論文を輯録したのである。

茲に於て附記せねばならぬ事は私の旅行方法である。私は元と田舎に於ける炭屋の出身であるから、私の壯時に於ける旅行が、營業本位であつたと共に汽車も汽船も三等であつた事は云ふ迄もなく朝は早朝に出立し夕は通例七八時に至つて投宿する等、時間と身體との許す限り無理な努力を續けたのであるが、近來は自分ながらに幾分の老境に入つたのに加へて旅行の目的

も亦營業を離れた研究が主となつて來たから、其旅行を合理化する意味に於て通例朝は七時を中心として出立し夕は五六時に於て投宿して一日の旅程を十時間程度に止め、旅館は上中共に其料金に甚しき差がないから成るべく多くの休養をなすべく精々上等の旅館（ホテルがある限りはホテルに）に投宿する代りに、初めてにして且珍らしき區間を通過する内地の旅行に在つては三等汽車に乗車し、（二等車は話が出來ぬから）、私の坐傍に乗車するものが大工であれば重寶、百姓であれば尙更、官吏であれば一層に結構であるとして、片つばしからそれ等の一切を煩はしてありとあらゆる事を問ひ且尋ねた後は、私の土地國有論に就き宣傳するのに加へて日々の新聞は素より旅行案内記の類に至る迄一々入念に目通しをするのであるから、私の旅行は頗る多忙である。而して私は文字を書かぬ上に於て書記を連れる代りに私の妻を帶同してその代理を勤めて貰ふ事にして居るのである。

第二章 樺太に關する概況

本章に於ては樺太に關する記述に對して豫備智識とも云ふ可き事項に就き説明する。

先づ記述を要する事は近來内地に於て頻りに樺太に關する團體旅行が發起せられつゝあるが、それ等の多くは時日と經費とを切り詰める結果同島に於ける旅行の區域を概して大泊町及び豊原町に止めて居る事に就てある。蓋し同島の現状は以下に於て記述する通り亂雜と無秩序とを特色として居るのであるから、同島を理解する爲めには少くとも東西兩海岸に於ける郡部地方に入り込んで視察せねばならぬのに不拘、兩町は同島内に於て共に人口二萬五六千人を有して最も内地化したる最大の都市であるのに加へて、兩地間の距離は僅かに二十哩にして其間郡部と稱する程の土地を通過せぬのであるから、恰かも臺灣に於ける基隆及び臺北の兩市間と同一の事情にある土地である。従つて單に兩地を視察するだけでは到底同島を理解し得ぬのみならず却つて同島を誤解する恐れがあるのである。

同島に於ける地勢は東西兩海岸に切迫して同島の南北を縦貫して居る各獨立したる兩山脈を有して居るのであるが、其内の西海岸にあるものは南北に連續して其最高峯は四千三百尺に達するものがあるのに反して、東海岸にあるものは其中央部に於て海中に没して居る結果北部と南部とに兩斷して其高度も亦之を西海岸のそれに比して低劣である。而して同島に於ける低地部は東西兩山脈の中間に介在して同島の南北を縦貫して居るのである。

同島は明治四十年同島に於ける始政以前己に日露兩國民が住居して居つたのであるが其數は云ふに足らぬ少數であつたから、之を大体に見て同島は全島を通じてエゾ松及びトド松を主とする針葉樹を以て被覆せられて居つたものと云ふべく、(其名は樺太であるが事實に於て樺は僅少である。従つて主として樺材を原料として居る木炭は現在に於てすら己に同島内に於ける需要を充たすに足らず其幾分は北海道から輸入せられて居るのである)、従つて針葉樹の材積が多量である事は驚く可きものにして、毎年六七月の頃に於ける島外輸出の最盛期間に在つては之が積取りの爲め一千噸級乃至七千噸級の大小汽船三百艘を要しつゝあると云ふのであるから、實に豪勢である。而かも現在の如き島外輸出(約一千萬石)は此後十五ヶ年を支ふるに過

ぎぬであらうと云はれて居るのであるから、何時もながらに我國人は「逢ふた時に笠を脱け」てふ主義によつて天恵を暴殄しつゝあるのである。

同島に於ける産業の内其最なるものは鯨を主とし鱒及び鮭を従とする漁業と、伐林業及びそれを原料とするパルプ工業と、石炭採掘業との三大産業にして、農業其他一切の産業は皆無と云ふ可き状態である。而して鱒及び鮭の類が如何に安値である乎は、平常に於ける通り相場が一尾十錢にして最も多量に漁獲せられた結果肥料にでもせねばならぬと云ふ場合に至れば一尾一二錢に下落する場合がある由である。鮭は私共が行つた當時が秋鮭が漁獲せられ初めたので所謂大走り時であつたが尙其最大にして一貫五六匁大のものが一尾五十錢であつた。更にそれ等の魚類が如何に多量である乎に就ては私共が行つた當時でも或る場所では小さき手玉網（直徑三四尺位の圓形の網）を以てして漁獲しつゝあつたのによつて之を知るべく、最盛時に至つては之を手攫みにする事も亦容易である由である。

同島に於ける石炭も亦比較的に多量にして我國の總埋藏量が五十五六億噸であるのに對して同島は其内の十一億噸を有して居る由である。然かし其品質は私は全くの素人であるが九州に

於ける唐津炭に似て頗る劣等であつた様である。

同島に於ける氣温が低度である事は、私共が行つたのが八月下旬であつたのに不拘、晝は開着のシャツと洋服三ツ揃と外套とを重ねて尙寒さを感じたと同時に夜は浴衣に綿入の丹前を重ねて着用したのであるから、大阪地方に於ける十月下旬の季候に相當して居つたのである。若しそれ冬季に至つては、東西兩海岸を通じて海上遠く三四里の沖合に至る迄四五尺の厚さを有する海水を以て張り詰め汽船の荷役は其氷上に於てすると云ふのであるから、如何に低温である乎を知るべきである。而かも同島の緯度は其北端に於ける境界線が北緯五十度にして、之を北歐に於けるベルリンが同五十三度、倫敦が五十二度、スカンヂナヴキヤに於ける兩國の首府が共に六十度、であるのに比して、餘程の南方である。但し彼我に於ける氣温は必ずしも緯度の差にのみ準ぜず別に其海岸に於ける寒暖兩海流の關係によつて相違するのであるが、尙恐るべき程度ではないのである。

同島に於ける氣温が低度である結果同島の低地部は素より高地部と雖苟も平坦にして雨水の停滞する個所に在つては年々成長する雜草が全く腐敗し切らずして其儘に滞積することは北海

道に於ける泥炭地に比して一層である。同島に於ては之をツンドラ地方と稱して居るが其最も厚き層を有する個所は一丈五六尺に達するものすらがある。而して其面積は同島に於ける平坦部の全部を通じて居る結果同島中到處の飲料水は殆んど全部がツンドラから出る灰汁（アク）によつて茶色を呈して居るのを見て如何にツンドラ地方が隨處に廣大である乎を知る可きである。斯くて同島に於ける土壤は發酵作用を受くる事が少ないから生硬にして其生産力は低劣である。（學術的に之をポドソルと稱する由である）。而かも之を獨逸其他歐洲北部の諸國に比して必ずしも之を改良し又は之に適當する作物を發見する事が絶對的至難事ではないのである。而して甜菜・燕麥・ジャヴァ薯等が最も適して居る由である。而かも同島に於ける農業に關して最も必要な條件は第三章に於て説明する通り同島に於ける生活費を安値ならしむる事である。

同島に於ける氣温が前述の通り低度で其土地に於ける生産力が低劣であるのに不拘、同島に於ける夏季に在つては朝は午前三時に於て朝暈を見夕は午后十時に至つて日没するのであるから、太陽の光線を受ける時間が長い、従つて雜草の如き軟性植物は其成長が容易にして其長さ

は通例人頭を没する程度である。而して此の如き長さを有する雜草が枯稿した春季に於て一旦火を失した場合は忽ちにして大火となり續いて山林に延焼するのであるから、同島に於ける山火事が頻繁にして且猛烈なのである。

最後に同島に於ける山火事が猛烈である事は一度同島に旅行したものゝ驚目する處にして、私共が汽車又は自動車によつて行き得る限りの土地に於ける林木は悉く山火事によつて消失して居ると云ふても過言でないのである。之に對して島廳は到る所に各種の立札をなし喫煙其他による野火に對して戒飾して居るのであるが、私の聞いた處によれば其山火事に於ける主なる原因は、機關車の煙突から排出するフランが枯稿したる雜草に燃え付く爲めと、伐林請負業者が許可區域外に亘つて伐採した結果其犯跡を胡魔化す爲めにする放火とである由であるから、無数の立札によつて戒飾せられつゝある民衆こそは何時もながらに其失費の負擔と共に良い面の皮と云はねばならぬのである。

第三章 樺太に於ける産業

前書き。本章は「第十章、北海道に於ける米作」を併せ通讀せらるゝ事を希望します。

現在に於ける同島の産業は、漁業と伐林業及び其伐林を基礎とするパルプ工業と石炭採掘業との三産業を主とし、農業は北海道其他からの輸入品に壓倒せられて同島内の需要すら充たし得ず従つて未だ獨立したる産業の域に達せず單に如上三産業に對する副業的地位に過ぎぬのである。而かも既述三産業の内、伐林業は現在に於けるが如き島外の輸出は大体に此後十五ヶ年間を支ふるに過ぎぬと云はれて居る。又漁業は鯨を主とし鱈及び鮭を従として、其等の魚類が産卵の爲め同島及び北海道の海岸に近寄り來るのを漁獲すると同時に、從來は北海道のみにて漁獲しつゝあつたものを近來は兩地を通じて漁獲するのであるから、大体に年々其漁獲高を減する傾向にあるのである。若しそれ石炭の採掘業に至つては何時乎は其命脈の盡きるべき時期がある事は云ふ迄もない處である。如此同島の主産業は、何れも過去の天恵に依頼するものに

して漸減の傾向があるのに加へて新に生産を増加する所以である農業は既述の如く獨立産業たる域に達せぬのであるから、同島の現状は恰かも何等生産の業に努むる事なき放蕩兒が日々祖先以來の資産を蕩盡しつゝ徒食して居るのと同である。而して同島に於ける農業が不振であるのに就ては當局は始政以來日尙淺く萬事が草創の際であるから止むを得ぬものであると云ふて居るのであるが、私は斷じて首肯し得ぬのである。何となれば同島の農業は、同島に於ける土壤が劣等であるのと、同島に於ける氣温が低度であるのと、同島に於ける日用品が内地からの輸入に待つて居る關係上同島に於ける生活費と共に常に二三割方の高値であるのと、同島に於ける労働賃金が同じく三四割方の高値にあるのと、及び同島に於ける運輸と交通とが不便利である爲め同島に於ける運賃が高値であるのと、等の結果、同島に於ける農作品の價格が高値にして島外輸出が絶対に不可能であるが爲め之を發達せしめんとするも發達せしめ得ぬのである。此の如く同島に於ける産業が單に過去の天恵に依頼するのみにして新に生産する所以の農業が不振である結果は同島に於ける人口の増加が遅々として進展せぬのである。蓋し同島の面積は北海道の二分の一にして二二三九方里であるのに不拘、始政以來二十三ヶ年の今日に至つ

て其總人口は僅かに二十三萬人に過ぎぬのであるから、一ケ年の平均増加数は一萬人である。之れを東京市及び大阪市が共に同じく七萬人づゝ其他の四大都市が平均三萬人づゝを増加しつつある事實に見て、私は樺太に於ける拓植が失敗であつた事を斷言するものである。況んや其遅々たる人口の増加も亦同島に於ける天恵の残存する間は引續き増加するであらうが、早晚其等の天恵が絶滅した後は嫌やが應でも農業を主として立たねばならぬのに不拘、其農業が今日の儘の政治では到底發達すべき見込がないのに就ては、同島に於ける人口は早晚漸減の傾向にある事も亦明白である。殷鑑遠からず、北海道は大正七八年頃迄は年々平均四万五千人宛を増加したのに反して、それ以來は當局に於て移住の奨励及び第二期拓植助成法の實施等を以てするのにも拘り増加数は二万五千人に減じたるのみならず、内地に於ける農村は已に久しき以前から年々其人口を減じつゝ所謂農村荒廢の事實を暴露して居るのであるから、同島に於ける人口が一定の年限以後に於て漸減すべきは明白である。

私は同島到着後數回に亘つて樺太廳に出頭して同島に關する豫備智識と共に出版物を求めたのであるが、島廳の官吏が頻りに各種の事業に對する保護を口にして居つたのに關しては片腹

痛く感じたのである。由來私設の事業が官設の事業に優つて其業績を擧げつゝあるのに就ては民間事業家が官吏に優つて居る事は著明の事實である。然るに彼等は彼等の保護によつて民間事業を發達せしめると云ふのであるからリデキュール（笑ひ事）である。殊に官吏は民間有志の言に聞いて兎角の施設をせねばならぬのに不拘、勤勉にして眞面目なものは概して官廳に入せず主としてイカサマなる利權屋が出入するのであるから、官吏に於て適當なる施設をなさんとするも得ぬのである。加ふるに保護てふ言葉は反對の意味に用ひられて居る場合が多いのである。即ち牛馬を保護するてふ言葉の裡には廳がては取つて之を喰ふと云ふ意味が含まれて居る。又我國が朝鮮を保護し英國が埃及を保護しつゝある結果は世間周知の次第である。若しそれ保護關稅に至つては多數の國民をして高價なる物資の使用を餘儀なくせしむる所以のものである。云ふ迄もなく私は政治的保護の内には人權の保護又は盜難に對する保護の如き之れなかるべからざるものがある事を知つて居る。従つて保護の總べてが悪いと云ふのではないが其多くは政治的保護であると同時に消極的保護である。而して經濟的保護に至つては殆んど其總べてが無用有害であると共に民衆の要求しつゝあるものは保護にあらずして各種の束縛及び干

涉からの解放である。私は同島は素より一般官憲に於て此解放てふ言葉に就き沈思熟考せられん事を勧告するものである。

經濟的保護が無用有害である事の他の證據としては同島に於けるアイヌ族保護がある。蓋しアイヌ族保護は我國政府が其柄にもなき博愛心から亡び行かんとする同族人を保護する爲め同島に於ける全部の同族人を三四ヶ所に集合せしめて之を文字通りに保護しつゝあるものにして、其施設が完備して居るのに加へて私が視察した西海岸白濱驛に於ける收容地の如きは穩健にして誠實なる伊藤清勝氏によつて指導せられつゝ先づ申分のない保護が與へられて居るのであるが、其後他方面に於て耳聞した處によれば、斯くて内地人から分離して彼等のみを集團せしめた結果は、彼等に於ける競争心を消磨して其刺戟を失はしめた結果一層に時代遅れとなし彼等の自滅を早めつゝあると云ふ事であつた。私は早計に之を茲に論斷し去るのではないが、其云ふ所に對しては一應首肯せねばならぬ理由がある事を信ぜざるを得ぬのである。斯くて保護は其動機が純粹に善意のものであつても尙且其結果は往々にして不可であるから之を濫りにすべきものでないのである。

更に島廳の某課長が、「農業の基礎は農地である。従つて農地を安價にする事は農民の負擔を減じ延いて農業を發達せしむる所以であるから、島廳では農地を無代價と無地租とを以て貸下げ又は拂下げて之が發達を助長して居る」と云はれたのに就き、私は余りのおかしさに堪へなかつたから以下の通りに告げたのである。

「察するに島廳は無地租を以て土地を交附する事によつて同島に於て自作農を確立せんとして居らるゝのであると信するが、其實島廳は、以下の事實に心附かぬものである。

(甲) 無地租を以つて土地を交附する結果は其土地に對して相當高價なる賣買代價を生ずるか、年二割又は三割の利息を要する資金を借らねばならぬ農民即ち實際の耕作者は、年五朱乃至七朱の利息を以て満足する資本家即ち地主に對抗する事が出来ぬ、従つて土地は何時しか資本家即ち大地主に兼併せられて實際の耕作者は相率いて小作人に成り下がるから、島廳に於ける折角の恩惠は地主即ち資本家を利益するに止まり實際の耕作者は之に與かる事を得ぬものである。

(乙) 土地を無地租とする結果は他の諸税を重課せねばならぬから物價を騰貴し延いて生活費

を向上せしめて、一般労働者と共に實際の耕作者を苦しむるものである事。

(丙) 自作農は實際の耕作者と地主との兩資格を有して居るものである事。

(丁) 従つて土地を無地租とする結果は、自作農に關しては其地主たる資格に於ては利益せしむるも、實際の耕作者即ち労働者たる資格に於ては不利益を蒙らすものである事。

(戊) 而して彼此の差引に於て實際の耕作者たる資格に於ける不利益の方が遙かに地主の資格に於ける利益に比して甚大である事。

(己) 斯くて地主の利益が莫大である結果は、何時しか實際に耕作せざる資本家をして何等乎の口實を設けて廣大なる土地の拂下げを受けて之を耕作せず、其儘に放置して其土地に於ける自然の値上りを待つ者を生ぜしむる事。

(庚) 之が事實の一例として、私が同島上陸後大泊町から豊原町に至る迄の汽車中に於て聞いた通りに、某利権家が同區間に於ける鐵道沿線の兩側に於ける廣大にして理想的なる土地の拂下げを受けて之を其儘にして現在は東京市に住居して自然の値上りを待つて居るてふ者がある事。

以上島廳に於て農地を無地租とする結果として地主を利益するも實際の耕作者を利益する事はないものである。

私は私の行文を簡單にする爲め以下直ちに私の意見を開陳する。島廳に於ける昭和四年度の豫算は其収入が二千五百九十餘萬圓にして國庫の補助額三百六十萬圓は其以外であるが、同島に於ける各地の道路は險惡の限りを盡して居るのみならず東西兩海岸に於ては其幹線道路すらも其三分の一は未完通である程に其財政は窮乏して居る。而してそれは同島に於ける地租が輕微であるからである。之を事實に徴して豊原町以下各町村の宅地に於ける一坪の賣買代價は最高二百圓を稱ふものすらがあるのみならず、現在に於て不振を極めて居る農業土地にして尙且其開拓が容易であつたものは其開拓に要した金額以上に相當高價の價值を有して居るものが多數である。其他漁業場に至つては單なる権利のみにて最底四千圓最高七萬圓を有して居るものがある。而して其等の地價及價值は、其等の地主又は權利主の努力によつて生じたるものでなく、同島に於ける人口の増加によつて其等の土地が繁昌した結果であり且天然に於ける漁利によるものであるから、それ等の賣買地價及び代價が消滅する迄其稅額を増加するも何等差支へ

がないのみならず之を増徴するに於ては同島の財源は不足を告げる事がないのに不拘、同島に於ける宅地に對する地租の全部は僅かに八千九百三十六圓に過ぎぬ少額にして漁業税も亦云ふに足らぬ少額であるから、島廳に於ける収入が不足するのである。換言してそれ等の土地の地主が其土地の改良に關して投資した資金以上に相當する賣買地價の全部が消滅する迄其地租を増徴するに於ては、嘗に島廳に於ける現在の財政に於て不足を告げる事がないのみならず更に多額の剩餘を生ずるのである。斯くて其剩餘を以て一切の税金を全廢するに於ては、(私は其可能を確信するものである)、同島に於ける物價が下落する。假りに同島限りに於て酒税と煙草の專賣と各種の輸入關税と其他の税金とを廢止すれば同島に於ける物價が三分の一乃至四分の一に下落する。而して其結果は同島に於ける一般の生活費が安價になり、従つて同島の農業に關して既述の如き不利益があつても同島に適當したる農作品の價格は之を内地又は外國のそれ等に比して安價になるから、其等の適品は茲に輸出が可能になつて同島に於ける農業は忽ちにして獨立の基礎を確立するのである。要するに島廳の政策は(内地も同様である)地主と農民とを取違へて地主即ち資本家を保護しつゝある政策である。否な我國の植民地政策は私が毎

度云ふ通りに、「先づ資本を保護する。而して資本が有利であれば事業が興起せらる。事業が興起せらるれば労働者も共に移住する」、てふ主義であるが、實際は假令ひ資本が有利でも内地の労働者を連れて行かぬ事は、撫順炭礦に於ける二萬人弱の労働者と大連埠頭に於ける一萬五千人のクリーとは共に支那人を使用しつゝある事に見て明白である。此の如く我國の植民地政策として先づ資本を保護する事は根本的に錯誤である。之に反して一切の税金を全廢し日用品を安價にして其土地に於て生産しつゝある労働者の生活を容易にするに於ては労働者は何等の保護又は奨勵なくとも自然に移住する。而して其等の土地に於ては生活費の餘剩によつて資本が蓄積せらるゝのみならずそれ等の土地に於ては貸倒れがないから、(現在樺太は素より内地に於ても、貸倒れによる損害が莫大であるから物資が高價に販賣せられねばならぬと同時に、資本も亦貸倒れの損害があるのに加へて運轉回數が少ないから其利息が高率である)、資本の投資場として安全である。従つて資本も亦自然に移入せられて事業が彌やが上にも興起するのである。

而かも以上の政策は、帝國議會の問題にして之を樺太廳としては如何ともする事の出来ぬも

のであるが、島廳にして以上の主意を理解するに於ては自然に中央政府を刺戟する様になるから、私は之を島廳に於て論じたのである。

第四章 樺太に於ける政治上の腐敗

同島に於ける政治が其始政以來常に腐敗に満ちて居つた事は歴代の長官中其少數者を除いては兎角の悪評を受けぬものがなかつた事によつて之を知るべく、特に山林拂下げに關して然りである。左記の一文は此回私の旅行中九月十一日號東京日々新聞紙上に掲載せられた處のものである。

前大官政商に絡む

樺太山林拂下げの不正

すでに証據材料を握つた當局

果てなき舊態の暴露

賣勳事件の進展と共に當局の糺明の手は世上兎角の噂ある樺太山林拂下げ事件にも波及し、近く

其真相が暴露せられると観測されてゐるが、其証據材料の一部は、已に警視廳の手に握られて居ると傳へられてゐるので、或は意外に早く當局の活動が開始されるかも知れぬ形勢である。此樺太山林拂下げ問題は昨年七月以降本年二月迄に認可された四十餘件、約二十万石の木材拂下げ、人絹パルプ用木材拂下げとの二つで昨年七月から認可された四十餘件の拂下げは殆んど一部の政商が要路の前大官や政界の名士などを背景として一種の利權として得たものであるし、認可されたもの、内他に轉賣されたものが已に半數にのぼつて居り、残つたものも大概は轉賣されようとしてゐる事實から政商などが大官や政界の名士の力をかりた利權運動であると思われてゐる。已に其背景となつた人物の分明してゐるものが二十件にのぼり殊に大物と目されるものは、政友會の某巨頭の紹介による某華族の百萬石と七十萬石との二回の拂下げ、某代議士の百萬石、某前大官の百萬石、某前大官と某前代議士共同の五十萬石などで、これ等政商と背景人物との間並びに拂下げを出願するに際して樺太廳の前高官などとの間に醜事實があつたものにとらんでゐる。又人絹パルプ用としての木材拂下げは昨年實業界の有力者某々數氏が人絹パルプ工場を設立する計畫のもとに、拂下げを出願して國境敷香地方の山林一千二百萬石拂下げの認可指令を受けたが、從來樺太に蟠居する王子、富士、樺太工業の三製紙會社が猛烈な反對運動を起したため民事契約を結ぶ段取りになつてゐたも

が、何故か十ヶ月間もする／＼に引きづられた揚句以外にも突然不許可となつた事實にからんで、樺太廳某高官と反對側の三製紙會社との間に醜怪な妥協運動があつたのではないかと云ふ点と、堤清六氏が認可指令のあつた後三社の反對を浴び遂に契約書中にある轉賣不許可の禁止事項を無視してひそかに轉賣せんとした事實について當局の目が光つてゐるが、目下買動で收容中の堤氏はこの出願人の一人で、同人の取調べがこの問題にまで及べば必然的に山林拂下げ問題は其真相を暴露するわけである。

蓋し同島政治腐敗の原因は種々であるが其内の主なるものは、(甲)、中央集權の結果同島に對する中央官憲と共に同島の地方に對する島廳官憲の權力が萬能的であることと、(乙)、其官吏の腐敗に對して之を矯正すべき地方自治の何物もがなかつたことと、である。以下之を説明する。

同島に對する中央集權の結果が同島政治腐敗の原因である事は俗に所謂二階から投ずる目薬が局部に適中せず常に的外れに終ると同一の理由に基くものである。否な二階からの目薬は

單に局部に適中せぬ丈けで特に害毒を生ずる事はないのであるが、其政治が中央集權である結果は往々にして中央政府の大官に緣故を有する政商をして同島官吏を壓迫せしむる所以であるから、同島政治腐敗の原因となるので前掲新聞記事は偶々其等の事情に關して有力に證明して居るものである。而かも同島に對する中央集權の結果は、更に同島の官吏をして同島の地方に對して萬能的ならしむる所以であるのに加へて、同島に於ては從來何等の自治機關がなく此回私共が旅行中に於て町村會議員の選舉が始めて舉行せられた程で、同島議會も亦未だ組織せられて居らぬのであるから、同島に於ては官憲の横暴に對して之を矯正すべき何等の機關がなかつたのである。由來資本家に於て自ら其資本を運用し得ぬのに就き實業家はその代理として其資本を運用する上に於て相當の収入を得つゝあるのに反して、之と對抗して其威嚴を維持せねばならぬ官吏は薄給にして其生活に不足勝であるのに加へて其地位が不安であるから、彼等は自然に誘惑に陥り易い地位にあると共に彼等に與へられたる權力が強大にして彼等の一諾によつて多大の利權が左右せらるゝのに就き謂ふ所の政商が其誘惑を逞ふするのであるから、官吏にして腐敗せざらんとするも容易でないのである。加ふるに官吏の内偶々自ら腐敗すべき下心

のない良吏があつても、彼等に於て其政治を行ふのに就ては是非民間の有志に聽きて其智識を得ねばならぬのに就ては、善良にして眞面目なる者は官廳に出入せぬ偶々之に出入する者の十中八九はイカサマ者にして最初から彼等を胡魔化さんとして居るものであるから、彼等に於て腐敗せざらんとするも亦容易でないのである。茲に於て政治の組織は、地方自治を擴張して煩鎖にして複雑なる政治は擧げて地方に委任すると同時に、中央に於ては著大にして簡單なる事件のみを取扱ふ事とせねばならぬのである。之を前掲新聞記事の場合に適用して同島に於ける山林の如きは之を町村に委讓するに於ては、(其結果は地方自治の擴張である)、嘗に前掲新聞記事の如き腐敗事件がなくなるのみならず、彼の有名なる山火事の如きも亦忽ちにして其大半を根絶し得るのである。而かも此の如く事理が明白であるのに不拘其地方自治の擴張が行はれぬのは、民衆が起つて之を要求せぬのと共に官憲にして其權力を地方に委讓するに於ては彼等に於ける手品の種がなくなるからである。

更に現在に於て同島に對する中央集權と官憲萬能の一原因となつて居るものは同島に對する國庫の補助額が三百六十萬圓の多額に達して居る事である。素より現在に於ける國庫補助額の

全部が其儘に事實上の國庫補助額でない事は明白である。何となれば當然同島の收入に歸せねばならぬ煙草專賣による收入及び内地を通じて同島に輸入せられつゝある日用品に對する關稅の收入等にして現在に於ては國庫の收入に歸しつゝある額も亦相當に多額であるからである。而かも其等の事實は兎も角もとして中央政府に於ける考へ方次第にて決定せらるゝ國庫の補助にして現在の如く多額である結果は、自然に中央集權と共に官憲萬能となる事は當然の成行である。而して國庫の補助が往々にして其政治腐敗の原因となる事は、大久保侯が其分地にして其當時全く荒廢に歸して居つた櫻町の回復を二宮尊徳先生に依囑せられた時に際して、同侯から御下け金即ち補助金交附の御沙汰があつたのに對して先生が即座に、「君公の御下け金は之を好餌として有象無象の雲集を招き其政治腐敗の原因となりますから御無用に願ひます。私は櫻町の自力を以て櫻町を回復する覺悟であります」とお答へになつた事によつて之を知るべきである。蓋し衰弱したとは云ふても櫻町は古來から存在して政治の基礎となる可き道路其他の施設が残存して居つたのに對して、樺太は一切が最初で政治の基礎となる可きものは何んにもなかつたのであるから、一見した處では彼と此とを同一視することは出來ぬ乎の如くである

が、而かも樺太には過去に於ける天惠の蓄積が尨大であるから當分の内は之を引き當として公債を發行するも何等の差支がなく、従つて前掲した當然同島の收入に歸すべき煙草專賣及び關稅等の收入に相當する金額以外に於ける國庫の補助は其必要のないものである。況んや煙草の專賣關稅及び其他の一切の稅金を全廢するに於ては、樺太の收入は樺太の地代となつて樺太廳の收入に歸し絶へて内地と其收入を混交せしむる事がなくなるのに於ておやである。茲に至つて私は重ねて地方自治の擴張を叫ばねばならぬのである。

以上と關連して茲に記述せねばならぬ事は、同島は大は官憲の萬能であると同時に小は資本家跋扈の世界にして、共に同島の上下を通じてヨリ大なる者程がヨリ小なる者を壓迫しつゝある處である事である。其適例として、同島に於ける唯一の工業であると同時に同島に投下せられて居る最大の資本であるバルブ工業が如何に不當の利益を占めつゝある乎に就ては別章に於て説明する通りであるが、之を他に於て、同島に於ける山林の伐採請負業者である何々工業會社と稱するものは、其伐採及び運搬等に關して多數の勞働者を必要とするのに就き其工賃に對

する呼び聲を大にして通例一日金三圓乃至三圓五十錢を以て之を招集するのは可なりとして、却説之が實際の支拂はそれ等の人足が無智であるのを奇貨として、彼等は單に其賃金を約束するのみにて故意に彼等が必要とする米穀其他に關する値段の取極めをせず之によつて不當の高價を貪り労働者の收入を奪ふのに加へて、それ等の労働者が其作業を終つた後に至るも容易に其賃金を拂ひ渡さず、「未だ其請負金の支拂を受けぬ従つて支拂ふ可き資金がないから暫らく待つて呉れ」などと云ふ口實を設けて彼等を引き止めて、其期間を通じて引續き不當にして高價なる米穀其他の日用品を消費せしめて、其賃金をフイにする由である。要するに同島は既述の通り資本が保護せられて居る關係上、資本が絶對的優越權を有するのに加へて其投資が甚だ不確實であるから内地の資本が容易に輸入せられぬ結果、一層に資本萬能となつてヨリ大なるものが順次にヨリ小なるものを壓迫しつゝある處である。

最後に私をして同島に於ける官憲と民衆との關係を如實に表示したものであるではない乎を疑はしめたものに樺太神社の祭禮がある。同神社は官憲が同島に於ける民心統一の爲め造營したる官幣の大社にして、官憲が如何に同神社を重視しつゝある乎は同神社に對する經費一萬三千圓が

同島豫算の筆頭に計上せられて居る事恰かも帝國の豫算に於ける皇室費の如き地位に置かれてある事によつて知り得るのである。而して同神社の大祭は八月二十三日にして私共が同町滞在の中に舉行せられたのであるから私は民心歸向の一徴として特に注意したのであるが、同島人は素より同町人も共に感興を惹き起して居らず一向に同神社に參拜せなかつた様であつた。而して同日に於ける二三の餘興は主として平素其筋の庇護に待たねばならぬ關係にあると共に民衆の人氣を挑發する必要がある遊廓側の發起に止まり、それすらも主として同日に於て舉行せられた同島始政第二十三回記念式の方に重きを置いたものゝ如くで、御大祭の實況は、之を官憲側から見ても「親の心子知らず」と云ふか又は「我等笛吹けども汝等躍らず」と云ふ乎の類で、同島に於ける官民の關係を如實に表示したものであるではない乎を疑はしめたのである。

第五章 樺太に於ける交通

同島に於ける陸上交通は道路と乗合自動車と鐵道との三つであるが何れも同じく言語同斷である。

同島に於ける道路が粗悪である事に就ては私が大泊町に上陸後鐵道により同町を發車する迄の一時間を利用して自動車により同町内を視察した時に全く驚愕したのである。而してそれが如何に粗悪否な險惡であつた乎に就ては、同日が雨天の後であつたとは云ひながら街路の一方の側から他方の側に轉ずるのにすら、長靴を以てするの外絶対に不可能であつた事によつて説明し得らるゝ程度であつた。而かも其後全島を遊歴した結果、豊原町は流石に島廳のある處であるから道路改造の試験てふ名義の下に特に廳費を以て同町内に於ける主なる街路を舗装してあつたが、同町以外は各地を通じて大泊町に比して幾分は良好であつたが甚しき差がなかつたのである。而して同島の官憲が如何に道路政策に不熱心である乎は始政以來二十三年を経過

した今日に於て尙未だ東西兩海岸に於ける幹線道路すら約其三分の一が未完通である事によつて之を知る事が出来るのである。

同島に於ける乗合自動車は割合に發達して其大部分は定期的に發着し賃金も亦必ずしも高率でないのであるが、其道路が既述の通りであるから其車體の損傷が甚しく何れを見ても全く文字通りにガタ／＼であつた事は當然の結果である。而かも茲に見逃し難い弊害は其ドライブアーの人格が下劣になりつゝある点であつた。由來内地に於ける封建時代に在つては雲助と稱する籠夫の人格が極端に下劣であつたが、それが明治に至つて人力車夫となり官憲の取締りと共に稍々改良せられたのに不拘、明治の晩年に至つては其生活の困難と共に次第に其人格を低下し往時に於ける雲助に類似し來つたのである。而してそれが再び自動車夫となつたのに就いては其操縦に關して幾分の智識を要するだけ其人格も亦改良せられたのであるが、近來彼等も亦其生活の困難となるのに伴ひ其人格を墮落しつゝある事は悲しむ可き成行である。而かもそれは同島に限つた問題でなく内地を併せた我國一般の事實であるから結局人格問題は生活問題である。

同島に於ける鐵道も亦同じく不完全である事は同島に於ける官憲が徒らに過去の天恵に依頼するのみにて新に其生産を増加するの念慮に欠けて居る事の一つの證據である。之を事實に徴して、同島に於ける鐵道乗車賃金が一哩に付き官線が四錢私線が五錢（内地は二錢五厘）である事は問はずとするも、尙東西兩海岸に於ける幹線鐵道すら完成せず、財源不足を口實として東海岸に於ける北部幹線鐵道を私線に委ねて居るのに不拘、其資本金に對しては年六朱に達する範圍に於て補助金を與へ、更に三井に於て經營する川上炭山の爲めにする以外に特別の必要を有せざる川上線を官線として敷設して居る等の如き、對財閥結托の結果ではない乎を疑はしむるものがあるのである。而かも其運轉回數の僅少なる事は西海岸に於ける官線が直通四回東海岸に於ける私線が直通二回に止まつて居るが如き實に言語同斷である。而かも其等の鐵道に於ける乗客が僅少である乎と云ふに私が乗車した都度に於ける乗客はボギー車三臺を連結して先づ七八割方の乗車であつた。由來汽船に於ける交通は其乗降が憶怯である結果遠距離の乗客を主とするのに反して、鐵道に於ける交通は其乗降が簡單である結果近距離の乗客を主とするものである。而かも近距離乗客は頻繁に發車せらるゝ事を必要とすると同時に、文化の發達は

一に近距離の交通が容易である事を必要とするものである。之に對して鐵道の經濟は線路工夫と驛員とに對する給料が主で、其運轉費は僅少にして列車の走行一哩に對する石炭費が二十二三斤油脂費が其代金の四分の一に相當する少額である以外は車輛費が主であるから、現在に於て運轉しつゝあるボギー車とテンダーインデンとに代ふるに汽動車其他の輕車を以つてするに於て、其度數を増加する事は容易である。然るに彼等に於て之を實行せぬのは、それ等の會社に於ける首腦部は例によつて東京市に住居して同島と共に其會社に於ける營業の實地に關して暗いのに加へて、彼等は臆がては何等乎の口實の下に何れ乎の政黨にコミッションを與へて高價を以て之を政府に賣り附けんとして居るのではない乎を疑はしむるものである。

更に官線に於て如何に官僚式を發揮しつゝある乎の他の證據としては、東海岸に於ける幹線榮濱驛發上り一番列車は、流石に學校生徒に對して便宜を計らねばならぬから之を午前七時五十分に豊原町に着せしめて居るのに不拘、更に之を殊更に三十五分間同驛に停車せしめて八時二十五分發とし豊原驛以北を急行として同町に往復する官吏と資本家との便利を計りつゝ、豊原驛以北に於ける通過驛に對して不便利を與へて居る事である。其他官線に於ける修繕が不行

届である結果客車のドアにして完全に戸締りの出来ぬものが多いとの如き、又は其掃除が不行届である結果車内が不潔であるとの如き、共に如何に其營業振がフシダラである乎を連想せしむるのである。

第六章 樺太に於ける政友會と三井系

嘗に樺太のみならず北海道も亦政友會と三井系とが多く勢力を扶植して居る事は驚愕に値ひする程である。而して樺太に於ける現在の工業はバルブ工業に限ると同時に其バルブ工業は三社にして、其内の王子は直接に三井系に屬し富士と樺工とは最近に至つて共に三井系に近づきつゝある由である。

樺太に於けるバルブ工業の勢力が強大である事は私共の想像以上であつたが、其因つて然る所以の事情は、バルブ工場の設置せられた土地は須叟にして人口の増加を來し從來六七十戸に過ぎなかつた土地にして忽ちにして數千戸を算するに至る等の事實があるのに加へて、其等の工業會社は其土地に於ける船入り澗（マと讀む小なる港の事である）の築造及道路の開通等に對して多額の寄附をするから、一層に同島の開發に對する福の神の降來として喝采せられつゝあるのであるが、彼等が商事會社であるのに不拘何が故に多額の寄附をする乎と云へばそれだ

け多くの利益があるからである。而して彼等は何が故に其利益が多額である乎と云へば、彼等は一般木材業者に比して安價に其原料林木の拂下げを受けつゝあるのみならず更に其切り出し及び運搬等に關して最も有利なる個所に於て拂下げを受けつゝある等、(木材の切り出しに關する經濟は其位置が便利であることが最も重要な關係を有するものである。例せば同島に於ける原料の拂下げ代金は一石五錢即ち百石が五圓であるのに對して、大阪市に於ける取引値段は百石が六百圓内外にして尙且不引合を唱へつゝあるのであるから、如何に運送費が主なる關係を有して居る乎を知るべきである。)、特別の保護を受けて居るのであるから、結局彼等は既述の通り國家に於ける利益を壟斷しつゝ右に盗んで左に其一部分を寄附して其恩を賣つて居るものである。而かも彼等の不正は以上に止まらずして、彼等は特別な保護に浴しつゝあるのに満足せず、更に其保護に浴しつゝ切り出した原料木材の寸法を一般木材業者に於けるそれと同一にして密かに之を内地に積送り一般市場に賣り出し成行に任せて之を賣り放すから、内地に於ける樺太材市價の暴落を來して一般木材業者をして不引合に呻吟せしめつゝあるのである。以上は私が同島滞在中二三の同業者から直接に聞いた處であると同時に同島引上げ後九月二

十二日號大阪朝日新聞紙上に於ける左の記事によつて之を確めた處である。

樺太森林不正を

根こそぎ清掃する

小坂次官視察から歸へり

拓務省で對策を講ず

小坂拓務次官は樺太の網紀革正問題、森林拂下げに關する不正事件の調査、樺太廳の人事移動其他の要務を帯びて本月初め樺太視察に赴き二十日歸着したが、視察の結果目下問題となつてゐる森林拂下げにつき重大なる不正と欠陥のある事が暴露され、拓務省としては此際根本的對策を講ずる方針なので製紙會社を初め關係業者より其成行を極めて重大視されてゐる、樺太森林拂下げに關する欠陥は主として

一、森林拂下げが實際業者を相手させずして政治的利權關係のものが多く、従つて轉賣が盛んに行はれその間不正利得者が續出してゐる事。

二、拂下げが多く當局に於て圖面の上で行はれ、樺太本支廳と關係なく拂下げられる爲め喜多前長官時代に於ける拂下げ中、全然森林なき地帯が拂下げられてゐるもの四件に及ぶ事。

にあり、従つて拓務省は樺太森林の濫伐、山火事の防止に努める一方、(イ)利權防止のため被拂下げ者の拂下げ森林の轉賣を防止するに共に、(ロ)パルプ原料として安く拂下げられたる木材が、高價に移入される他の木材と寸法同じきため(共に二間七、八寸)彼れこれ選別し難きを以て兩種木材の寸法を異にせしめ、一見パルプ原料なりや否やを知り得る方法を講じてその弊害を矯正せんとして居る。

この製紙會社のパルプ材の内地移出が公然の秘密だけに製紙會社方面に取つては大痛棒だとして拓務省の英斷を期待されてゐる。

更に私と前後して同島に渡航せられて同島に於ける工業關係者として同島の上下から盛大なる歓迎を受けて居られた某會社社長は、同島の某學校に於ける講演に於て「同島開發の爲めには工業を發達せしむることが必要である」と云ふて、暗に自家の功績吹聴に努められたのであるが、私は某氏が莫大なる保護と恩恵とに浴しつゝ其工業を營んで居らるゝ上に見て能くも白ら

くしく彼が如き言を云ひ得たものであるのに驚いたのである。茲に至つて同島は私が既述した通りヨリ大なる者程がヨリ小なる者を虐けつゝある處である。

第七章 産物から見た中國と樺太との優劣

支那に於て黄河及び揚子江の流域地方を中國とし同地を距る事遠きに從ふて之を畿外又は域外と稱して居るのは、直接には地理的關係に於て兩河の流域地方が同國の中心部に相當するからであるが、間接には同地方に於ける地味が豊饒であつた結果同國に於ける最初の國家的集團が同地方に於て發達したる後漸次に其四方に發展したから、自然に同地方が同國に於ける地理的中心点に相當するに至つたと同時に同地方に於ける産物が最も良質であるから、謂ふ所の中國と稱せらるゝに至つたのである。

それと同一の理由によつて、我國に於ても、中國と云へば瀬戸内海を中心とする關西の一部地方を指し、内地と云へば本土の外九州と四國とを併せた舊日本に對する名稱にして中國に準ずる地方であるてふ意味であるが、我國に於ける産物殊に私が知つて居る範圍に於ては木材及び食物類等共に中國を最とし内地を次とし其他の地方を劣等とする事は一見不思議の如くであ

るが、仔細に之を考ふるに於て支那に於けると同様の理由によるものにして不思議でも何んでもないのである。

臺灣に於ける代表的木材は臺檜であるが其品質は一種の嫌やな光澤を有して所謂三等品である。又北海道及び樺太に於ける代表的木材は樺、エゾ松及びトド松であるが云ふ迄もなく安物である。牛肉及び魚類並に野菜類も亦臺灣以下北海道及び樺太を通じて共に不味である事も亦周知の事實である。私は先年臺灣に旅行して同島の各地に於ける一等旅館に宿泊したのに不拘、日々の料理が不味であつたのに就き不思議に思ふたのも亦同島産物が其素質に於て劣等であるからである。

更に此回私は既述の通り青森港から乗船して樺太に直行し同島滞在中は、同島に於ける森林が豊富である事とそれがエゾ松とトド松とによつて成立して居る事のみを注意を奪はれて、潤葉樹が欠乏して居る事に就ては心附かなかつたのであるが、歸途稚内から乗車した第一日に於て北海道に於ける森林が潤葉樹を主として居る上に於て北海道の地味が樺太のそれに優つて居る事延いて其他の産物に於ても亦同じく前者が後者に優つて居る事に心附いたと同時に、樺太

と北海道とが中國を距る事の遠近に準じて其地味に差がある事を確めたのである。
以上は何んでもない事の様であるが中國を事實上の中心として凡百の産物が概して優秀である事は實に面白い事實である。

此機會に於て私が附記する事は、樺太は既述の通り其地味が劣等である結果天然の産物は劣等であつても、過去に於て蓄積せられた資源が豊かであるのに比して其人口が過少である結果其勞働賃金が一日三圓乃至三圓五十錢を標準として高率であるのに加へて、其住民は數百里を遠しとせずして内地又は北海道等から移住したものに於て、(之を内地に於ける民衆の多數が各其縣廳所在地にすら往復した事がないのに比して)、其智識及び見聞が發達して居る結果は、此回樺太に於て始めて始めて舉行せられた町村會議員の選舉に際して其交通が想像以上極端に不利であつたのに不拘、棄權率が一割以内に止まつた事は注目すべき事實の一つであるてふ事である。

臺灣に於ける食物が不味である事に就き、私は同島に於ける旅行中南方からの歸途偶々嘉義町に下車して臺灣料理の饗を受くるに至つて初めて其美味に驚いたと同時に心附いた事は、同島の産物は其素質に於ては不味であつても、古來同島に於て發達して居る料理法を應用する事によつて美味となるものであるてふ事であつた。而して此回樺太を旅行して同島に於ける一切の食物が同じく不味であつたのに就ては同じく同島に於ける古來の料理を應用すべきであるが、不幸にして同島には固有の料理がなく今から之を創設せねばならぬのに就ては、同島に於ける食物の性質に見て支那料理を應用する事が最も合理的であると考へたから、私は到る處の旅館は素より島廳水産課に對しても亦之を語つたのである。而して同島に於ける有志者も亦同じく、同島の産物に對して現在の如く内地其儘の料理を應用するから不味である事に心附いた結果である乎、私共が同島滞在中豊原町の貴夫人達は頻りに各種の試食會を開催して新らしき料理法發見に努められつゝあつたのである。

第八章 樺太に於ける長所

以上私は主として樺太に於ける欠点のみを列挙したのであるが同島に於ける長所も亦皆無ではなかつたのである。其内主なるものは左の通りであつた。

一、同島に於ける炭田の内其主なるものが今日に至つて尙封鎖せられて徒らに利権屋の喰ひものなる事を防止せられて居る事である。之は同島に於ける歴代の長官中稀に見た良長官永井氏の遺策である由である。(而かも同島に於ける政治の現状に見てそれが何時迄合理的に保持せらるゝ乎は疑問であるが)、私は我國の官吏中稀に清廉なる者があつて多數利権屋の猛襲を斥け能く國利を全ふし得た者に對しては永く其徳を稱する事が其政治に注意する所以であると同時に必要であると信ずるものである。

それに就き思ひ起す事は同島の官憲にして是非に神社が必要であるとすれば、別に民幣の神社として一般民衆をして投票によつて歴代の長官其他に就き同島の爲め最も多くの功績が

あつた者を選擧せしめて之を祭祀せしむる事も亦、一方法であると信ずるものである。

二、同島に於ける旅館の多くは、同島に於て労働其他によつて無一物から仕上げた成功者に於て我國従來の習慣と仕來りとを標準として經營しつゝあるのであるから、内地のそれと共に改良すべき餘地が多い事は別項に記述する通りであるが、其点は民間側の事であるから茲には之を措き、同島に於ける規則として旅館と料理業とを分離して居る結果旅館が閑靜にして安眠し得る處である事は、同島政治に於ける長所の一つである。

三、同島の犬が頗る長大にして其風采の堂々たるものであるのに反して其性質が従順である事である。

四、過去に於ける同島の官憲中其首脳部に於ける腐敗は既述の通りであるが、現在の官憲中私接觸した課長級以下の總べてが私共の如き觀光者に對して親切丁寧で頗る歡迎の氣分に満ちて居つた事は私共の感謝措く能はぬ處である。従つてそれも亦同島に於ける美事の一つであるが、其動機は彼等に於て如何にもして内地人の諒解と共に少しでも多くの補助金を得て同島の開發に資せんとする爲めであるから、間違つた考へであるとは云ふても尙其心掛けと

してはシオラシク且ユカシキ事の限りのものである。

第九章 樺太に於ける雜件

(一) 樺太人の虚榮

虚榮心が人間固有の性癖にして著るしく社會を惱ましつゝある事、其虚榮心の内金錢に關するものが其根帶を社會に於ける貧富の懸隔に發して居る事、及び金錢に關する虚榮心が新らしき生活場所である植民地に於て最も熾烈である事、等は共に周知の事實である。而して歐洲から移住した北米合衆國に於ける最初の植民中に在つて其家族の昔を誇る標徴として紋章の類が盛んに製作せられたのと同様に、現在の樺太に於て虚榮心が旺盛である事は東西全く其揆を等しくする處である。而かも其後北米に於ては其生活が容易である結果同國人が聰明になり延いて金錢又は資産を有する事の多少が虚榮心満足の標的としての威力を失ふたのに不拘、我國に於ては其生活が依然として困難である結果其種の虚榮心が引續き旺盛であり、特に樺太に於て

は其民衆が低級なる労働階級と内地からの食ひ詰め者とを主として居る上に於て虚榮心は一層に熾烈である。而して之れあるが故に彼等の擡頭を妨げつゝある事も亦甚しい由である。

更に樺太に於ける労働者にして口髭を蓄へて居る壯年者が目立つて多數である事も亦、虚榮心の現はれであると同時に同島移住者の多くがハイカラと稱する一種の山子又はトンチキ野郎である事の証據である。

(二) 樺太に於ける高山植物

樺太に於ける氣温が低度である結果高山植物が同島の平地に於て叢生して居る事は單調なる同島の生活に光彩を添ふるものゝ一つである。私はお恥しい次第であるが植物に就ては何等の智識を有せず特に高山植物に於て然りであるから本項に於ける記事は其筋の専門家に聞いた處であるが、同島のツンドラ地方に於て叢生して其満開を誇つて居る紅紫取りくくの草花は總べて高山植物にして内地に於けるアルプス連峯に於けるお花畑と其類を同ふするものである由で

である。

(三) 樺太に於ける露國人

私が樺太廳から貰ひ受けた樺太要覽に記述せられてある同島の露國人はギリヤーク人・ツングース人及びオロツコ人等であるのに就ては、私はそれ等の人種が元とシベリヤの東部に住居して居つたモンゴリヤ人種の一部であることを聞いて居つただけ、最初に豊原町及び眞岡町方面に於て見た總計十數名の露國人が金髪を有する長身にして隆鼻の者であつたのに就き頗る怪訝に堪へなかつたのであるが、其後敷香村方面に至つて眞實のオロツコ人及びギリヤーク人が劣等の風貌と體格とを有して擬ふ方のない東洋人である事を見るに及んで、私が最初に豊原町附近に於て見た金髪の露國人は露の本國人及び伊太利人である事を知り得たのである。

(四) 樺太に於ける旅館

我國在來の旅館は其營業の規模が狭小にして其内の最大なるものと雖室數二三十に過ぎず其小なるものは五六室に止まるものである。蓋し彼等の多くは、祖先以來の營業を繼續して居る者乎又はそれ等の旅館に勤務して居つた料理人又は仲居等にして少しく小金を貯へた結果其營業を繼承した者乎であるから、其營業方法が一に舊慣故例を墨守する以外絶へてホテル又は都市に於ける旅館等に關して研究を重ねるものがなく其不規律にしてダラシのないこと、及び彼等が其營業を以て一種の下り(サガリ)として自ら甘んじつゝ旅客の出入毎に式臺に跪坐して三拜九拜する事、等は憐むべき限りである。但し同じく不規律である裡にも、内地に於ける郡部の旅館は其周圍の社會が其文化に於て後れて居るだけ其營業方法も亦一層に後れて居るのに反して、北海道及び樺太のそれ等は、兩地に於ける住民が何れも漏れなく數十里を移住し來つて幾分多くの社會を見て居るものであるのに加へて比較的に新智識である官吏と學者との往

復が頻繁である結果、内地の旅館に比して稍々進歩して居るのであるが尙甚しく兄たり難き程度に於て沈滞不動であるのは同一である。

更に此回の旅行に於て各地を通じて一等旅館と稱するものゝ旅籠料が三圓五十錢乃至四圓にして特に傑出したものでも尙且六圓であつたが、三圓五十錢のものと雖も夕食には必ず二の膳附にして六七菜を供したのに加へて朝食も亦少くとも三菜附であつたのに就ては、膳部の代金だけでも夕食は一圓五十錢乃至二圓朝食は一圓を要する筈であるから、彼等は其室料寢具料(シーツ及び寢衣は必ず洗濯したものを要求した)及び入浴料として何程を見込んで居るのか之を知るのに苦しむのである。尤も彼等は茶代を豫期して居るのであるが東京からの旅客が官吏を主として居る關係上之を關西に比して頗る少額である。加ふるに彼等の營業が不規律である結果彼等は旅客の需要品に關して頻りに附け落ちをするのであるから、(時として附け懸けをする事もあるが其實全然根據のない附け懸けは出来るものでない。従つて其附け懸けがあるのは他の旅客に於ける需要品の附け違ひである。而してそれ等の附け違ひがあるだけ私共の需要品に關しては附け落しが多いのである)、彼等の經濟が如何にして維持せらるゝの乎、私は他

人の事ながら常に心配に堪へぬのである。斯くて彼等の經濟に餘裕がないから益々其營業をして非文化的ならしめて居るのである。茲に於て私は一旅館に二日以上を滯留して幾分の餘暇があつた場合は常に其主人又は番頭の來室を求めて大畧左の主意による改良意見を語つたのである。

一、研究心を發揮する事。
二、少くとも事務室は椅子及びテーブルを用ひて其立居を敏活にすると共に、事務員は相當新教育のあるものを採用して汽車及び汽船の發着時間等に就き旅客の質問に答へ得る人物を採用する事。

三、附け落ちを防止する爲めチット制度を勵行し仲居をして旅客に對して一々サインを請求せしむる事。

四、投宿の旅客名を立關其他見易き場所に掲記する事。

五、從來の旅籠料が食事附であるから如何なる早立ち又は晩着の旅客に對しても食事を供せねばならぬ義務を生じ、その結果は内には料理場の不規律となり外には折角の食事が間に合は

ぬ等の不都合を生ずるのである。従つて室料と食料とを區別し且食堂制度を確立し食事時間を一定するに於ては、その様な混雜は忽ちにして除去せらるゝのみならず其結果は更に仲居の敷を減じ其經費を節約し得るのである。若しそれ旅客にして依然として其室に於ける食事を希望する者に對してはホテルに於けるが如く一回毎に五十錢乃至一圓の増料を請求するに於ては、エラソーなことを云ひつゝある旅客と雖その大部分は忽ちにして食堂に出る様になること。

六、シーツ類及び寢衣等は要求がなくとも必ず洗濯したる新らしきものを供用する代りに蒲團は必ずしも絹衣具を必要とせぬ事。

七、食堂組織を勵行する結果として各室の面積は辛ふじて身仕度をなし得る程度に縮少し、其代りに最も快適なる室を擇んで集會室及び娛樂室等の設備をするに於ては、各室を通じて公平を保持し得る事。

八、如上改革の結果は自然に茶代を廢止し得る様になるのであるが、茶代を廢止すれば、旅客の到着に際して其風姿と容貌とを見て主人側に於て室の善惡上下を決定するの必要なく旅客

をして自ら之を撰擇せしめ得べく、兼ねて其營業に關して自ら卑下して式臺に於て最敬禮をする必要も亦なくなる事。

第十章 北海道に於ける米作

前書き。本章は「第三章、樺太に於ける産業」と併せ御覽になる事を希望します。

私が前年（大正七年頃であつたと思ふ）北海道に旅行した當時は同道に於て米作を創始した當初であつたが、當時に於ける一般の疑問は我國に於て米の關稅を設けて殊更に米作を奨勵し之を北海道に迄擴張するのは果して我國の利益である乎否乎と云ふ事であつたが、此回同道に於ける實跡を聞くに耕作技術の進歩と共に一反歩の收穫は平均二石に達する由である。而かも其技術の進歩は關稅の保護による結果でなく、技術にして進歩すべき餘地があれば關稅の保護がなくとも自然に進歩すべく、否な保護なくして其經濟が困難であれば一層に多くの刺戟を受けてヨリ多く且ヨリ早く發達すべき筈であるから、同道の米作に關する技術の進歩は關稅の保護に關係のないものであると同時に、今日と雖尙米作を北海道に迄擴張した事が我國の利益である乎否乎に就ては私は之を疑問として居るものであるが、それは兎も角もとして見渡す限り

の稻田に於ける禾穀が穰々として所謂「夕去れば門田の稻葉音づれて芦のまる屋に秋風ぞ吹く」てふ光景である事は、見た目に美しいものである。而かも實際の耕作者即ち小作人の生活が如何である乎を洞察するに、彼等の家屋が昔しながらの極端に陋穢なる賤が伏屋である事及び彼等の容貌及び風采が依然として垢面蓬頭にして菜色がある事等は、米作が發達したのに反比例して少しの餘裕をも増加して居らぬものである。私が列車中に於て同道の百姓から直接に聞いた處によれば、同道の米作は一反歩の收穫が平均二石であるのに對して小作米は一石以上一石二斗にも及ぶものがある由であるから、之を内地の收穫が一反歩平均三石であるのに對して小作米が一石五斗にして小作爭議を生じて概して二割引となりつゝあるのに比して、甚しき不利益である。それに就き私共が注意せねばならぬ事は、同道に於ては特に米作獎勵の主意により其土地に對しては、十年間を成墾期間とし、更に二十ヶ年間を墾下期間として、合計三十ヶ年を通じて無税として居るのであるから、地主は、（それが自作農であれば地主と耕作者との二つの資格中に於ける地主たる資格に於て）、今日に至つて尙且其大部分は無税であるのに不拘年々一石乃至一石二斗の小作米を徵收しつゝ彼等は文字通りに鼓腹擊壤であるのに反して、

實際の耕作者は之に與かる事を得ぬ事である。斯くて其結果は、同道に於ては地積的に未だ大いに耕作擴張の餘地があるのに就き、第二期拓植法の實施と共に移住者に對して莫大なる補助金を與へて之を招致しつゝあるのに不拘、之を大体に見て同道に於ける移住者は年々其割合を減じ、前年私が同道に旅行した當時に至る迄の平均數は四萬五千人であつたのに對して最近は平均二萬五千人に減じた事は、一大皮肉である。従つて私が曩きに「第三章、樺太に於ける産業」中に記述した通りに農業の發達を促さん爲めには地租を軽くし又は無くする事は、單に資本家即ち地主を利益するに止まり實際の耕作者又は小作人は之に與かり得ぬものであるのに反して、餘裕のある限り地租を増徴すると同時に一切の税金を全廢する事は日用品と共に民衆の生活費を低下する所以であるから、小作人は素より自作農も亦其耕作者てふ資格に於て共に其の生活の餘裕を増加するものである。斯くて實際の耕作者にして餘裕があれば内地に於て失業しつゝある勞働者は沛然として同道に移住すべき筈である。

附記。本年の如き豊年年に於ける稻田の穂面らが揃ふて少しの高低疎密がなく禾穀穰々とし

て和風のまに／＼黄金色の波を漂はせて居る光景は、實に得も云はれぬ風情にして天然の景色ならざる自然の景色である。之に就き私が想起する事は、世人は一般に古美術品を推賞する結果其之を有して居る事の多い歐洲及び東洋諸國を揚げて優美の國とし、其之を有する事の少ない北米を貶して殺風景な國とするのであるが、北米が古美術品を有せぬ代りに其道路が快適である事其公園が廣大である事及び其家屋が合理的である事等は、恰かも見渡す限りの廣漠たる稻田が天然の景色でない自然の景色であるのと同じの事情にあるものである。

第十一章 北海道及び樺太に於ける ローングラス

我國紳士の住宅は和風建築である結果其雨戸を明け放した場合に於ては餘りの取りつ放しであるから戸毎に門墻を設けて之を圍まねばならぬ必要があるのであるが、其内の幾分が洋風建築となつた今日に至つて尙且戸毎に門墻を設けて街路は素より隣家に對して孤立的生活を營んで居るのは甚しく非社會的であるのに反して、北米人の住宅が全然門墻を設けずして開放的であるのは私の欣羨措く能はぬ處である。

而して北米人の住宅に於ける長所は以下の通りである。

一、街路を挟んで庭園を設けて門墻を造らず相互に之を開放し其庭園の奥部に於て住宅を建築して居るのに加へて、其庭園の全部は四季を通じて深緑色を有するローングラス（芝草）を以て覆被して居るのであるから、全町内を通じて大公園の觀がある事。

二、庭園が家屋の前面に設置せられて居る結果は出入毎に自然に之を眺めざるを得ぬのであるから、折角の庭園が最も有効である事。

三、街路に面して門牆がないから一寸考へた處では頗る不要心である乎の如くであるが、其實は街路は晝夜を通じて間斷なく通行人があるのに加へて見通しが利くから、反對に最も安全である事。

四、門牆と共に日本式即ち茶道式庭園を造るだけの費用を節するのであるから其建築が安上りである事。

五、後日街路取擴げの必要が生じた時に自由である事。

六、全町内を通じて社交的であり且共同的である事。

七、同國に於ける女中の賃金が高率で其雇入れが困難であるのに就き其家屋は出来るだけ小さく且簡單なるものとする代りに、毎週末には一家を擧げて自家用自動車に乗じて長距離に遊山して到る所のホテルに宿泊するのであるから、同國人の生活が快的にして變化に富んで居るのに加へて、ホテルが到る所に於て盛大を極め兼ねて自動車が多數である事。

以上は北米風の建築に於ける長所にして私をして同國人が如何に聰明である乎を思はしむる事實の一つである。従つて私は次回に於ける住宅建築に際しては是非共北米風の建築を適用せんとして居るのであるが、それに就き最も必要なものは四季を通じて深綠色を維持するローングラスを得る事である。私は、私の北米旅行以來其ローングラスの種子を求むる爲め努力したのに不拘其草の名稱を知らなかつたからトツオイツ困難したのであるが、不圖現在の住宅附近に於て之を見附けたから昨年以來栽培しつゝあつたのである。然るに此回北海道及び樺太に於てそれが野生して居るのを實見したのに加へて、兩地の農事試験場に於て其草の名稱がケンタツキーブリュー、グラスである事を聞いたから、更に札幌市大正農園（同市南七條西六丁目角にして一封度が八十錢）に就き其種子を求め歸來重ねて栽培しつゝあるのである。建築に關する私の意見と北米の建築法とに賛成せらるゝ各位は盛んに試培せられん事を希望する。

私は、私の郷里に於ける住宅が甚しく巨大であつたのに就きコリ／＼して居つたのに不拘、不注意の結果誤つて現在の建築をしたのに就き後悔すると共に、私の友人にして巨大なる家屋

に住居せんとするものに對しては其の馬鹿らしき無駄であることに就き戒飾しつゝあるのである。

第十二章 房州に於ける仁右衛門島

房州東海岸に於ける太海驛の對岸僅かに二丁にして有名なる仁右衛門島がある。同島は代々仁右衛門の名を踏襲して居る平野家の所有にして其周圍は僅かに二十七町に過ぎぬ一小島であるが、治承の昔源頼朝が石橋山の一擧に零敗して同島に逃れ來つた時に之を隠匿したのに就き頼朝は成功の後當年の恩義に報ゆる爲め其當時已に同島の持主であつた平野仁右衛門に對して其所有權を永久的に確保したと同時に同島から望見し得る範圍の海上に於ける漁業權を同人に附與した結果、同家は、最近迄それ等の權利を維持し來つたのであるが、明治に至つて附近に於ける漁民の反抗に會して暴動騒ぎがあつた後、今日は同島の所有權と共に引續き同島に對する渡船權を保持して居るの外、鮑貝に對する半分の漁業權を保持して居る由である。而かも同島の風光が明媚であるのに加へて同家が既述の如き舊家であるのに就き、毎年多數の觀光客を迎へて其渡船賃だけでも一ヶ年一萬五千圓の收入がある由である。斯くて同家の内政が非常に

裕福である事は東京市に於ける平野荷札が同家の事業にして早くから盛大に營業しつゝある事によつて窺ひ得るのである。私は同島を一個の獨立國として私の土地國有論を適用して其結果如何を想像せんとしたが、餘りに小島であるのに加へて本土に接近して居る結果國防問題に關する見當が付き兼ねたのである。責めては同島が四國程の大きさであれば面白き結果を得るであらうと信するのである。

而かも現在に於て土地が私有制度である結果は、平野家をして八百年の昔に於て頼朝を隱匿したと云ふだけの勳功によつて引續き同島を所有し無爲にして尙且飽食暖衣せしめて居るのであるが、若し我國の土地が國有であれば、現在同家をして獨占せしめつゝある同島の利益は同村一般に分配せらるゝと同時に、同家は何等乎の生産に従事せねばならぬから、それだけ同村に於ける民衆の餘裕を増加すると共に國家に於ける生産を増加する筈である。

第十三章 驛 辨

私は我國の鐵道に乘車する毎に政府は何故に驛辨を國營とせぬ乎を怪しむものである。蓋し今日迄之を民營としたのは我國鐵道創設の最初に在つては各地を通じて其驛を遠く郊外に設けたのに就き、民間側をして新に旅館又は休憩所を其驛前に設置せしむる事が困難であつたから、彼等の内の主なる者に對して驛辨を併せ經營せしむる事を條件としたのであらうと信ずるが、最早今日となつては全然其必要がないと同時に驛辨は驛構内に於て販賣する上に於て一種の獨占權にして他人の競争を許さぬものであるから、之を國營とするのが至當である。而かも之を國營として無利益主義により大規模製産の下に一定の區域に於ける驛辨販賣驛に分配するに於ては、現在に比して著しく内容の充實したものを供給し得る筈である。若しそれ其販賣に至つては煙草其他の雜品と共に現在に於ける賣子をして組合を組織せしめて之を委託するのが、最も適當である。

更に緊縮の聲が喧傳せられて居る今日に於て一見甚だ不穩當の如くであるが、私は、現在の驛辨の内上辨三十五錢を引上げて五十錢とし並辨を二十五錢又は三十錢とする事、上辨は紳士向として其飯量を現在の儘又は少しく減ずる代りにお菜の質を向上し更に漬物の量を増加すべき事、及び並辨は勞働階級向として其飯量を増加すべき事、等を主張するものである。

蓋し上辨を三十五錢に制限したのは折角食堂車が連結せられて居るのに不拘之に行くものがないからであるが、其結果は現在の如く通常紳士の食用として甚しき不適當なるものとならしめたのである。要するに驛辨を食堂車の犠牲としたのであるが、由來我國の現状に在つては驛辨の方が一般的にして食堂車の方が贅澤であるから、——食堂車は當時に於けるハイカラ的歐化主義者が歐米に於ける先例を真似た結果であるが、貧乏な我國としては全く贅澤である。

——食堂車の爲めに驛辨を犠牲とするのは事理に於て逆施倒行であるのみならず更に緊縮の主旨に反するものである。就ては眞實に緊縮の必要があるとすれば否な其必要は兎も角として食堂車は、驛辨は素よりサンドウキツチすらも常食とするの習慣がなく通常の食事は食卓によつて取るのを習慣として居る外國人及び我國最上級紳士の乗用として、（我國にてはサンドウキ

ツチを辨當と譯して居るが、其實サンドウキツチはお茶受用にして、辨當はピクニックである）、一等車を連結する直通列車に限つて連結し、驛辨は其品質を一般紳士に適當する程度に引き上げるのが、至當である。（現今三越其他デパートに於ける幕の内は四十錢にして適當である。而かも驛辨は折箱と共に之が販賣手数料として多額を要するから之を五十錢に引上げべきである）。

最後に驛辨以外の雜品販賣も亦之を驛構内に於てする上に於て獨占權であるから成るべくは之を國營とするのが至當である。而かも餘りに煩雜である結果困難であるとすれば、現在に於ける請負商人の介在を排し賣子をして直接に組合を組織して販賣せしむると共に、其品種の撰擇を嚴重にして成るべく其土地に於ける一流品を販賣せしむる事が合理的である。然るに近來其監督が緩慢である結果往々にして似て非なる二流以下の物品が販賣せられつゝあるのは遺憾である。就ては現今の場合其品種の撰擇と其監視とを商工會議所又は之れなき土地に於ては町村役場に一任するのが適當である。

第十四章 大東京市の人口

— 70 —

私の旅行中に發行せられた九月七日號東京日々新聞によれば大東京市に於ける現在の人口は四百八十八萬人である。從來私は東京市に於ける年々の人口増加は七萬人であると信じて居つたが、それは恐くは舊東京市だけに關する計算で、大東京市としては其増加は更に多數であつたのである。果して然らば實に恐るべき人口の増加である。

現今都市に於ける人口の集中は獨り我國だけでなく全世界を通じた現象にして、其内最も著大なるものは北米大ニューヨーク市が九百五十萬人英京大ロンドン市が七百八十萬人であるが、それに對して我大東京市は四百八十八萬人即ちザット五百萬人であるから東京市は實に全世界に於ける第三位の大都市である。而して世人は我國に於て此の如き大都會があるのを以て誇りとして居るのであるが、一度び現在に於ける人口の都市集中が如何にして生じ且如何なる結果を生ずる乎を考ふる時は、反對に恐るべく且悲しむべき事柄である。以下之を、一、都市に

於ける人口集中の原因、二、都市に於ける人口集中の結果、に分けて説明する。

一、都市に於ける人口集中の原因

現在都市に於ける人口集中の原因は更に、甲、都市に於ける労働階級集中の原因。乙、都市に於ける農村土地集中の原因。に區別して説明する。

甲、都市に於ける労働階級都市集中の原因

労働階級の都市集中に關しては私は從來一再ならず説明したのであるが、今日に至つて尙且學者は素より一般の輿論は共に同じくそれは農村は農業なるが故に其生活に餘裕がないのに反して都市は商工業なるが故に其生活に餘裕がある爲めであると云ふて居る。然るに事實は、我國の農業が地域的に行詰つて居るのに反して我國の商工業が全世界に於ける交通及び運輸の發達と共に新販路を擴張しつゝ幾分の餘裕があるてふ事情はあるが、その餘裕たるや之を我國に

— 71 —

於ける全體から見て些細にして云ふに足らぬ割合である。従つて彼等は、經濟學上如何なる事業でも其利益は結局に於て平均するものにして、産業自由の今日に在つては農業が不引合であるのに反して商工業が好引合であれば、彼れ此れの事業を轉換する事によつて双方の利益は平均するものである事を知らぬものである。従つて農村は農業なるが故に其生活に餘裕がないのに反して都市は商工業なるが故に其餘裕があるてふ理由はないのである。而かも論者は尙現今農村の子弟が都市に移住しつゝ其職業を轉換するのは農業に其餘裕がないのに反して商工業に其餘裕があるからであると云ふのであるが、私を以て之を見る、それは農村其物に餘裕がないのに反して都市其物に餘裕がある結果である。彼等にして今一つ其奥に立ち入つて其然る所以を察するに於ては直に之を發見し得る筈である。

蓋し農村其物に餘裕がないのに反して都市其物に餘裕があるのは現在に於て土地が私有制度になつて居るからである。詳説すれば、都市に於ては其地利に於て占有して居る運輸交通其他の事情が便利である結果最初に於てヨリ多くの人口を集中したのに際して其土地が私有であつたから、都市に於ける土地をして農村の土地に比してヨリ早く且ヨリ多く其地代を引上げ且其

賣買代價を騰貴せしめ延いて其地主をしてヨリ多く利益せしめたのである。而してそれ等の地主は其土地の賃貸に關しては幾分餘裕のある安値なる地料を以てしたから——否なせねばならなかつたから、（何となれば土地の賃貸は對個人的關係であるから其處に情實關係があるのに加へて之を地主側から見ると土地は年々其地代を騰貴するから尙相當に有利であるからである）——都市に於ける借地人も亦農村に於ける借地人即ち小作人に比してヨリ多く利益しつゝあるのである。（農村に於ては日々人口を減じつゝ土地と人口との割合に狂るゝを生じて其借地料即ち小作米の引下げを必要とするに至つて小作爭議を生じつゝある丈け現在にては其餘裕が少ないのである）。斯くて都市に於ては地主も借地人も共に餘裕があり而して其餘裕は經濟學上の原則に準じて其幾分が溢れて一般民衆に均霑するから、都市に於ける生活は其住民の全部を通じて餘裕があるのである。斯くて農村其物の生活に餘裕がないのに反して都市其物の生活に餘裕がある結果として農村の労働階級をして相率いて都市に集中せしむる事は、恰かも富者の食卓から取り下げる殘肴を目懸けて乞食が集中するのと同じにして、それが即ち人口の都市集中の根本的原因である。而して人口が都市に集中する結果は都市に於ける産業即ち商工業の

利益を増加するのに反して農村に於ける産業即ち農業の利益を減少せしむるので、單純に農業なるが故に不利益であるのに反して商工業なるが故に有利であるのではないのである。従つて土地を國有とし地代の全部を政府に收納して農村と共に都市に於ける地主の利益を根絶すると同時に、一切の税金を全廢して物價と共に生活費を引下けて都市と農村とを通じて其生活に餘裕あらしむるに於ては、現在に於ける都市の人口は減じて精々が二三十萬人位のものとなると同時に、農村も亦甚しき不權衝のない丈けの人口を有して各種の文化的施設を行ふ事が出来る様になるから、農村は所謂田園都市となつて各種の工業も亦農村に分配せらるゝに至つて、農村の子弟が相率いて都市に移轉する事はなくなるのである。

乙、都市に於ける農村土地集中の原因

都市に於ける農村土地の集中も亦更に分つて、都市に於ける農村土地其物の集中と、都市に於ける農村大地主の移住による農村土地の都市集中と、の二つに分けて之を觀察する事がヨリ明白である。

一、地租が輕微である結果として耕地の賣買代價が高値であるのに就ては、小作人は年二割の資金を借らねばならぬのに反して資本家即ち地主は年五六歩を以て満足する資本を有して居るから、土地が年々大資本家に兼併せらるゝ結果、直接には農村の土地が都市に於ける資本家を買収せられて都市集中を來し、間接には農村に於ける大地主の子息達が大學を卒業して或は官途に就き或は都市に於ける會社の重役となつて最早農村に復歸せぬのに就き、其大地主も亦それと同居せんが爲め都市に移住するに至つて、農村の土地が都市に集中せらるゝのである。

現今内地に於ける農村の土地が直接又は間接に都市に於ける資本家によつて所有せらるゝとによつて農村土地の都市集中を來しつゝあるとは前述の通りであるが、更に北海道及び朝鮮に於ける農園が直接に、臺灣の製糖會社に於ける甘蔗植付の土地等が其株券を通じて間接に、共に内地に於ける都市の資本家によつて所有せられつゝある事も亦農村に於ける土地の都市集中の原因である。

二、農村には人口が餘りに僅少であるのに加へて資力が薄弱である結果水道・瓦斯及び電車等

を利用する事が不可能であるのに反して、都市に於ては演劇其他文化的施設が盛行せられて居る結果地主が都市に集中する事も亦農村に於ける土地が都市に集中せらるゝ原因である。三、農村の地主をして都市に集中せしむる他の有力なる原因としては、農村には戸數割があり其負擔が極端に重課であるのに反して都市にはそれが無いのに加へて、農村にては各種の寄附が多く且世間が極端に厚皮しく且煩るさいからである。

以上は現在に於ける土地私有制度の結果として農村に於ける土地と地主とが共に都市に集中せられつゝある理由である。従つて一切の土地を國有とし一切の地代を政府に收納して之を一般民衆の利益の爲めにする政費に使用し、更に其結果として一切の税金を全廢して一般の物價と共に民衆の生活費を徹底的に引下げるに於ては、詳説して現今都市に於ける資本家をして農村に於ける土地を所有するも些の利益がない程度に地租を増徴するに於ては、都市に於ける利益は都市に、農村に於ける利益は農村に、共に其土地に於ける利益はそれ〴〵に其土地に保有せられて彼れ此れ互に相侵す事がなくなるとは、自然に民族自決主義と同一の理想に歸着するものである。

二、都市に於ける人口集中の結果

斯くて都市に於ける人口集中の結果は、一方には農村に於ける人口をして適當以下に稀薄ならしむると同時に其資力を薄弱にし、延いて水道・瓦斯・電車・其他一切の文化的施設を施行するに由なからしめ、他方には都市の人口を適當以上に密集せしめて之を不健康地となし兼ねて各種の罪惡地となしつゝあるので、其弊害は枚擧に遑がないのであるが、此事は從來已に詳論せられて居る事であるから、茲に之を省畧する。

以上私は現今人口都市集中の原因と其結果とを説明したのであるが、我國に於て農村が年々其人口を減じつゝあるのに反して東京市及び大阪市の如き大都市に於て人口が集中しつゝあるのは我國の誇りでなくして反對に恥辱である事は、平等であるべき人間にして三菱及び三井の如き大富豪があるのに反して日々の生活にも事を欠ぐ貧窮者のあるのは共に社會の癌であるの

と同一である。従つて農村と都市とをして共に其土地に固有する特殊の便利に準じて現在の如き人口の不權衡なからしむる爲めには、其土地を國有として各種の獨占權を全廢し兼ねて資本に於ける利息を無利息又はそれに近い程度の輕微とするのが絶對的に必要である。

人口の都市集中が恐る可く且悲しむ可きである事は世界共通の事實であるとして我國の現状が英米に比して特に然りであるのは、英米人の所得高に對する一切の公課が一〇%を標準として訂正せられつゝあるのに對して、我國のそれは三〇%以上にして然かも當分それ以下に訂正せらるべき見込がないからである。而かも其英米に於ても尙人口の都市集中は社會上の癌にしてそれは兩國共に其土地が私有制度であるからである。

而かも現在に於ては大都市の出現に會して之に相當する都市計畫が遂行せられつゝあるのであるが、現在に於ける社會の行詰りは早晚一切の獨占權全廢を以てするの外はないのに就ては、それが全廢せられた場合に於ける都市の人口は農村に還元せられて精々が二三十萬人程度に收縮する筈であるから、現在の都市計畫は忽ちにして無用の長物となるのである。斯くて人間は今日に至るも尙バベルの塔を建築しつゝ其無駄を繰返して居るものである。

私は統計表を持たぬから正確なる數字を擧げる事は出來ぬが、瀬戸内海を控へた我國最大の商工業都市である大阪府に於ける最近の人口増加が年々七萬人であるのに對して大東京市は少くとも十萬人以上であるのは、大阪府に於ける人口増加は純商工業的事由によるのに對して東京市のそれは我國第二位の商工業都市であるのに加へて中央政府の所在地として政治的に年々多額の資金を同市に於て費消するからである。果して然らば我國に於ても早晚地方自治が擴張せられて、現在東京市に於て費消せられつゝある資金の大部分が各地方に散布せらるゝ場合に至れば、東京市の人口は忽ちにして激減すべく、従つて茲にも亦バベルの塔が建設せられつゝあるのである。

最後に現在に於て一般商況が極端に不景氣である結果都市側に於て失業者の處分難と共に労働者の歸農を希望して居るのに對して、農村側に於ても亦之を拒絶しつゝ互に人間の押付け合ひをなしつゝあるのは、結局は經濟的に且自然的に決定せらる可き人口の分布に關して、無益の論議を費しつゝあるものであると同時に、富の要素である勞力即ち人口に對して之を恰かも反古乎又は塵芥乎の如くにナスクリ合ひをなしつゝあるのであるから、若し現在の社會に於て

昔しなからに冥加に盡きてふ事があるとすれば此一事だけでも我國は冥加に盡きねばならぬのである。

附 録

附録第一章 民政黨政府に於ける

緊縮と節約

前書き。民政黨内閣成立以來已に數月であるから今更ら同黨の緊縮節約政策に就き論ずるのは聊か時季外れの嫌ひがないではないが、而かも同黨は今日も尙其政策に關して躍起してゐるのであるから、之を批評するのは必ずしも六莖十菊でないのみならず本問題は我國に於ける現在の政治及び經濟の實狀に關して明白なる理解を與ふる所以のものであるから、茲に之を批評するのである。

民政黨政府は成立以來金解禁を最急の政策として頻りに緊縮節約を疾呼しつゝあるが其結果或は金解禁を執行し得るとして其内閣の壽命を長命ならしめ得るであらう乎。私は不幸にして否と云はざるを得ぬのである。

一口に緊縮節約と云ふても其呼び掛けて居る目標には二つがある。即ち前者は中央及び地方に於ける政費の節約に關して輿論の認識を得んが爲めにして、後者は民間に對して節約を求むるが爲めにして、共に其目的とする處は對外勘定を受取勘定に轉じ以て金解禁に資せんが爲めである。而して此際政府にして其目的を達し朝野を擧げて節約の實を遂げ對外支拂額を減少し得るに於ては或は金解禁を斷行し得る乎も知れぬが、其結果は金解禁の斷行によつて達成し得た爲替の安定による産業及び生活の安定が、其緊縮節約によつて將來すべき産業の衰頽及び生活の墮落に超へて國利民福を増進し得るであらう乎。私は重ねて否と云はざるを得ぬのである。

甲 先づ緊縮に就て之を論ずる

何故に從來金解禁の斷行せらるべくして斷行せられなかつた乎と云ふに、主として中央政府に於ける財政が不足であつた結果紙幣が過多であり且物價が相當以上に高値であつたから、對外勘定が支拂勘定になり従つて金解禁の場合に於ては忽ちにして恐るべき多額の金貨流出の恐

れがあつたからである。之を數字によつて表示すれば、中央政府に於ける支出が十七億圓（大數のみを擧げる）であつたのに對して其収入が十五億圓であつたから、茲に二億圓の不足があつた。而して其不足は公債の發行によつて補足せられたのに就き日本銀行が紙幣を増發して之に應募したから、紙幣が常に過多であつた結果物價が高値で従つて金解禁が出来なかつたのである。之に對して民政黨政府は、其財政を緊縮して收支を突き合せ又は收入を超過せしむるに於ては、公債發行の必要がなくなると同時に紙幣も亦自然に收縮して物價が相當程度又はそれ以下に下落するから、對外支拂を受取勘定に轉ずる事が出来る、と云ふのであるから、此限りに於ては同黨政府の主張は誤つて居らぬのである。之れ私が金解禁だけは或は成功する乎も知れぬと云ふた所以である。

而かも民政黨政府の緊縮せんとする處のものは主として鐵道の敷設・港灣の修築及び河川の改修等積極的並に消極的に國利民福を増進する所以の施設に對してであるから、其結果は國力の發達を阻止し兼ねて國利民福の増進を妨害するものである。而して今日は政友會内閣に於ける放漫政策の後を受けて民心がアキ／＼して居る場合であるから、其緊縮政策に關して大なる

反對がない従つて或は金解禁には成功する乎も知れぬが、幸にして成功し得たとして（若しそれすらも成功せねば尙更ら）それによつて民心が安定して彼此の利害を平靜に考慮し得る場合に至れば、忽ちにして彼等の政策は國利民福の増進を阻害するものであるてふ反對輿論の勃興に會して其内閣は顛覆せねばならぬのである。而してそれは國家としても同黨としても共に不利益であると同時に彼等は反對黨の爲めに其道を直くし其路面を掃除するものにして文字通りに不引合な役廻りを引受けるものである。

茲に於て私は同黨の爲め一策を献ずる。同黨にして眞實に國利民福の増進を企圖すると同時に金解禁を斷行する爲め財政を緊縮せんとするのであれば、須らく滿州に於ける特殊の權益及び關東州を支那に還付して日支親善の實を擧げると同時に臺灣・朝鮮及び其他の植民地に對して自治を許す事によつて、我國の國防線を對馬水道に短縮し、（而してそれが我國の爲めにも亦非常に利益である）、因つて以て大体に陸軍を日清戰爭以前の七個師團に海軍を現在の二分の一以下に縮小し、現今我國の財政總額に對して其四割弱を要しつゝある陸海軍費を二分の一以下に收縮すべきである。而かも同黨に於て之を主張するに就ては一時は輿論の反對に會して

其内閣は倒潰するであらうが、其結果は誤つた輿論を矯正する所以の一大快舉であるから數年ならずして多數國民の賛成を博し其黨勢を恢復し更に隆盛を來すべきは明白である。私は同黨に對して此の如き捨身の勇氣を熱望するものである。

乙 次に節約に就て之を論ずる

民間に對する節約論は其實は道德論にして之を政策とすべきものではないのである。而して古往今來幾百千萬人の聖人君子が口を酸くして之を勸説したのに不拘尙且其目的を達し得なかつた處のものである。従つて民政黨の節約論はヤシ的に——一時的に——成功する場合があるとしても永久的に成功する事は斷じてあり得ぬものである。蓋し何れの國民に於ても其生活程度は經濟的に且慣習的に一定して居るものであるから到底一朝一夕にして——區々たる一政府の——能く變更し得るものでないのに就ては、此回民政黨政府に於て理不盡に節約を強要したのに對して早晚それに比例した強度を以つて反動し來るべきは、英國に於ける清教徒革命に對

するチャールズ二世の時代に於ける激烈なる反動に徴して、之を疑ふ事が出来ぬのである。而かも同黨政府の節約にして永久的に成功するに於ては由々しき國家の不祥事である。何となれば、明治天皇陛下が維新の詔勅に於て「億兆其處を得ざるは朕が罪なり」と宣はせられた通りに、民衆をして其生活の安定を得せしむる事は輔弼の重責にある大臣の責任であるのに對して、彼等は自ら其責任を解せず民衆をして其食を減じ其生活を安んぜざらしめんとするものであるからである。而かも其節約が民衆の自發に出づるものであれば彼等に於て一切を理解した上の節約であるから——換言して再び發展せんが爲めの合理的節約であるから——彈力に富んだ有意義のものであるが、政府に於て強要する節約は民衆をして無理解に節約せしむるものであるから、其結果は永久に民衆を壓迫し彼等をして再び伸展するの機會と意氣とを喪失せしむるものである。斯くて多數の獨占權が確立して少しの罅隙でもあれば忽ちに喰ひ入つて民衆の所得を奪掠せんとして虎視眈々である今日に於て、民衆をして其食を減じ其生活を低下せしむる事によつて其處に乗すべき罅隙がある事を示さしむるに於ては、彼等をして乗じて以て奪掠せしむる所以の導因となるのであるから一層に不都合である。若しそれ民政黨政府にして「現在

は金解禁に對する必要上節約を強ゆるも一旦其目的を達した後は再び生活向上の宣傳をするものである」と云ふのであれば、其結果は一層に民衆を子供扱にして無理解に其生活の上下を強要するものにして、其思想は昔しながらの官僚的思想と云ふべく實に言語同斷である。

蓋し民衆は怎うに平恚うに平して生きて往かねばならぬものであるのに就ては、獨占權にして如何に搾取を逞しくするも平日の場合に於ては民衆の多數をして餓死せしむる程度に搾取する事は出来ぬ、必ずや生きるだけの収入は残さねばならぬのである。従つて問題は只其残さるゝ部分が民衆に於ける如何なる程度の生活を標準とした金額である乎と云ふ点である。之を事實に徴して一日の標準賃金が、米國人は十圓、英國人は四圓、我國人は一圓五十錢、朝鮮人は六十五錢、支那人は四十錢であるのは、英米がそれ／＼の賃金以下では働かぬと頑張る結果であるのに對して、日本人以下の各國人は共に其生活費を節約し又は引下げてそれ／＼の金額で結構であると甘受したのに乗じてそれ等の諸國に於ける獨占權者がそれ／＼に其搾取を逞ふした結果である。更に之を最近大毎が頻りに宣傳しつゝある富民協會に於ける多收穫の奨勵に關して説明すれば、本年度に於けるレコードが一反歩八石四斗であつたとしても、否なそれが

此後百石になつたとしても、現在の如く土地が私有制度であるに於ては、早晚小作に對して競争を激發する結果小作料を競り上げて小作人の所得は元との一石五斗となつて、少しも小作人を利益する事がない事は一点疑ふ可き餘地のない所である。而してそれは現在の社會に於ては其土地が私有であるのと共に各種の獨占權が存在して隨つて少しでも其餘裕が出来れば隨つて之を搾取し得る制度又は組織となつて居るからである。従つて民政黨政府に於ける節約論は我國人を擧げて朝鮮人又は支那人の境遇に墮せしめずんば止まぬものにして實に不都合千萬なる主張である。而かも現在の不景氣時代に在つても地主階級特に都市に於ける地主階級及び獨占權に屬する事業株を所有するもの等にあつては、其収入に於ては少しの差がなく彼等は世間が不景氣になつて少しでも物價が下落すれば却つてそれだけは比較的に彼等の餘裕が増加するのであるから、世間は彼等をして成るべく贅澤をして多く其財を散ぜしむる事によつて融通を増加するのに不拘、彼等は反對に政府に於ける緊縮と節約とを利用否な惡用して得たりや應として其財布の緒を締めて偶々彼等の一家に於ける冠婚葬祭に際しても其財を散ずる事をせぬ様になるから、其結果は益々勤勞階級を壓迫するのである。蓋し現今社會に於て節約の餘地がある

ものは唯一有産階級にして無産階級は全く其餘裕がないのに不拘、政府に於て節約を高唱する結果は有産階級をして之を惡用せしむるものである。加ふるに世間に於て痛論せられつゝある通りに消費節約の結果は即ち生産の收縮であるから、何れの方面から見ても同黨政府の節約論は國力の發展を阻害するものである。

以上は民政黨政府の緊縮節約即ち消極的政策に對する批評であるが、私に於いて已に民政黨のそれに關して批評した以上は更に政友會の積極的政策に關しても亦論及せねばならぬのである。

説明を最初に返して政友會政府にして積極的政策を主張する以上は須らく増税を斷行して其収入を十七億圓以上として其收支を突き合せ又は幾分の餘剰を生ぜしむべきである。斯くて彼等の政策は名實共に眞實の積極的政策であり得たのである。而して政友會政府に於て増税せんとすれば地租に於て幾何程でも其餘地があるのである。然るに彼等にして地租の増徴を主張するに於ては我國の選舉界に於て最も有力である地主階級の反對に會して一時其黨勢を衰頽に瀕

せしめねばならぬから、彼等は之を斷行し得ず僅かに公債と紙幣とを増發して一時を糊塗した結果、嘗に金解禁を斷行し得なかつたのみならず同黨政府と共に我國をして文字通りに行き詰らしたので、彼等の政策が放漫政策であると云はれたのはこれが爲めである。而かも彼等にして眞實に我國家と共に同黨に於ける永久の隆盛を企圖するのであれば、一方には國利民福を増進する所以である積極政策を斷行し多々益々鐵道の延長並に改良・港灣の修築及び河川の改修等を盛行し、他方には地租を増徴する事によつて其財政に於ける收支を突き合せると同時に自己は何等生産する事なくして飽食暖衣しつゝ他人が働いて生産したものを奪ふて生活する地主を絶滅し其贅澤三昧を中止するに於ては、民政黨が主張する節約も亦期せずして共に其効果を擧げ得るのに加へて、古往今來幾百千萬人の聖賢にして彼が如く勸説したのに不拘節約が出来なかつたのは、一方には多額の収入を擁して贅澤をするものがあるから、他方には之を見倣ふものが出来るのと同時に無けなしの資力を以て其身成りを繕はねば人間並に扱ふて貰ふ事が出来ぬからである。換言して節約の實行は獨占階級を絶滅する事によつてのみ其目的を達し得るのである、我國に於ける物價を引下げ兼ねて金解禁を斷行し得たのである。然るに不幸にして

彼等も亦茲に出づる事が出来なかつたのは彼等に於て捨身になる勇氣がなかつたからである。

以上要するに民政黨に於ける消極的政策と政友會に於ける積極的政策とは共に其目的は不可ではなかつたと同時に互に衝突するものではないのであるが、其政策が同じく中途半端にして姑息であると同時に黨本位であつたから共に失敗に終り又は終らんとするのである。

茲に至つて兩黨の政策は共に同じく中途半端であるとして其内の孰れがヨリ多く肯綮に近いものである乎と云ふに、政友會員がヨリ多く惡辣にして且破廉恥であつたのに對しては私は少しの同情をも有する事が出来ぬのであるが其点は政策とは別物であるから茲には之を措き、單に兩者の政策に限つて之を比較する時は政友會に於ける積極策の方が國利民福を増進する所以であるだけヨリ多く政治の中核を捉へて居つたのである。宜なり政友會の方が有力にして其内閣が常に長命であつたのは必ずしも其集め得た惡錢を以て政治的ボスをヨリ多數に集團せしめたからのみではなかつたのである。

更に民政黨政府は頻りに鐵道の延長に代ふるに自動車道路の改修を以つてすると云ふて居るが、それとこれとは別問題である。私の見る處によれば現今地方民の鐵道を希望する事は大旱時に於ける雲霓に對するが如きものである。従つて鐵道は少くとも現在の縣道筋には之を普及せしめねばならぬものであるが、從來之を普及せしめ得なかつたのは鐵道の經濟は單に其賃金収入にのみよらねばならぬのに反して、鐵道の敷設によつて増加する土地の値上りは地主をして之を壟斷せしめたからである。従つて土地を國有とし鐵道の延長によつて生ずる土地の値上りを政府に收入するに於ては、鐵道は之を無運賃とするも尙其財源に苦しむ事はないのである。若しそれ自動車道路に至つては鐵道の延長とは分離して別に之を改良普及し、兼ねて自動車に對する輸入税を撤廢し我國に於ける代價を引下げて乗合及びタクシー等と共に自家用の自動車を併せて大いに之を奨励せねばならぬものである。然るに民政黨の自動車代用説は鐵道延長の打切りに對する申譯であるから一種の胡魔化しであると同時に其眼光は豆の如しである。

只今本文起草中新聞號外は明年一月から年俸千二百圓以上の官吏に對する俸給一割減を報じたのであるが以ての外である。蓋し年俸千二百圓以上の行政官吏には本給以外に各種の社會的

事業に於ける相當多額の囑托手當がある由であるから其年俸の一割減は必ずしも其全收入の一割減ではないが、而かも其囑托手當がある事が百弊の根源であるから官吏の俸給は寧ろ反對に増給して其囑托手當を受ける事を嚴禁せねばならぬものである。加ふるに現在の官吏にして頻りに瀆職事件を生じつゝあるのは官吏と對立して居る事業家の収入が豊富にして其生活が贅澤（比較的）であるから、官吏に於て其地位と威嚴とを維持するが爲めには其俸給だけでは不足するからである。而して其等の事業家に於ける収入が豊富であるのは、各種の獨占權を有して其収入が豊富である資本家に於て自ら其資本即ち事業を運用する事が出來ぬのに就き、事業家をして其代理を勤めさせて居るからである。茲に至つて官吏の俸給を減ぜんとするのであれば先づ獨占權を打破して資本家の収入を——續いて其代理人である事業家の収入を——減ぜねばならぬのである。若し之を減ぜずして單に官吏の俸給をのみ減ずるに於ては、さらでに頻繁である現在の瀆職事件をして更に一層に頻繁ならしむるものである。若しそれ官吏の減俸に關する理由として官吏は國民の儀表であるから先憂後樂の主旨によつて範を國民に垂れる必要があると云ふに至つては、餘りに舊思想に捉はれた結果國民を昔ながらの赤子扱ひにするもの

と云ふべく、而かも現在に於ける官吏の瀆職が民間に於ける紳士と對立する必要上誘惑に掛りつゝある事實を顛倒した結果である。諺に曰く、「鹿を逐ふの獵師は山を見ず」と、民政黨政府も亦漸く狂的となりつゝあるのである。(十月十五日稿)

十一月廿七日號大毎朝刊「合財袋」中に左の記事があつた。

ある好事家が、御苦勞千萬にも來阪中の井上藏相一行が冠つてゐる帽子をしらべて見たら、いづれも揃ひに揃つた舶來品、しかも飛び切りの高級品ばかり。

まづ井上藏相のが、ウォルター・パーナードの薄茶色、土方日銀總裁のがホルサリノの鼠色、小川政務次官のがムーアの茶色。

柴田知事のがステットソンの薄茶色、中根日銀支店長のがホルサリノの鼠色、保倉銀行局長のがステットソンの薄茶色、いづれ外遊時分の記念品か、なほ念入りにしらべて見ると、みな最近内地での仕入れものだ。

内部に打つてある發賣店の極印に徴すると、大臣のは大津屋、總裁のは松屋、政務次官のは大徳、知事のは三越、支店長のは五十嵐、局長のは三越となつてゐる。

消費節約、國産品愛用の發頭人連中が、これでは困るではないかと、堅苦しく解釋するよりも、むしろ大切な頭を包む帽子だけは、せめて氣に入つた品物で、さういふ氣持からなのだらうぐらひに見て置くんだネ。

以上合財袋子の記事は甚しき皮肉と云ふべく彼等は須らく恥死すべしである。斯くて彼等の節約と國産品使用との宣傳は彼等の心にもない虚偽にして、彼等が無意識的に「天網恢々疎にして漏さず」てふ事實を反證したのは一大皮肉である。さるにても彼等は一方には國民思想を善導すると云ひながら他方には此の如き虚偽をするのに加へて、彼等の閣僚中には一國文教の衝にあるものにして疑獄事件の連累者となるものがあるから、事實に於て國民思想を惡化するものは彼等である。茲に至つて私は私の持論である政治の自由と共に我等は政府の當局から何等指導せらるゝ事なく全然無干渉である事を希望するものである。

附録第二章 無産黨に於ける借家賃

値下げ運動

現今大阪市に於ける大問題の一は無産黨に於て借家賃値下げ運動を開始した事である。蓋し經濟的自然の需給によつて騰落する日用品の小賣値段引下げ運動が政治的に行はる今日であるから借家賃引下げ運動が政黨によつて行はるゝのも亦異とするに足らぬのであるが、それは同黨に於ける單なる人氣取りであると同時に結局に於て無効否な有害であるから私は同黨の爲めに惜まざるを得ぬのである。

現今の場合都市に於ける借家賃が労働階級に於ける生活費の大部分を占めて居る事は事實である。従つて其借家賃の引下げが労働階級に取つて大なる福音である事も亦事實であるが、其騰落は日用品の價格と同様に需要供給の關係によつて自然に解決せらるべく決して政黨的運動によつて解決せらるべきものではないのである。従つて彼等の運動は單なる人氣取りに過ぎぬ

ものである。否な彼等の運動にして人氣取りに止まる間は私は之を不問に附するのであるが、其運動の裏面に於て大なる誤解と權謀とが含まれて居る結果意外の結果を生ずる恐れがあるのに就ては、私は之を看過し得ぬのである。蓋し彼等の内其リーダーと稱するものは、現今家主の内には其土地は借地にして單なる家屋の持主に過ぎぬものが相當に多數である事、従つて家賃の引下げは結局に於て地代の引下げを先決問題とせねばならぬものである事、及び家主は彼等と同列にある生産者にして彼等は反對に之を擁護せねばならぬものである事、等に就ては十二分に詳知して居るのであるが、彼等は更に現在の我國に於ては年々人口が増加して土地が不足する結果地代の引下げは到底不可能である事を知つて居るから、地代の引下げを外にして家賃の引下げを主張するものにして、彼等の戦法は「人を射らんとすれば先づ馬を射よ」てふのと同じであると同時に其處に彼等の人氣取りとペテンとがあるのである。斯くて彼等に於ける運動の結果として假令ひと時的にせよ家賃の引下げを來す場合があるとすれば、家屋の所有が不引合となる結果新に家屋の建築をするものが減少するから、一朝世上の景氣回復の場合に至れば忽ちにして家屋の不足を生じて反對に家賃の暴騰を來す事は理の明白なる處であると同時

に、借家人に不利益を來し兼ねて經濟界に於ける秩序を攪亂するものである。蓋し政治は多數決によつて其雌雄を決するものであつてもそれは双方の主張を決定する場合に於ける止むを得ぬ處置にして、最初から無理である事が明白なる事柄に關してはそれが如何なる少數者であつてもそれに對して其無理を仕掛ける事は出來ぬものである。従つて經濟的自然の秩序と調節とを無視して、或は温情主義により、或は政治的運動によつて、理不盡なる家賃の引下げを強ひ家主殊に土地を持たぬ家主を死地に陥れる事は出來ぬものである。更に永年月間其家屋に住居して營業上の老舗が出來て居るからと云ふても、それが他人の家屋である以上は文字通りに自己の家屋でないのであるから、其家賃にして不當であり且他に安値なる家賃の家があれば從順に且卒直に轉居するのが至當である。然るに永年間の住居による老舗云々を口實として他に轉居する事をせずして理不盡に家賃の引下げを強要するものは素より之を煽動するものも亦共に甚しき不當である。以下改めて家主が勤勞者と同列にある生産者である事に就き説明する。

由來勤勞者と稱せられて居るものは必ずしも直接に生産するのみでなく間接に生産するものをも合せた一般的生産者に對する稱呼である。按摩・藝娼妓・俳優・學者及び商工業者等は總

べて直接に生産するものではないが、或は直接の生産者を慰安し、或は其生産方法を教へ、或は其生産品の位置を轉じ又は其形容を變ずる等の作業によつて、共に間接に其數量と價值即ち効用とを増加するものにして直接の生産者と何等の相違がないものである。而して家主は工業家の一種にして各種の材料を取合せて人間の住居を作つて社會の需要に應ずるものにして、其製造に係る家屋の家賃は常に需給の關係によつて騰落する事が他の生産品と同一であるのみならず、一朝其家賃にして暴騰する場合は何程にても新家屋を建築する事によつて其需給關係と共に其家賃を調節し得るものであるから、家主は生産者である。而かも小作人が土地を賃借して農業を經營するのと同様に貸家主も亦土地を借入れて家屋を造營するものであるから小作人と何等の相違がないものである。察するに彼等は貸家主に於ける資金が多額であるのに對して小作人のそれが少額であるから特に貸家主を目して資本家とするのであると信するが、其實は小作人の經營が概して一ヶ年限りにして直接に資金の融通を受け難く従つて其資金が少額であるのに對して、貸家主の事業は一定の形體を有して半永久的であると共に登記を通じて資金の融通を受ける事が容易であるから其資金が多額であるが實際に於て投下して居る自己の資本額

は小作人に比して必ずしも多額ではないのである。而かも其資金の融通が容易である結果として貸家主はナケナシの小資本を以て借金によつて之を經營する事が出来るから、現今貸家主は其借金によつて四苦八苦を極めて居るのである。之に反して其家屋を建築するのに必要な土地は之を大局的に見て我國の面積に限りがあるから、我國に於ける人口が増加する限りは年々其地料を騰貴するのに加へて、新に之を作つて其需給關係は素より其料金も亦之を調節する事の出来ぬものである。現に目前に於ける事實として、大阪市に於ける土地は（殊に郊外に於て然り）引續きたる連年の不景氣に不拘年々其地料を引上げつゝあるから現在に於て家賃が低下せられぬのである。否な現在に於ける多數家主の内、其土地を併せ所有して居るものに在つては最初に其土地を安價に買入れて居つた上に於て相當の利益があるから其家賃に於て頗る遠慮して居るのに對して、他の土地を所有せず之を借入れて家屋のみを所有して居るものに在つては年々其地料の引上げに會すると同時に其家主は修繕に次ぐに修繕を以てせねばならぬのみならず空屋が生ずるのに加へて借入れて居る資本の利息によつて（而して借家に對する利息は特に高率である）困難しつゝあるのであるから其家賃に於て嚴格ならざるを得ぬのである。而し

て世間は概して此種の家主を稱して鬼家主と云ふのであるが、素より多數の内には眞實に鬼家主と稱する惡辣なるものがある事は事實である。而かもそれ等の家主が惡辣であるのは彼等がそれを營業として居る結果である。従つて家屋の如きものを營業として經營する事が不都合であると云へば兎も角もであるが、已に之を營業とする事を許した以上は、（營業とする事を許さぬ結果は國營であるが一切の貸家を國營とする事は如何）、多數の家主の内には於て惡辣なものを生ずるのは、恰かも多數商人の内には於て惡辣なものを生じ又は多數借家人の内には惡借家人を生ずると同一であるから、云はゞ止むを得ぬ世相の一つである。従つて其家主にして鬼家主であれば借家人に於て其家屋を立退くと共に何人も其家屋を借入れぬ事によつて一切が平穩に且合理的に解決せらるゝものである事は、恰かも惡商人に顧客がなくなるのと同一である。若し其家屋の位置が特殊の便利を有して居るのに就き借家人に於て立退く事が不利益であるとすれば、其便利は家主が之を造つたものでないと同様に借家人も亦之を造つたものでなく其土地に固有して居るものであるから、其便利による利益は國家に於て之を占有すべきものである。従つて地租を増徴して之を國家に徴收すべきであると同時に借家人に於て之が占有を主張す

る事の出来ぬものである。

更に多數家主の内善惡兩種の家主がある理由に就き之を説明する。此處に隣り合せに同一商品を取賣する二個の小賣商があるとして、彼等にして共に同一の經濟状態にあれば兩者の競争は單に彼等の商才と勤勉との差によつてのみ決定せらるゝのであるが、若し一方が多額の資金を有して其營業による利益の外更に資本による利息を收入しつゝあるのに反して、他方が他人の借家に住居して其家賃をすら支拂はねばならぬものである時は、其營業に關して一方が相當の餘裕があるのに對して他方は反對に苦悶せざるを得ぬのは當然である。要するに小賣商は素より各種の營業者を通じて其經濟状態の相異なるものが互に競争せねばならぬ事情にある事が——貧富の懸隔がある事が——現今社會に於ける一切のツラブルの根源である。従つて家主に在つても一方は其土地を併せ有して其經濟に餘裕があるのに反して他方は其土地を有せずして其經濟に餘裕がないのであるから、一方が其家賃等に對して通常計算を度外視して寛大であるのに對して他方は峻嚴ならざるを得ぬので、世間に於て惡家主と稱しつゝあるものは畢竟後者に對する批難である。茲に至つて私は何時もながらに我國人が感情的にして、政治上に在つて

は反對黨を目して亂臣賊子とするのと同様に、經濟上に在つても亦其計算に餘裕のない家主に對して惡家主呼ばりをするのを片腹痛く思ふものである。従つて現在社會の問題に關して強いて善惡の區別をする必要があるとすれば、其惡者は自己は何等生産する事なくして他の勞働又は勤勞しつゝ生産して居るものから奪掠する獨占權者にして、之を此場合に於ける事實としては利息によつて生活する資本家又は地主である。而して多數家主の内土地と共に家屋を併せ所有して居る者が資本家にして生産者を兼ねて居るものである事は、自作農が地主即ち資本家と勞働者とを兼ねて居るのと同である、而かも兩者は其資本家即ち地主である資格に於ては一般の社會から迫害せらるゝ責任があるとするも、生産者である資格に於ては同情せられねばならぬものである。殊に多數家主の内に於て土地を所有せず單に家屋のみを所有する者は小作人に相當するものであるから、其小作組合に於て小作人を擁護しつゝある無産黨にして其等の家主を攻撃するのは彼等の矛盾とペテンとである。

更に私の怪訝に堪へぬ事は、彼等に於て眞實に家賃を引下げて勞働階級を利益せんとするのであれば、何故に地租の増徴又は土地の國有と共に一切の税金全廢を主張して、家賃は素より

一切の日用品を併せて一舉に且根本的に之を下落せしむる事を企圖せぬのである乎、と云ふ点である。蓋し彼等に於て甚しき姑息と一種の狡猾とを藏して居るからである。

現今其土地の賃貸に關して、農村に於て其餘裕がないのに反して都市に於て其價值一杯の地料が徴收せられずして相當餘裕がある事は、私が「附録第五章、政治的腐敗の根源は政黨員にあらずして一般民衆にあり」に於て説明した處である。従つて此際地租増徴を主張するに於てはそれ等の遠慮せられて居る賃貸料が其極度又はそれに近い程度に迄引上げらるゝ恐れがある事は事實であるが、其引上げは經濟的自然の標準点に引上げらるゝのであるから苦情を云ふ可き筋合のものではないのと同時に、家主は素より一般勤勞者は一方には其引上げによつて不利益を受けても他方には一切の税金全廢の結果による物價の低落によつて利益するから其差引に於ては却つて利益である。然るに無産黨は其一時的地代の引上げと其結果に於ける家賃の引上げとを恐れて地租の増徴を主張し得ぬのである。之れが彼等に於ける姑息であると同時に狡猾であり且權謀である。私は無産黨にして合理的主張に立脚せぬと同時に成敗に抱泥して此の如き姑息と權謀とに出頭没頭する事は到底其大を爲す所以でない事を警告するものである。

現今無産黨の戰士は眞實に無産者の爲めに氣を吐かんとするものでなく彼等が單に自己の名を挙げ何等乎の名譽職に（代議士に當選するが如き）有り附かんとして無産黨戰士たる名を冒して居るものである事は、彼等に於て如上權謀を事とし多數借家人を煽動して禍根を數年後に貼すのに加へて一切の政治的改良の根據である民衆の自覺を促すが爲め地租増徴又は獨占權打破を絶叫する事を回避する事によつて之を知る事が出来るのである。茲に至つて想起する事は、ローマに於て平民黨がグラツカス兄弟の義死によつて非常なる信用を有して居つた時に際して民衆が無自覺であつたのに乗じて、シーザー及びオクタヴキヤス等の篡奪者が平民黨の首領としてマンマとローマの自由を奪ふて帝政を開始した事である。而かもシーザー及びオクタヴキヤスの徒が善政を施したと雖其反面に於ては彼等はローマの自由を奪ふて帝政を開始した結果としてネロ以下累代の皇帝に於ける大虐政を生んだのであるから、其功罪は到底相購ふ事の出来ぬものである。それと同様に現今無産黨戰士にして假りに無産者の爲め氣を吐き家賃の引下げに成功して一時的には民衆の爲め幾分の利益を生じ得たとするも、他方に於て民衆の自覺

を促し兼ねて獨占權を打破し民衆の經濟的自由を確保せざるに於ては、彼等はシーザー及びオクタヴキヤスの轍を履んで似而非なる篡奪を行ふものにして、彼等の行爲は結局に於て禍根を遺すものである。

更に私の知人にして其主義に於ては多少の相異はあるが私と同じく勞資問題に就き研究しつゝある某氏の言に曰く、「現在の無産黨戰士が似而非なるものにして全然自己の名譽の爲めにするものである事の證據は、私が斯問題に關して研究しつゝあるのに就き彼等に於て最初は私の主義に共鳴するが如く裝ひつゝ接近し來る乎と思へば、何時しか自己の立候補に際しては或は金錢上の寄附を求め或は選舉に關する應援を求めるのであるから、彼等は結局に於て主義の爲め虚心坦懷互に意見を交換せんとするものにあらずして單に自己の選舉の爲めに私を利用せんとするものである、云々」。茲に至つて私は現在無産黨戰士も亦頼むに足らず結局は民衆に於て自覺して自己の利益を主張するの外眞實民衆の利益を増進するの途はない事を信ぜざるを得ぬのである。而かも民衆に於て自覺せずして社會が行詰つた場合は恐る可き事件が発生するのであるから、此際は有産者側に於ても亦先手を打つて獨占權廢止を——少くとも地租の増徴

と他の間接税引下げとを——提起するの外、社會の安全を期する途はないのである。

更に最近に於て最も戒心を要する事は、近年伊太利に於てムツソリーニの獨裁政治が稍々好成绩を擧げつゝあるのに就き、我國に於ても亦漸く議會政治に對して呪咀するものを増加しつゝある事である。蓋し伊太利に於てムツソリーニの獨裁政治が行はるゝのは伊太利國民が無自覺であるからである。而かも同國は素よりムツソリーニ自身に在つてもムツソリーニ没後を如何せんとするのである乎、古來の歴史は特に獨裁政治の末路が悲慘である事に就き明示して居るのに不拘我國の今日に於てそれ等の獨裁政治が問題となるのは、我國人が同じく無自覺であるからである。

最後に最近支那に於て蔣馮對抗戰が開始せられて同國に於ける擾亂が止まる處を知らぬのも亦同國民が無自覺にして軍閥をして好き放題の事を肆にせしむるからである。

斯くて國民の自覺は百政改革の根源であるのに就ては無産黨戰士にして眞實に無産者と共に國家の利益を念とするのであれば、彼等は現狀に關してトツオイツする以上に國民の自覺に對して努力すると同時に何等權謀を用ゆる事なく正々堂々の陣を張らねばならぬ筈であるが、彼

等の爲さんとする處は以上の通りであるから彼等の意中も亦知るべきである。(十一月一日稿)

本文を脱稿した十一月十二日號大阪毎日及び大阪朝日の兩新聞は期せずして同じく借家問題に關する社説を發表して居るが、其所説は同じく家主と地主とに對して温情主義を勸説したのみで嘗て土地の私有を非認するに至つて居らぬのである。而して温情主義が結局に於て何種の問題をも解決するに足らぬものである事は周知の事實であるのに不拘、何故に兩新聞は素より現今我國の上下を通じて其所説が如上範圍を出で得ぬのである乎、要するに彼等は現今地主の勢力を恐るゝと共に現状に即して甚しき變事を生ぜざらん事に努めるからである。果して然らば彼等は文字通りに姑息因循であると同時に依然として獨占權の維持に努むるものである事を憐まざるを得ぬのである。嗚呼！(十一月十二日稿)

更に十一月十四日號朝刊に於て大阪毎日新聞は「安い家賃の話。二十年この方値上げせぬ家主」と題して其等の家主を目して奇特な家主として賞揚して居るが、現在社會に於ける一切の

ツラブルが單なる奇特によつて解決し得ぬのと同様に、現今借家問題も亦彼等の奇特によつては到底解決せられぬものである。加ふるに家賃問題が燃え上つて居る今日の場合新聞に於て之を奇特であるとして賞揚して居る文字の裡には何となく世間を煽動するが如き口調が含まれて居る乎に考へらるゝのである。而かも家主にして昔しながらの大家さんである事を理想とすれば兎も角も、産業の合理化が唱道せられつゝある——而して合理化せられねばならぬ——今日に於て、家主も亦一種の營業として採算的であらねばならぬのに就ては、二十年間家賃の値下げをせぬ家主は他方に於て經濟的秩序を攪亂すると同時に土地を持たぬ家主を死地に陥れるものであるのみならず、彼等自身も亦何時迄も値上げをせぬ事は出來ぬ何時乎は値上げをせねばならぬものであるから、五十歩百歩である。而して現在社會に於ける秩序を破壊し感情を以て道理を排斥せんとするものが危険思想であるとすれば、此種の温情は借家人を煽動するものであると共に一種の危険思想家であると云はねばならぬのである。而かも彼等が値上げをせぬ事の反面に於ては彼等は貸家の修繕をせず之を借家人に負擔せしめて居るてふ事實があるのみならず、(多額の修繕料を要する我國の貸家に關して自ら之を負擔しつゝ貸家賃を舊の儘に据

へ置く事は不可能である)、彼等に於て其家賃を舊の儘に据へ置く結果は空なる老舗料を生じて新らしき借家人は家賃の外其老舗料を併せ負擔せねばならぬから、折角の恩恵は偶舊借家人に一種の獨占權を與へて不當に之を利益するに止まり、何等新らしき借家人を利益する事のないものである。私を以て之を見る。家主にして眞實に社會を益し之を救はんとするのであれば、須らく家賃は適當に値上げして一應經濟的自然の秩序に適應すると同時に、其收入を擧げて現在社會に於ける不平均を療醫する所以の研究及び運動に資すべきである。

以上と其形を異にして其精神を同ふする實例がある。それは多年運動の結果此回に至つて始めて認可せられた大阪市營バスの堺筋及び南北線乗入に關して、大阪府が理由なく乗合會社を庇護する傾があるのが不都合であるとして、私は嘗て成るべく市バスに乘車する事が市を愛護する所以であると考へたのであるが、今日に至つては市バスの數が會社バスに比して少數である結果其度數が少なく甚しく不便利であるのに不拘、私共に於て市バスに乘車する事によつて市バスが相當の結果を得る場合があるとすれば、市は其好結果に甘んじて永久に現在の車數に満足する恐れがあるから、私共に於て自己の不便を忍んで市バスに乘車する事は眞實に大阪市

を愛護する所以でないのである。詳説して私共は顧みて他人に迷惑を生せぬ以上は自己の利益と便利とを全ふする事が眞實に自己と共に社會に對して忠實なる所以である。而して二十年間家賃の値上げをせぬ家主は自己の不便を忍んで市バスに乘車するものと同一にして眞實に社會を愛するものではないのである。要するに我國人は素より大阪毎日新聞ともあるものが依然として個人の溫情によつて現在のツラブルを解決し得るものと考へて居るのは、甚しき不覺にして私の斷じて取らぬ處である。(十一月十四日稿)

家賃問題が提起せられて以來今日に至つて家賃が續々と値下げせられつゝあるのに就き、論者は定めて、「彼れ此れと云ふても家賃は實際に於て値下げせられつゝあるではない乎。理窟は兎も角も實地としては社會の事は何かの動機がなければ動くものではない。而して此回の家賃値下げ運動は其動機の一つである」と云ふであらうと信するが、私を以て之を見る。素より多數の家賃の内には不當に値上げをせられて居つたものがあるから何等乎の動機によつて値下げせられるのは當然である。而かも此種の家賃は少數であると同時に其借家人に於て他の借

家に轉居しそれ等の借家が空家になる事によつて値下げをせらるべく又値下げせられつゝあるのである。而して此種の高値家賃の外現在に於て値下げせられつゝあるものは、家主の同情即ち温情に出づるものにあらざれば、對世間關係に就き氣兼ねした結果であるから、換言して一種の恐怖心によるものであるから、經濟的理論外である。而して私が此回の運動を目して有害とするのも亦、此種の値下げの結果が、或は將來の暴騰を胎み、或は騒ぎさへすれば物になるてふ社會心理を煽動して由々しき社會事情を挑發する恐れがあるからである。否な現在の事情は己に一種の危険状態と皮一重である。古來幾多の革命は謂ふ所の識者に於て善事と信じ有天頂になつて運動しつゝある間に意想外の珍事を出來せしめたのである。而してそれ等の實例は總べてそれ等の運動が合理的にあらずして感情的である事の特徴を有して居るのである。私は重ねて識者の猛省を促さざるを得ぬのである。(十一月十五日稿)

更に我國の借家賃が不廉であるのは地代が高率である事を外にしては修繕費に多額を要するからである。従つて修繕費を必要とせぬ程度に其最初に於て堅牢なるものを造つて置けば良い

のであるが、事實は我國に於ては金利が高率であるから建築費に多額を繼ぎ込む事が不可能であるのに加へて、我國の建築方式が兩戸を大きくしてある等自然に多額の修繕費を要する様になつて居るのである。加ふるに我國人が公德心に欠けて居る結果は他人の物とさへ云へば亂暴なる取扱をするので、借家の如きものに對しても亦之を家主側から見て涙の出る程である。従つて其貸家の修繕をせぬ家主に於て二十年間家賃の値上げをせぬ事は其聲の大なる程に奇特ではないのである。兎に角に事の生ずるのは生ずる所以の理があるのであるから、之を經濟的に自然に放任するのが最も合理的である。(十一月十六日稿)

新聞紙の傳ふる所によれば大阪市の無産黨は更に瓦斯の値下げ運動を開始する由であるが、瓦斯は獨占事業であるから計算上値下げの餘地があれば政治的に之が引下げ運動をする事は有意義であるのみならず、更に進んで之が市有運動を起すべきである。(十一月二十一日稿)

附録第三章 私が政治の實地運動に

關係せぬ理由

嘘から出て眞實である乎、又は眞實から出た嘘である乎、最近私の郷里に於ける某政黨關係者から私に對して頻りに將に來らんとする總選舉に際して實地の政治運動に關係する事を勧誘せられたのに對し私は以下の通りに答へたのである。

私に於て實地の政治運動に關係すべく再度の御申聞けに對して正直に申し上げますが、私も亦人間でありますから多少の榮譽心があるのに加へて現在主張しつゝある主義を宣傳する上に於ても、私に於て實地の政治運動に關係する事は非常に便利でありますから、私に於て斷じて其意志がないと申すのではありませんが、社會に於ける事情が現在の如くあるのに就ては私は遺憾ながら斷念せねばならぬのであります。其理由は左の二つであります。

一、實地の政治は數の戰爭でありますから私に於て出馬するとすれば何れかの政黨に屬せねばならぬのでありますが、私は不幸にして現在の政黨中貴黨は素より何れの政黨にも私の籍を置くに足るものを發見し得ぬのであります。而かも重ねて正直に申し上げますが現在の政黨中最も私に近いものは社民黨であります。而かも彼等も亦彼等に於て地租増徴を主張する事は、小作人に於て小作米の減額運動に關して、又は借家人に於て家賃の値下げ運動に關して、共に不利益であるとして反對する等の事情に牽制せられて之を主張し得ず、却つて他の無効にして不條理なる運動を爲しつゝあるのであるから、私は之に加盟し得ぬのであります。斯くて私は私の主義に忠實である限りは現在の政黨中其何れにも屬する事が出来ませんから、直ちに私の經綸を行はんが爲めであるとすれば私は斷じて出馬し得ぬのであります。

二、而かも尙私の出馬を以て直ちに私の理想を實現せんが爲めでなく、單に其地位と肩書とを利用して機會のある毎に他の政黨員と共に一般民衆に對して私の主義を宣傳する爲めであるとすれば、私の出馬は決して無用ではないのであります。私は私の信念に於て、何種の事業たるを不問それ／＼にその目的によつて邁進すべく斷じて之を利用してはならぬ、之を利

用するのは結局に於て之を悪用するものである、換言して議員は議員として誠實に當面の政治に盡力すべく、宣傳は宣傳の手段によつて宣傳すべく、斷じて彼れ此れ混淆する事は出来ぬ、假令ひ國政に盡力する結果が自然に宣傳の効果を發揮する場合があるとするも、それは自ら別論である、と信じて居るものであります。加ふるに現在に於ける選舉民の情態では私は私の資産を蕩盡して私の一身を亡ぼすと共に臆がては社會に迷惑を生ずる恐れがありますから、斷じて出馬し得ぬのであります。

貴兄よ！、昨今新聞紙上に於て日々其醜態を暴露しつゝある多くの疑獄事件が生じた所以の事情に就き御一考を願ひます。申上げる迄もなく彼等多數の醜類を通じて只の一人たりとも其最初に於て收賄せんが爲めに出馬したものはないのであります。否な彼等の總べては必ず英氣颯爽自ら顧みて乃公出でずんば蒼生を如何せんと云ふ意氣を以てしたのであります、さて實際に出馬して見れば案外に多額の資金を要して折角の資産を蕩散し盡した時分に至つて、漸くにして自己の名聲が世間に知られて之から何程乎の仕事が出来ると思はるゝ時分であるから、彼等は政界から退かんとして退き得ず所謂「負け賭博のシコリ打ち」てふのと同じの心理によ

つて政界に執着する結果、何時しか其良心が癱痺して不知不識自己自ら其理由とする事の出来ぬ理由を附けて、「此位の事は差支へがない」と云ふて一日くゝと深海へ陥り行く結果が、現在の疑獄となりつゝあるのであります。従つて選舉民の狀態にして現在の如くである限りは「君子は危きに近よらず」で、先づ出馬せぬのが最も賢明であります。

以上の如く申上げれば貴兄は定めて「それでは甚だ非愛國である。現在の國狀は然かく非愛國である事を許さぬではない乎」と云はるゝであらうと信じますが、私も亦現在の國狀が重大である事は百も二百も承知して居ります。然かし其重大なる所以は敵國外患から來て居る急性的にして旦夕を計り得ざる底のものにあらずして、選舉民の無自覺から生じて居る肺癆的のものであるから、此際は自重して先づ自己一身の安全を計り延いて社會に迷惑を生ぜぬ丈けの地位を確保した後には於て選舉民の自覺を促す事が、最も必要であると信じます。而して私が現在に於て爲しつゝある運動はそれでありませぬ。貴兄よ！我國に於て無二の忠臣と云はれて居る楠公は自ら進んで王難に赴かれたものでなく、却つて後醍醐天皇の御召しによつて出馬せられたものであります。又之を讀んで泣かぬものは人にして人にあらずと迄云はれて居る程に忠誠の

精神に燃へて居る出師表を作つた諸葛孔明も亦、自ら進んで其一身を劉徳帝に捧けたものでなく、其出師表に書かれてある通りに帝から三度び狂駕せらるゝに及んで其倚托に答へられたのであります。斯の如く楠公及び孔明の如き方々にして尙且然るのは何故であります乎、之は如何に忠誠を抽きんとするも自己に對する信任が厚くなければ何事をも爲し得ぬから御信任のある事を確めた上に於て始めて出馬せられたのであります。果して然らば文字通りに國家に於ける危急存亡の場合を除いては一般選舉民の心ながらの推薦なくしては、出馬する必要も義務もないのであります。之に反して貴兄及び私の朋友諸氏は頻りに私の出馬を促さるゝのであります。私をして無遠慮に申上げる事を御許し下されば私は朋友位の範圍に於ける勧誘では出馬せぬ、必ずや全選舉民大部分の勧誘でなければならぬのであります。否な政治と交友とは別物でありますから私は私の理想を諒解して頂いて居るてふ意味以外に友人なるが故の推薦によつて出馬する事は、眞つ平であります。而かも私は從來全選舉民に知られて居りませぬから現在の場合に於ては全選舉民から其推薦を得る事が出来ません。茲に至つて貴兄に於て眞實私を推舉せらるゝのであれば先づ私の土地國有論を紹介せらるゝ意味に於て全選舉區に亘つて私

の爲に講演會及び研究會を御開き下さい、斯くて私の理想が全選舉民に諒解せられた後に於て選舉民から推薦せらるゝのであれば、私は一考致します。それが至當の順序であると同時に正々堂々たる方法であります。而かも私の講演會開催に就ては私は私の一身に關する一切の費用は自辨しますから、其他の一切の費用は貴兄又は選舉區側の負擔である事を條件と致します。更に貴兄は私が實地の政治に關係せず單に政論のみを事として居るのに就き、私を以て或は空論をなし或は虚名を賣らんとして居るものであるとせられて居るのではない乎と察しますが、斷じて然らずであります。蓋し何時の世如何なる場合に於ても國家に於ける大改革に就ては豫め其思想を研究し之を弘通するものが必要であります。例せば、水戸に於ける大日本史が遠く維新の改革に對する先驅であつた事の如き、又は徳川氏の末葉に際して或は勤王佐幕論があり或は公武合體論があり共に如何にもして幕府を其儘に存在せしめて時局を收拾せんとした當時に在つて、密かに否な盛んに勤王討幕の大義を主張したものがあつた事の如き、其思想的先驅又は準備をするものが必要であつたからであります。而して現在に於ける政界の行詰りに際して朝野の政治家が期せずして共に同じく如何にもして地租の増徴を避けんとして居るのに對

して、私が地租増徴又は土地國有以外に之を展開せしむる所以の政策がない事を主張し且研究しつゝあるのも亦、然りであります。斯くて私は空論を弄び又は虚名を賣らんとするものでなく、只野に叫べる豫言者として聽がて來らんとする國家の變革に備ふると同時に其災を小化せんとして居るのであります。而かも我國の現状は到底地租増徴又は土地國有を外にして其行詰りを展開し得ぬのでありますから、數年若しくは十數年にして必ず之が實行せらるゝ事は火を見るよりも尙明白であります。私は切に貴兄が此点に就き了解せらるゝと同時に此意味に於て私の爲めに土地國有論講演の機會を興へらるゝ事を希望します。

最後に廣い世間の内には私が多少の資産を有しながら政治的運動に關して嘗て之を散ずる事をせぬのを以て一概に私がケチな結果であるとせらるゝ向があると信じますが、之れ又當らずであります。蓋し私は現在に於て相續人を有して居らぬ従つて私の家族は私共夫婦のみであるから、私が現在に於て所有して居る鼻冀程の資産は私共の生存中に於て費消し去るも差支へがないのみならず私も亦之を散ずるのに就き甚しき執着を有せぬのであります。私は尙私自身に於て合理的であると信ずる事業以外に之を費消するのを以て所謂冥加に盡きると信じて居る

のであります。而かも私は素より私の妻も亦共に此先き何年にして其生命を終る乎を知らぬのに就ては、私共が今日に於て其元本を消費し去る事は顧みて自ら安んずる所以でないから、現在に於て私共が費消し得る範圍は私の資産から生ずる收入に過ぎぬのであります。而して私は現在は素より過去に於ても讀書以外に道樂と云ふ程の娛樂を有せず、只私が無學である結果旅行によつて私の土地國有論に關して實地の研究をするのに加へて之が宣傳に其收入の全部を費消しつゝあるのでありますから、私は現在に於て己に手一杯であると同時に自ら顧みて最も合理的理財法と生活とを實行しつゝあるのであります。若し夫れ現在の住宅に至つては、私の晩年に於ける一大失策にして私が良心に於て恥辱を感じつゝある處のものでありますから、別途のものとしてお考へ下されたいのであります。云々。

附録第四章 小商工業者の資金難

一昨年の大恐慌以來我國に於ける資金偏在の結果今日に至つて尙未だ解決せられず引續き我國の一般を悩ましつゝある大問題の一つは小商工業者の資金難であるが、此問題は他の一つである彼等の經營難と共に全く同一の問題である。何となれば經營難であるから信用が乏しい、従つて資金の融通を受け得ぬからである。

小商工業者の資金難には更に二つの要点がある。其一は文字通りに小商工業者の資金難にして、其二は特に農村に於ける小商工業者の資金難である。而して前者は資金が大銀行に偏在した結果小商工業者に對する貸出しを危険とする結果にして、後者は資金が農村に於ける小銀行から都市に於ける大銀行に集中した結果であるから、兩者は全く同一の現象である。而して今日迄斯問題に關して我國の商工會議所及び識者と稱せらるゝ人々は種々の對策を講ぜられたのであるが、其多くは例によつて例の如くに低利資金貸出しの如き國家の保護によつて之を解決

せんとするの過ぎなかつたから、皮肉と云ふ可き乎、折角の低利資金に對して借手がなく豫定の貸出しが出来なかつたのである。

蓋し何事に限らず一つの事實が存在して居るのに就ては必ず其因つて然る所以の理があるので決して偶然にして存在して居るものではない。而して小商工業者の資金難は、私が曩きに記述した通り彼等の經營難であると同時に遠き過去から發生しつゝあつた現象にして、偶々一昨年の大恐慌を期として我國に於ける資金が偏在した結果表面に現はれ來つたのに過ぎぬので、其由來する處は遠く且大であるから、之を救済せんとするに就ては須らく其理の基づく處を極めて之を根本的に療治するにあらざれば、到底其目的を達し得ぬものである。

從來に於ける小商工業者の救済が無効にして失敗したのは、彼等に於て、小商工業者が幾分の資金と商才とを有して小規模ながらに所謂商工業と稱するものを營んで居るのに就き之を目して資本家の一部であると見做して、専ら資本的に之を救済せんとしたからである。私を以て之を見る。小商工業者は素より大商工業者と雖も共に生産者にして一般労働者と同列にあるものである。而して現今大商工業者に於て資金難がないのに反して小商工業者に限つて之れがあ

るのは、既述の通り資金が大銀行に偏在した結果彼等に於て小商工業者に對する貸出しを危険視且面倒視するからである。而かも小商工業者をして其經營難から脱出せしめて其營業を安定せしむるに於ては、大銀行と雖之を危険視する事がなくなるから彼等の資金難は忽ちにして解決せらるゝのである。茲に至つて小商工業者に對する資金難救済は（救済てふ文字の使用が許されるとして）彼等の經營難救済であらねばならぬのである。而かも小商工業者の収入は労働者のそれを標準として其上に彼等が有して居る資金と商才とに準じて幾分の割増を加へた程度であるのみならず、彼等は労働者から轉じて其營業を開始し一朝其事業に失敗する時は忽ちにして元との労働者に復歸するものであるから、彼等の經營難救済は即ち一般勤勞者の生活難救済である。（此点に關しては大商工業者と雖同様で彼等が大資本を擁して居る点に於ては資本家の如くであるが、其實は彼等が有して居る資本の額は我々から見ても大資本であつても、之を彼等が運轉しつゝある資本の總額から見ると同じく小資本である。而して彼等は彼等の事業を有利ならしむる爲めには彼等が有して居る資本の不利益を忍んで彼等が運轉しつゝある資本の利息が一厘にても低率ならん事を希望しつゝあるのを見て、彼等は資本家でなくして企

業者である。而して彼等は彼等が有して居る頭腦的労働によつて身を立てんとするものであるから、其種類と程度との差はあつても同じく勤勞者即ち労働者であると同時に、彼等の収入は彼等が資本家の代理人として特別の報酬を得つゝある以外は、労働者の賃金に加へて彼等が有する才智に準應する割増を得つゝあるのである。只此場合に於て相違する点は、彼等は労働者であつても相當多額の資本を運轉しつゝある上に於て資金難を感じず容易に融通を受け得る丈の差である。斯くて一般労働者の生活にして豊富であれば、直接には小商工業者の収入を豊富ならしめ延いては其經營難を救済する所以であり、間接には小商工業者にして一朝其事業に失敗するに於ては直にそれゝの労働に轉ずる事によつて其生活を得せしむるのであるから、小商工業者に於て絶へて不安を感じる事なく従つて其資金難も亦自然に解決せらるゝのである。斯くて小商工業者の資金難に對する解決は一般労働者の生活難解決であるから、其由來する所は果して遠く且大なりである。而してそれは私が別章に於て反覆説明した通りに、一は一般労働者の収入を増加し、他は日用品の物價と共に彼等の生活費を低下する爲め、土地を國有として兼ねて一切の税金を全廢するの外ないのである。

更に此機會に於て記述する事は現今大都市に於ける百貨店對小賣店の商品切手問題である。由來我國の大都市に於て百貨店が繁榮するのに反して小賣店が衰微するのは、顧客側が益繁忙になつたのに際して、都市の膨脹に伴ひ各種の商品に關して特殊の信用と老舗とを有する小賣店が市の各方面に散在するに至つた結果、其等の特殊店の一々につき之を買求むる事が困難となつたのに加へて、一般の小賣店は何等特殊の信用と老舗とを有せぬと共に其値段も亦不廉であるから、旁々信用があると同時に各種の商品を取り揃へて、(其品質は大衆的であるから幾分は特殊店に劣るとしても尙忍び得る程度である)、一ヶ所にて總べての需要を満足せしめ得る大百貨店が、繁昌するに至つたのである。其著明なる證據は、同じく百貨店中に在つてもそれが大であれば大なる程一層に繁昌しつゝある事實に見て、之を知るべきである。而して商品切手は、社會に於て進物の必要があるのに就ては、確實なる信用と共にヨリ多くの流通性を具備して居る大百貨店のそれが歓迎せらるゝのであるから、之を法律又は政府の權力によつて阻止せんとするのは無理解である。而して之が唯一の救濟策も亦一切の獨占權を打破して労働の

價値を向上し、彼等をして衣食足つて禮節を知らしむると共に如何なる小賣店と雖大百貨店に劣らぬ信用を保有せしめ、兼ねて其等の小賣店にして不引合であればドンドン廢業して労働によつて相當の生活を得せしむる事が必要である。斯くて結局は、労働の報酬が豊富にして之によつて相當の生活を營み得むるに於ては、小商工業者も亦相當の生活を營み得ると同時に何時でも労働に復歸する事によつて其生活に窮する事がないのであるから、何等の問題は生ぜぬのである。

更に農村に於ける小商工業者の資金難も亦其直接の原因は資金偏在の結果資本が農村に欠乏して居るからであるが、さて然らば現在に於て資金が都市に集中しつゝ其運用難を啣つて居るのに不拘何故に農村に限つて欠乏する乎と云ふに、農村は事業が少ないから資金の運轉回數が少ない、従つて表面の利息割合は低率でも其運轉回數が頻繁である事によつて實際の割合が高率である都市に集中すると同時に、都市に於ける生活に餘裕があるだけ都市に於ける貸出が安全であるからである。而して更に何故に農村に事業が少ない乎と云ふに農村に利益が少ないからである。而して更に何故に農村に利益が少ない乎と云ふに農村の生活に餘裕がないからであ

る。而して更に何故に農村の生活に餘裕がない乎と云ふに、土地が私有になつて居ると同時に都市の人口が農村に比して早く且多く集中し土地に於ける利益が都市側に於て早く且多く増加したから、各種の娛樂機關と文明的施設とが早く且多く都市に發達した結果、農村の地主をして相率いて都市に移住せしむるに至つて、農村をして荒廢せしめ農村の生活をして餘裕のないものとならしめたのである。茲に至つて農村に於ける小商工業者の資金難も亦農村に於ける荒廢と同一の問題である。

以上現今我國に於ける各種の問題は皆に小商工業者の資金難のみに限らず其根源は、總べて私有とすべからざる土地を私有とし兼ねて各種の獨占權を存在せしめて居るからである。東京市郊外に於ける町村が不斷に人口の増加に接しつゝ其財政難に苦んで居ると云ふ事の如きも亦其土地が私有になつて居るからである。何となれば、人口増加の結果其財政を膨脹せしむる事は事實であるが更に同一程度に於て増加するものは土地の收入即ち地代であるから、土地が國有であると同時に其増加する地代を徴收して増加する財政に應ぜしむるに於ては、皆に何等の支障がないのみならず人口の増加は多々益々辨するのである。而して我國の政治家は素より學

者も亦其等の事情を理解して居る乎否乎は知らぬが、彼等は言ひ合せたるが如く絶へて土地問題に觸るゝ事をせず徒に枝葉に抱泥して如何にもして目前を糊塗せんとするから、現在に於ける諸問題に關して其一つをも解決し得ぬのである。彼の三大國難問題の如き徒に其國難たる所以を唱道するに止まり其之を療治する所以の根本策を回避するから之を如何とも爲し得ぬのである。

最後に土地の國有は一切の問題に對する唯一の解決方法であるが、之を今日に於て直ちに實行し得ぬとすれば先づ地租を増徴すべきである。地租の増徴は何等の準備を要せず議會に於て一片の議決をすれば直ちに實行し得るのである。而して地租の増徴にも亦其程度があるが、假りに之を極度に増徴して土地を所有するも些の利益がない迄に増徴すれば其結果は即ち土地の國有と同一である。斯くて地租の増徴は小乗にして土地の國有は大乗である。而かも私は極端なる地租の増徴は地主の既得權を害するものであると信するが故に土地の國有を唱へるのである。(七月廿八日稿)

更に一言を添へる。私が一方に地租の増徴を唱へつゝ、他方に一切の税金全廢を主張するのに就き、地租も亦税金の一つではない乎と云はるゝ向があるのであるが、地租は税金ではないのである。蓋し土地は、其素質に於て人間が造つたものでなく天然自然に於て存立して居るものであると同時に、需要の増加に準じて新に之を造つて之に應ずる事の出來ぬものであるから、國有であらねばならぬものである。従つて地租は地代即ち借地料にして政治上に於ける各種の手數料と其性質を同ふするものである。

附録第五章 政治的腐敗の根源は政黨員に

あらずして一般民衆にあり

今や中央及び地方を通じて主として政友會系政治家に關する收賄及び詐偽の檢擧が頻行せらるゝのに就き、一般民衆は今更ながら政友會員の破廉恥に驚駭しつゝあるのであるが、私を以て之を見る、彼等の腐敗は極端ではあるが國民にして清廉であると同時に其政治に注意するに於ては政治家に於て斷じて腐敗し得ぬのであるから、民衆の腐敗が否な民衆が其政治に注意せぬ事が根本的にして政治家の腐敗が枝葉的である。詳説して一般民衆が消極的に腐敗して其政治に注意せぬから政黨員が積極的に腐敗したのである。茲に於て私は此回の檢擧に關して一般民衆が他人の事でもある乎の如く彼れ此れと言ひ觸らしつゝあるのに對して、「汝曹己が眼に梁のある事知らずして他人の眼にある塵を取らせよと云ふ乎」と云はざるを得ぬのである。

更に之を理論的に云ふて、政治家にして聊かにも如何はしき行爲がある場合は忽ち新聞記

者が訪問して兎角の質問をすると同時に之を紙上に發表するのであるから彼等に於ける腐敗は少ないのに反して、何等其様な手續と方法とが行はれぬ一般民衆に於ける腐敗が多いのである。

更に現在の腐敗は中央に於て多く地方に於て少ないと云はれて居るのであるが私は以上と同一の理由によつて之を信じ得ぬものである。否な、中央に在つては其事件が大であるから一朝反對黨政府に於て決心すれば忽ちにして檢舉し得ると同時にそれが公表せらるゝのであるから頗る仰山に見へるのであるが、地方に在つては其事件が其環境に準じて小である代りに絶對的に多數であるから之を檢舉せんとするも其煩に堪へぬ結果偶々それ等の事件が公表せられぬ迄である。

更に之を理論的に云ふて、解散を以てする議會の政治は比較的に公明であると同時に民衆の感興を喚起し彼等をして之に注意せしむるものであるから腐敗の少ない政治である。加ふるに一般民衆の智識は中央に於て進んで地方に於て後れて居るのであるから、中央の腐敗が地方に比して多かるべき理由がないのである。

以上に關連して私が想像する處によれば政友會政府は彼が如き惡辣振りを發揮して頗る多額の惡錢を集めたのに不拘、最早今日となつては將來來らんとする總選舉に際して其資金に困難する程度に無一物であるのは何故である乎と云ふに、其主なる原因は各地方を通じて彼等の黨派に従屬して居る多數のボスを養はねばならぬからである。私は久しく地方に住居し今日も尙常に相當の接觸を保つて居るものであるから地方の事情に關しては相當に通じて居るのであるが、當今各地方にゴロヅイテ居るボスは（東京市に在つては知事級其他の官吏及び前代議士等の古手が）多數である。従つて現今政界を廓清するが爲め中央及び地方を通じて一切の腐敗分子を檢舉する事は確かに彼等を威脅する所以であるが、而かも禍福は共に生ずるの日に生ずるにあらずして因つて生ずる所以の理があるので、檢舉は單に之を脅威するのに過ぎぬものであるから、其因つて生ずる所以の理に遡つて之を根治するが爲めそれ等のボスをして生存し得ざらしむる様にする事が必要である。而してそれは唯一中央と地方との政治を全然別個の存在として彼此關連せざらしむ事、換言して現在の中央政治に關する政黨に對抗して地方政治に關しても亦同じく別個の政黨を成立せしめて彼此關連し得ざらしむる事が絶對的に必要である。而

してそれは地方政治に關しても亦、同じくそれ／＼の行政長を公選すると共にそれ等の行政長に對してそれ／＼の議會解散權を與ふる事によつて、地方民をして其政治に感興を惹起し之に注意せしむるの外はないのである。

更に當今我國政界の腐敗は單に政界だけの腐敗でなく我國の全般を通じた腐敗の結果が政界に及んで居るのである。換言して、現今政治家は政治的罪惡によつて、紳士は獨占權事業によつて、中小商工業者は其従業員を搾取する事によつて、順次にヨリ大なるものがヨリ小なるものを壓迫又は搾取しつゝあるのに對して、一般民衆は唯生きんが爲めに直接行動によつて各種の罪惡を敢へてしつゝ、所謂舉國一致を以て腐敗と盜みとに精進しつゝあるものにして、古代に於けるソドム及びゴムラの兩市も斯く迄ではなかつたであらうと信ぜらるゝのである。(十月十日稿)

昨今に至つて疑獄事件は民政黨にも波及した模様であるが左もあるべく當然の事である。要するに現在の政界に於ける腐敗は其多少と深淺との差は兎もあれ政界の一般を通じた現象であ

るから、獨り政友會員のみに限つて之れあるべき理由がないのである。而かも腐敗は政界だけでなく廣く且先きに我國の全般が腐敗した結果偶々政界に波及して居るのである。而して其原因は現今社會に於ける貧富の懸隔に基づくものである。蓋し私が別章に於て記述した通りに貧者は、假令自己の家庭に於ては其妻子を日干しにする法はあつても自己の身成りを飾るにあらざれば社會に於て人間並の待遇を受ける事が出来ぬから、——妻子も亦それを止むを得ぬものとして是認して居るから——、無理算段を重ねつゝあるのである。従つて偶々何乎の機會があるのに際しては不正を働らかざるを得ぬのである。而かも又それ等の傾向が智識階級に於て一層に顯著であるのは彼等の智識が進んで居る丈け其趣味嗜慾が共に發達して居るからである。私は割合に下情に通じて居るものであるが、我國のサラリーマン社會は概して門構への借家に住居して家賃として其月俸額の四割内外を支拂ひつゝあるから、其會計は通常月俸は素よりボーナスを加へても尙且不足を告げるのである。此の如くにして相當の機會があり且誘惑が伴ふ場合に於て能く廉潔であり得る事は木に縁りて魚を求むるよりも尙困難である。斯くて我國の政界に於ける腐敗は一般社會の腐敗に原因し一般社會の腐敗は貧富の懸隔に由來するもので

あるから、刑事政策の如きは偶々一時的に之を威脅する効果はあつても之を根治する事は絶対に困難である。従つて貧富の懸隔を醫する事をせずして獨り刑事政策にのみ依頼するのは結局に於て徒勞である。

現今次から次に疑獄事件が発生するのに就き其最大の原因は選舉に多額の費用を要するからであると云ふて居るが、私は半ば之に首肯し半ば之に首肯し得ぬものである。何となれば、選舉に多額の費用を要する事は其原因の一つであるには相違はないが、而かも其費用は選舉から選舉に至る迄の期間を通じて唯の一回限りであるから、之を其等の代議士其者から見る時は多額の負擔ではあるが、之を政治界の大局から見ると寧ろ少額であるからである。蓋し政治界として多額の負擔は、そんじよ其處等にゴロヰイテ居る多數の浪人者と選舉ブローカーとを養はねばならぬと同時に、次期の選舉に備ふる爲め何乎につけて札ビラを切らねばならぬ費用である。従つて現今政界の廓清を期するが爲めには是非共一方には選舉の費用を減すると同時に他方には其等の浪人者及び選舉ブローカーを一掃する事が必要である。而してそれ等の兩方は

選舉其物を廓清すると同時に地方自治を擴張する事によつて中央の政治を簡單化し彼等をして政治に寄食し得ざらしむるの外ないのである。而してそれ等の一切は更に民衆の自覺を促す事によつて成就し得らるゝのである。而かも當今唯の一人と雖如何にして民衆の自覺を増進せしめ得べき耶に就き云爲するものがないのであるから、私は今更ながら我國政治家の其日暮しに憤慨せざるを得ぬのである。(十一月二十六日稿)

附録第六章 地方政治と政黨色の排斥

這回大阪市に於ける市會議員の改選開始に先立つ數日大阪府下に於て發行する十二新聞は聯合して彼等の協定による警告文を發表したのであるが、其内最も重要な点は、(一)、議員の人物に注意する事。(二)、政黨色を有する候補者を排斥する事、の二つであつた。之に對して私は其警告は全く要領を得て居らぬ十二新聞ともあるものが何故に彼が如き無意味の事を發表した乎を怪んだのである。以下之を説明する。

一、這回の選舉に際して私は當市移轉後二ヶ年未滿で選舉權がなかつたから幸にして(私は敢へて「幸にして」と云ふ)自ら候補者を撰擇するの煩を免れ得たのであるが、若し不幸にして選舉權を有して居つたとすれば私は如何にして其多數候補者の中から之を撰擇すべき乎に就き困難した筈である。蓋し選舉期間中の二十日間を通じて毎夜漏れなく各候補者の演說會を聞き廻る事は容易でないのみならず、假令ひ之を實行し得たとするも一度又は數度其演說

を聞いた位で其候補者を撰定する事は思ひもよらぬ所である。而かも私は當市在住以來二ヶ年未滿であつたから私に限つて然るのである乎と云ふに、假令ひ當市に於ける在住が數十年に亘るものと雖相當の社交を有し且政治を理解するものにあらざれば、之が辨別は到底に不可能である。茲に於て其候補者にして政黨によつて擁立せられたものであれば選舉民は假令ひ各候補者に就き直接其人物を知らぬとするも、其政黨に就ては其主義政策及び其信用の程度を知る事が容易であるから、安心して其推薦に係る候補者に投票する事が出来るのである。斯くて私は政黨なくしては候補者の撰定が不可能である上から見て十二新聞の警告は全く無意味であつたと信ずるものである。

二、而かも從來の通り府縣以下市町村に至る一切の地方政治に關して、中央政治其儘の政黨を保持む事の不條理である事は、云ふ迄もない處である。之れが此回の市議改選に際して府下十二新聞が政黨色を有する候補者の侵入を排斥した所以であると信ずるが、それは恰かも臆に懲りて羹を吹くのと同一で思はざるの甚しきものである。何となれば、政黨は必ずしも中央政治に關するものゝみに限らず更に府縣以下市町村を通じて各別にそれ々の政治に關し

て各別の政黨を組織せしむる事が不可能でないからである。而してそれ等各別の政黨を組織しそれ等の政黨によつて擁立する候補者を選擧せしむるに於ては、常に中央に於ける政黨色を其儘に輸入する事を防止し得るのみならず、地方政治を政論化すると同時に之を公開する事も亦可能である。茲に至つて特説せねばならぬ事は、由來我國の輿論に於てデスプオート（爭論）とデスカッス（論争）とを混同して争論を排斥せんとするの餘り論争をも併せて排斥せんとする、——之を此場合に適用して地方政治を公開的のものとして之を主義と政策との對抗戦とする事を排し之を單なる協議化せんとする、——誤つた思想に捉はれて居る事である。察するに彼等は地方政治に關しては昔ながらの膝も談合の主義により一切を擧げて協議的に處置し得べく又處置せねばならぬと考へて居るのであると信するが、其結果は其等の政治を擧げて四疊半式又は少數者の獨占に歸せんとするものである。斯くて彼等は國家の政治が主義と政策との黨争であらねばならぬ事を主張しつゝ、地方の政治に限つて之を少數者の協議とせねばならぬとするのは、根本的誤謬に陥つて居るものである。蓋し一身又は一家の些事に關する事でも必ずや其主義により其政策を決定するにあらざれば其一生を通じて一定

の方針を持續する事が困難であるとすれば、之を地方政治としては一層に主義と政策とに關する對抗戦とせねばならぬので、何ぞ獨り中央政治のみならんやである。蓋し争論は如何なるものに關しても不可であるが、論争は其理非曲直を言論によつて決する所以であるから何等不都合がないのみならず、却つて之を論争化する事によつてのみ其政治を公開的ならしめ得るのである。而して其地方政治を論争化するが爲めには政黨は是非共に必要である。而かも地方毎に各異つた政黨を組織せしめる事によつて能く中央の政争をして地方に波及し得ざらしむることが出来るのである。否な現在に於て中央其儘の政黨が地方に侵入するのは地方毎にそれ／＼の利害によつて組織せられた各別の政黨がないからである。試みに茲に一人の國會議員があるとせよ、其議員は其選舉に際しては多數の黨員又は同情者の支持に待たねばならぬのに就き、彼は其多數の援助者又は同情者に酬ゆる爲め、或は之を府縣會議員に推擧し、或は之を市町村會議員に推薦する、等の結果自然に中央其儘の政争が地方に侵入するので、それは恰かも戰國時代の武士が多數の部下によつて支持せられた結果、一國一城の主となつた場合に於てはそれ等の部下に對して其領分内に於ける土地を分與して其功に酬ひたと

同時に其後の援助を約束せしめたのと同じ事情に出でるものにして、我國現在の政治が不相變封建政治其儘であると云はるゝのは之が爲めである。之を反面から説明して彼等は彼等の同情者を一人でも多數に府縣又は市町村等の議員に當選せしむる事によつて彼等が謂ふ所の地盤を築き得るのである。蓋し世事の全體を通じて自然に且一般に成立して居るものに就ては必ず因つて成る所以の理があるから、從來中央政治其儘の政争が地方政治に波及して之を害したのに就ては、其因つて來る所以の理と其欠陥とがあつたのである。之に反して地方毎に各別の利害による異つた政黨が儼在して居れば、國會議員又は其候補者に於て其同情者をそれ等の地方政治に於ける議員に推舉する事が出來ぬのである。要するに市議選舉に際して政黨色を侵入せしむる事が不可なのではない、單に中央其儘の政黨色を侵入せしむる事が不可なのである。

三、而かも各地方毎に異つた政黨を組織せしむるが爲めには其等の一切の政治を通じて主義と政策との對抗とする事が必要であるが、其等の政治を通じて主義と政策との對抗とするが爲めには先づ其選舉民をして其等の政治に注意し之を理解せしむる事が必要である。而して其

選舉民をして其政治に注意せしむるが爲めには、一は地方政治に於ける分量を増加し地方民をして分量的に其政治に對してヨリ多くの利害を感じしむる事即ち所謂地方自治を擴張する事と、他は府縣知事以下市町村長に至る一切の行政長をそれゝの選舉民の直接選舉とし、兼ねてそれ等の行政長にして一朝それゝの議會と其意見を異にした場合に於てはそれゝの議會を解散して其信任を其選舉民に問はしむる事が必要である。

蓋し現在に於ける地方自治擴張の必要に就ては世間已に定説があるから私は茲に之が詳説を避けるのであるが、地方民の注意を喚起し其政治に興味を感じしむるが爲めには其自治の擴張は絶對的に必要である。試みに思へ、現在の市政に關して電車賃金又は水道料金等の類に至る迄其決定に就いては總べて内務省の認可を受けねばならぬ事になつて居るから、民衆は直接には其政治に興味を持たぬと同時に間接には上司の監督に安心して其政治に注意をせぬのである。而かもそれゝの選舉民の直接選舉によつて選舉せられた府縣知事以下市町村長と共にそれゝの地方に於ける一流の紳士數十名によつて組織せらるゝそれゝの議會を以てして、其等の事項に關して獨立的に決定せしむることが何故に不可であるの乎。實に馬鹿

くしき限りである。加ふるに一般の事物に於ける通則として、手近の事がヨリ能く理解せらるゝと共に發達し、遠方の事が其反對である事は、各個人に於て自分自身の事が他人の事に比して一層にヨリ能く了解せられて居るのによつて之を知るべきであるのに不拘、獨り政治に關しては現在に於て手近の地方政治に比して中央政治の方が一層に了解せられて居ると共にヨリ多く感興を惹きつゝあるのは、從來の地方政治が協議的即ち少數者の妥協的であつたのに加へて解散がなかつたから、それ／＼の選舉民に於て其政治に注意せなかつたからである。

從來の選舉民に於て地方政治に注意せなかつた事實としては、一種の定連即ちそれ／＼の議會に對して特別の利害を有する曰く附の政治ゴロの外一般選舉民にしてそれ／＼の議會を傍聽せなかつた一事に見て、之を知るべきである。加ふるに此回の大阪市議改選に際して三割五歩の棄權者を見、更に市議と其類を同ふすると同時に、此回の市議改選直後に於て執行せられた大阪府會議員の補欠選舉に際して七割の棄權者を見た事の如き、共に如何に地方民がそれ／＼の政治に冷淡である乎を證明して餘りがあるのである。茲に至つて地方政治を振

興するが爲めには、其自治の範圍を擴張し分量的に一層の利害を感ぜしむると同時に、其行政長をしてそれ／＼の議會と對立せしめ兼ねてそれ／＼の政治に關して各別の政黨を組織せしめて、一切の政治を擧げて主義と政策との對抗戦とする事が絶對的に必要である。

現在の地方政治に關して之を腐敗せしめつゝある制度の一は議員中から土木衛生其他の事業に關する委員を出さしむる事である。蓋し此制度も亦地方政治を膝も談合の主義から割出した結果であると信するが、之は矢張り執行機關と監督機關とを區別する主義により議員は單純なる監督機關に止むべきである。

更に現今市町村に於ける政治がそれ／＼の選舉民によつて傍聽せられる事が稀である程にネグレクトせられて居る事と、それ等の市町村長がそれ／＼の議員の複選舉によつて居る事との結果は、それ等の議員が良い意味と共に悪い意味に於ての道樂者である事、(善良にして眞面目なるものは多く立候補せぬ)、それ等の道樂議員によつて選舉せられた市町村長の内一二の特別なる者を除いた其他の一切がそれ等の道樂議員の多數と其意氣が投合する同一程度の道樂

者である事、然らざればそれ等の道樂議員の多數を籠絡するに足るシタタカ者である事、等であるのに就ては、之を匡救する道は一に市町村長をそれ／＼の選舉民の直接選舉によらしむると同時に彼等をしてそれ／＼の議會に對する解散權を行使せしむるの外はないのである。

更に現在に於て市町村長がそれ／＼の議會の複選舉に係つて居る結果に於ける弊害の一つは、市町村に於ける吏員がそれ／＼の議員によつて推薦せらるゝ時は、其能と不能と及び其必要と不要とを不問採用せらるゝ事である。私は此頃二人の失業者を有して其就職に困難したのであるが、其際私の友人は私に對して、「有力なる市會議員を介して市役所に採用方を願出でるに於ては其十中八九は採用せらるゝであらう」と云はれたのであつたが、私は顧みて如何に便利であつても自ら市政を腐敗せしむる事は出来ぬから之を差控へたのである。斯くて市吏員の多數が其能と不能とを問はず緣故によつて採用せらるゝ結果の一つは、會社バスの經營に對する市バスの經營が困難となる等、其弊害は擧げて數ふる事が出来ぬのである。

更に此機會に於て附言する事は此回大阪市に於ける選舉の結果として十數名の無產黨議員の

選出を見たのに就き、此後の市政は全然其面目を改めるであらうと云ふものがあるが、私は之を信じ得ぬものである。其理由は左の通りである。

一、折角の無產黨議員が次第に軟化して從來の議員と大差なきものとなりつゝある事である。其理由は多々であるが其中の最も主なるものとしては、此回の選舉に際して彼等は其選舉費に欠乏した結果彼等に於て自ら彼等の同情者であると稱して居るものから寄附を受けた事である。蓋し其等の同情者は其程度の差こそあれ其寄附をするだけ其生活に餘裕がある者であるから一種の資産家又は中産階級者である。而して彼等が其等の資産家から寄附を受けた事及び此後は益々多くそれ等の寄附を受けねばならぬ事の結果として、彼等が不知不識に其等の者の意向を迎へて資本家化するの必然である。

二、彼等の地方政治に對する理想は、上述の如く其制度に關する根本的にあらすして單に時間の勵行又は社會政策の分量を多くする等の如き末葉的であるから、其結果は知るべしである。

三、更に彼等自身は其名は無產黨と云ふても其實無產的勞働者にあらずして辯護士其他の智識

階級であると同時に、彼等は今日の場合彼等が稱して資本家と云ふて居る者の依囑又は眷顧によつて其生活を維持せねばならぬ者にして、彼等が無産黨を標榜しつゝあるのは之を唱ふる事が彼等の當選を容易にし其虚榮心を満足せしむる上に於て便利であるからである。従つて彼等の前途に於ける行動も亦知るべきである。

四、此回の市會に於て彌次が旺盛であつたのに就き之を防止するが爲め傍聽券發行が企圖せられたのに際して、彼等は其結果は定連の傍聽を多くし議場外に於て彼等の身邊に危険を來すの虞れがあるとして之が發行と共に彌次の禁止に對して反對した事の如き、彼等も亦議場に於ける勝敗に重きを置いて純理を後にするものであるから、彼等の前途も亦推知し得るのである。(十月二十日稿)

附録第七章 美術は果して尊ぶ可き ものである乎

古代に於ける美術品の多くが奪掠階級の玩弄物であつたのに就ては、私は之れあるは國民の恥辱であると信ずるものである。而してそれ等の美術品が其國に於ける文明進歩の程度を表示するものであると云ふのに就ても亦、それ等の多くが奪掠階級の保護下に於て經濟的價値に頓着なく單なる玩弄物として製作せられたるものであるから、其當時に於ける一般國民に於ける文明進歩の程度を表示するものでない事は云ふ迄もなく、單に全國中稀にあつた特殊の天才によつて製作せられた道樂仕事としての技倆を表示するに過ぎぬものである。而かもそれは舊に古美術品のみに限らず今日の美術品と雖、其程度と高下との別はあつても奪掠階級の玩弄物である事、及び其之を製作する美術家が道樂品を製作する天才と稱するものである事も、亦同一である。殊に其天才と稱するものは恰かも屹屹巍巍たる山水が一般の土地に對して美は美であ

り秀は秀であるには相違ないが、結局に於て實用的土地でないのと同一で、天才も亦結局に於て實用的生産者ではない若し強いて其差を求むれば、山水は貴賤上下の別なく一般民衆に於て均しく觀賞し得る平民的であるのに對して、美術は富豪に限つて之を楽しみ得る貴族的である代りに之を製作した彼等が人間である上に於て間接に一般民衆を刺戟し輕微ながらに文明の進歩を促進するの功果があるだけである。

更に古美術品が製作せられた當時に在つては、民衆に於ける國民的の活動が皆無にして彼等は單なる生産的動物たるの地位に過ぎなかつたのに反して社會に活動したものは貴族及び富豪のみであつたから、それ等の美術品が貴族及び富豪の玩弄物であつたにせよ、それ等のもの、發達に關する歴史を研究するのは當時の社會に於ける歴史を研究する所以であると云へば、それに相違ないのであるから此意味に於て古美術品を珍重する事は頗る有意義であるが、それは私か前著書に於て指摘した通りに參考品としての美術品で、決して愛好品としての古美術品ではないのである。従つてそれ等の古美術品は之を美術館の如き公的建築物に納めて一般の參考に供すべく決して現在の如く一個人の祕庫に珍藏すべきものではないのである。

感情は人間に於ける動物性の遺物にして人間は感情を排して理智を明かにせねばならぬものであるから、(美術品が多く人間の感情を表現し兼ねて之を慰藉するものであるのに就ては、)人間にして其發達の極致に至れば現在の美術は或は全く無用となり或は頗る其性質を變化した他のものとなる可き筈である。只現在の人間は彼等が欲すると否とに不拘未だ感情の支配を脱却し得ぬものであるから、感情を満足せしむると同時に之を淨化する所以の美術品が必要である事は止むを得ぬのであるが、而かも私共は之を最小限度に於て享樂せねばならぬものである。従つて美術の爲めに美術品を楽しむが如きは沙汰の限りである。

それに就き近來紳士仲間にて或は彩管に親しみ或は詩歌の新作に耽けるが如きは彼等が惡所遊びをするのに比して優る事萬々ではあるが、而かも其因つて然る所以の動機が、彼等に於て、或は深淵なる眞理の研究に従事し、或は其營業とする事業以外に於て政治其他の事業に關係するの煩を避ける爲めと、單なる趣味——畢竟するに感情を満足せしむる道樂——として之を楽しむ爲めとに過ぎぬのに就ては、切迫したる我國の現状と彼等有閑階級である事とに見て、私は遺憾に堪へぬものである。

而かも私に於て自分ながらに不思議に堪へぬ事は私が淨瑠璃を好む事である。蓋し淨瑠璃は聲樂の一種にして美術であるから、私に於て之を愛好する事は不思議である。而かも淨瑠璃に於ける題材と思想とが非科學的であると同時にローマンチックであるのに就ては、之を改良せざるに於ては今日に於て己に其徴候が顯著である通りに早晚必ず衰滅に歸する事が明白であるから、私にして眞實に淨瑠璃を愛好するものであれば、私は是非に之が改正に就き盡力せねばならぬのであるが、私は顧みて其任でないのと共に他に生涯の研究を控へて居るから自ら之を負擔する事が出来ぬものである。従つて私に於ける愛好の程度はファンでもなければ狂でもなく單に好きと云ふ丈けである。察するに、其語り口が大膽に且無遠慮にして如何にも眞に迫つて居る事、及び其題材が民衆的にして當時に於ける平民階級の生活状態を如實に表現して居る事、等の点に關して愛好するのであらうと信するが、さりとて自ら之を學習せんとすればそれが眞に迫つて居るだけ大聲又は奇聲を發して狂氣染みた態度を眞似ねばならぬのが憶怯であるのに加へて、其教師と稱するものが概して無學であると同時に幾多の因習を有して其人格が下劣であるから、私は屬魂それが好きであるのに不拘自ら之を傳習し得ず僅かに毎年一二回位の

範圍に於て之を聽問するに止めて居るのである。而かも私は大體に於て獨り之を聽く事をせず必ず友人又は客人を同伴する事にして居るのであるから、私は期せずして之を最小限度に於て享樂しつゝあるのである。其他繪畫の如きも亦好きであるから毎年帝展が京都に来る場合は缺がさず之を觀賞するのであるが、さりとて高價のものを買求めて之を自宅に貯藏する程の狂ではない。何となれば如何に私が高價の物を求めたからと云ふても到底世間を驚かす程の優秀品を持つことが出来ぬのに加へて私は之を最小限度に於て享樂せねばならぬ義務があるからである。

更に我國に於ける此種の藝術に關する教師又はファンが無智にして感情的である結果それ等の藝術と家柄とを宗教視するのに加へて、彼等が狡猾である結果表面に於ける授業料を安値にして教へ子を引き附けた上に於て、或は許し物料又は懸賞料（碁に於ける賭け料の如き）として多額の料金を貪り、或は道具を買はせて其コンミッションを取る、等種々の猾策を弄して相當多額の金錢を貪り、更に其教へ子に對して且那扱をなし其虚榮心を満足せしめた上に於て種々の冥加に預らんとするが如き、總べて陋劣の限りである。而かも彼等が其師匠と稱するもの

に對して情誼の濃やかであるのは一見彼等が人情の美々盡しつゝあるが如くであるが、其實は彼等が感情的にして其人格が下劣であるのに就き、唯一師恩の洪大なる事を教へて之を取締るの外方法がないからであるから、其道徳的理想は消極的である。従つて我國に於ける此種の藝術を改良發達せしめんとするに就ては先づ其等の教師又はファンと稱するものゝ思想及び教育の改善からして始めねばならぬのである。

本文に於て私の趣味に關して記述したのに就き、私は此機會に於て私の一家に於ける生活方法の一端に就き記述する。

私は我國人中に於ける相當の多數が、國家の政治其他に關しては合理的であらねばならぬと考へて居るのに不拘、其私生活に至つては甚しく不合理的であり感情的であり且因習的であるのに就き、之を沐猴にして冠するものであると信じて居るのである。従つて私は公事と共に私生活に就き否な私生活を先きに公事を後に合理的にするのが順序であると信じて居るものである。而して其一端は左の通りである。

一、他人に對する場合は幾分斟酌をするのを外にして、一家内に於ける日常生活は朝夕に於ける起臥は素より食事其他に至る迄一切の時間を一定して居る。蓋し時間は即ち約束であるから全家族が共に時間を嚴守する事は最も各自の能率を上げる所以である。

二、更に私自身は全家族と共に毎朝六時に起床し直に冷水摩擦をなし更に室内に於て——冬季は窓ガラスを密閉して——深呼吸によつて體操をなし、三十分間は裸體の儘で風邪に罹らぬ豫防と共に運動をして居るのに加へて、毎夜就寝前には再び深呼吸による體操をした後に仙裁に於て（雨天の際は室内に於て）三十分間棍棒を振る事にして居る。而して毎週二回は朝の冷水摩擦後に於て自分専用の洗面場を掃除する。

三、自分の服裝に關しては洗濯に出す迄と洗濯から返つて來た後とに於ける一切の整理と仕末とを自分に於て擔當して居る。

四、自宅に於ける掃除は特別の場合を除いては雇人に對して一定の日割を定めて實行せしめて居るのであるが、自分の居室は二週間に一回の大掃除をして貰ふ以外は毎朝に於ける小掃除は私自身に於て實行する。

五、私共及び家族と雇人との間柄は昔しながらの主従でなく單に雇傭の関係であるてふ主旨により、雇人側から私共に對する時は主人と呼び（旦那でなくしてアルジであるてふ意味に於て）、私共側から雇人に對する時はさん附を以てする事にして居る。而して娘が存生中は、娘は雇人を雇ふて居るのでないから同資格であるてふ主旨により彼等双方間に於て共にさん附を以てせしめたと同時に、娘に於て出來ぬ事は彼等に對してお頼みすべく決して命令する事は出來ぬとして居つた。

六、更に私の宅の入浴の方法は、私が神戸市在住の當時は店員と共に住居して多人數であつたから入浴に關する注意書を掲記して居つたのに就き、偶安部磯雄先生が投宿せられて頗る面白いと云はれた處のものである。即ち左の通りである。

甲、洗場に於て大體の洗淨を終り且充分に洗ひ流がした後に於て入浴する。

乙、浴槽内に於ては絶対に手拭を使用せず徐かに身體を温むるに止むる事。

丙、石鹼汁の附着したる洗桶は一旦冷水を以て洗淨したる後にあらざれば斷じて浴槽内に突つ込まぬ事。

丁、入浴の順序は左の通りとす。

イ、主人夫婦は

午後五時迄に。

ロ、店員側は

午後八時迄に。

ハ、女中側は

午後八時以後。

但、幸子（私の娘）は女中と共に入浴し且後仕舞を手傳ふ事。

蓋し御互に同等の人間であるから何人が先きに入浴するも差支へがないのであるが、順序と便利との上から一應右様決定したのである。就ては後の入浴者をして不快の感を生ぜしめぬ様御互に清潔を守ると同時に、若し主人夫婦其他に於て規定の時間迄に入浴せぬ時はそれ／＼の時間によつて自由に入浴せらるべきである。

以上要するに時間の嚴守と人間平等の主意とを明白にしたと同時に、私自身は是非共何等乎の運動をせねばならぬものであるのに就ては雇人側に於ける仕事を妨げぬ範圍に於て特に私自身に關する事項は私自身に於て仕辨する事にして居るのである。

我國の藤原氏時代と云へば奈良朝に於ける最盛期にして、其内に於ける一條天皇の御世は紫式部や清少納言やの女流文學者が輩出して文學上最終の發達物である可き我國の散文が始めて其光華を發揮した時代であるが、其當時に於ける尾張國の郡司及び百姓から其國司を彈劾した文書にして尾張國解文と稱せられて居るものによれば、當時の地方民は國司達に於ける奇斂誅求の結果搾取に搾取を重ねて其生活は實に慘憺たるものであつた由である。否な當時は素より其前後と雖我國に於ける文華と美術との發達は一に國民の膏血を搾取する事によつて其精華を發揮したものであるから、之を民衆側から見ても我國に於て彼れが如き潤瀾たる美術品があるのは却つて我國民の恥辱である。(十二月十日稿追加)

附錄第八章 生産の制限

生産をする事が自由であれば之を制限する事も亦自由であらねばならぬのである。而るに生産の自由に就ては世間疑を挾むものがないのに不拘、之が制限に就ては一般社會殊に言論社會に於て疑義を有するものが相當に多數であるのは不可解である。素より關稅其他の國家的保護により國內に於てそれだけ高値に販賣し得る獨占權を有するものに於て其生産を制限するのは不都合であるが、國家に於ける何等の保護に浴せざるものに於ける生産の制限は、恰かも漁師が餘りの大漁に際して一時其漁獲を差控へ、又は大工が仕事のヒマに際して休業するのと同じであるから、全然自由であらねばならぬのである。而かも如上の區別を辨ぜず一律一體に之を非議するのは無理解である。

此頃歐羅巴諸國間に於て關稅同盟が主張せられて相互間に於ける關稅を撤廢せんとする計畫が主張せられ始めたのに就ては、何事にも人眞似をする事に於て人後否な國後に落ちぬ我國人が

は、忽ちにして通商自由協會なるものを組織して我國に於ける關稅の輕減に就き運動し始めたのであるが、私は之れあるは之なきに勝る萬々であるから決して之を無用と云ふのではないが、少くとも之を中途半端であると信するものである。何となれば彼等は通商の自由である事を主張しつゝ尙全部の關稅を通じて之を撤廢せんとせぬのみならず、更に人間に於ける行爲の一つである通商貿易の自由をのみ認めて、人間に於ける全生活の基礎である土地其他に關する自由即ち人間に於ける行爲の全部に對する自由を確保する所以である獨占權の打破に關しては、顧みて他を云ふものであるからである。斯くて彼等の運動も亦彼等に於ける自我の發露であると同時に彼等の社交に外ならぬのである。

更に近年我國に於ける經濟が不如意であるのに就ては——殊に金解禁が困難であつたのに就ては、——頻りに輸出と共に國産品の使用を獎勵しつゝあるのであるが、假りに其獎勵の結果として輸出が増進した場合に於ては、金貨の輸入が増加し従つて我國に於ける物價が騰貴し忽ちにして輸入が増進すると同時に輸出が阻止せらるゝ筈であるから、彼等は結局に於て十年を通觀すれば輸出入は平均するものである事を知らぬものである。若しそれ國産品の使用を獎勵

するに至つては、國産品の内優秀品があるのに不拘一般國民に於て之を知らぬものがあるからであるとすれば、廣告其他の手段によつて之を一般に周知せしむる事は當業者に於ける當然の業務であるから之を當業者に一任すべく、政府に於て特に國産品使用を獎勵すべき必要も理由もないものである。而して國産品獎勵の結果輸入が減少すれば國際的經濟關係として輸出も共に減少する筈であるから、獨り輸入のみを減じて輸出を増加せしむる事は出來ぬものである。加ふるに民衆が國産品を使用せぬのは概して國産品が粗惡にして不經濟であるからであるのに就ては、政府に於ける國産品獎勵は結局に於て無効であるのみならず偶々幾分の効果があつたとすれば國民をして不利益なるものを使用せしむるものである。要するに彼等は、貿易が自由であらねばならぬ事、其貿易の原因である消費も亦同じく自由であらねばならぬ事、及び政府の事業は獨占權に關する事業の經營に限り其他は一切を擧げて民衆の自由に委せねばならぬものである事、等を辨ぜぬものである。

最近關稅審議會に於て綿糸に於ける輸入關稅の廢止又は輕減が問題とせられて居るのに就き

我國の紡績業關係者は尙早説を唱へつゝあるのであるが、彼等は何時になつたら其尙早説を抛棄するのである乎、之を我國の紡績會社が引續き高配當をなしつゝ其株券が常に數倍の市價を維持して居る事實に見て、笑止の至りである。それに就き甚だ皮肉の見方ではあるが、彼等に於て尙早説を唱へつゝあるのは、其實綿糸其物に於ける關稅撤廢を以て尙早しとするのではない、彼等は他の百般の貨物に於ける關稅が撤廢せられぬ今日に於て紡績糸のみに於ける關稅が撤廢せらるゝに於ては、紡績會社は他の關稅によつて不相當に其市價を釣り上げられて居る器械及び消耗品を使用する事によつて不利益を受けるから、其埋め合せとして紡績糸に於ける關稅の存置を主張しつゝあるものである。従つて彼等は寧ろ紡績糸と共に其他の一切の貨物に於ける關稅の撤廢を希望するのであるが、彼等は今日迄紡績糸に對して關稅の保護を受けて居つた手前、俄かに一切の關稅全廢を主張する事は餘りに白らぐしく其内腹を見透かさるゝ心地がするから、止むを得ず一切の關稅全廢を主張し得ぬと同時に紡績糸に對する關稅廢止に關しても亦尙早説を唱へつゝあるのである、と信するのである。

更に昨今に至つて米の專賣が問題となつたのは米穀法失敗の結果であるが、米の專賣は更に米穀法以上の惡法である。而してそれが惡法である事は米穀調査委員會に於て指摘せられた以外左の理由があるのである。

第一、米の專賣法は其實行が複雑であるのに加へて多額の失費を要し且多數の違反者を生ずる恐れがある。

第二、米の專賣法は産業自由の精神に反するものである。

第三、同法論者の主張は米は國民の主食物であるから其價格を一定せしむる事が必要であると云ふのであるが、私を以て之を見る。國民の需要品中其價格の一定である事を必要とするものは獨り米のみには限らぬのである。加ふるに米は國民の主食物であると云ふても、其一戸當りの價格は如何なる貧民階級に於ても尙日々の經費に對して其二分の一以上に上る事はないものであるから、單に米の價格のみを一定せしむるが爲め米の專賣法を実施する事は、其實施によつて將來すべき産業の自由に對する制限に於ける弊害に比較して云ふに足らぬものである。私は今日の場合區々たる米の價格を一定せしむるが爲め專賣法を実施するよりは、反對に國民の生活に餘裕を生ぜしめて彼等をして米の價格に於ける變動位に避易せざらしむる事が、一層

に必要である事を主張するものである。

貿易が自由であらねばならぬ事は、世界の各國に於ける氣候風土が互に其産物と其産物の品位とを異にして居る結果、世界は自由に之を交換する事によつて自然に其需要を満足せしめ得べき事情にある事によつて、之を知るべく、従つて關稅其他によつて貿易の自由を妨害する事は或は神意に反し或は天地自然の眞理に反するものである。若しそれ貿易は單に有無相通の必要によるべく其品位に對する趣味嗜好の相異の如きは問ふ處ではない、従つて之を自國に於て製産し得るものは之を自國に於て製産せしむる爲め關稅の保護が必要であると云ふに至つては、論者は有無てふ語を誤解し品質及び品位の相違も亦廣き意味に於ける有無の一部である事を理解し得ぬものである。論より證據は、現在の世界に於て其有無が貿易の原因であれば、貿易は世界に於ける緯度の差に準じて寒温熱の各帶間に限り、又はそれ等の各帶間を主として行はるべき筈であるが、事實は現在に於ける貿易は其生産品に於ける品質を同ふするも其品位を異にする經度の差によつて東西各國相互の間に於て最も多量に行はれて居るのである。而して其

理由は貿易は、生産に準ずるよりも需要即ち消費によつて行はれるので、大體に氣候及び風俗を等しくする洋の東西否な最も手近にある隣國間に於て最も多量に行はるゝものであるから、貿易の要素は各種商品の有無にあらずして其品位及び品等の差である。従つて貿易は全然自由であらねばならぬのである。

附録第九章 現在の不景氣は此後何ヶ年を繼續する乎

此回金解禁が斷行せらるゝのに就き、民政黨は一切の準備が成就したと云ふのに對して、政友會は單に其一部が成就しただけであるから今後が困難であると云ふのであるが、要するに其相異点は、現在の不景氣は此後何年間を繼續する乎、從つて此後再び恐慌を惹き起す恐れがある乎否乎、と云ふ点に於て存するのである。

私の見る所によれば、我國に於ては明治十年以後時々抑揚頓挫は別として大體に不景氣期は、(一)、十年の征南戰爭後に於ける場合。(二)、日清戰爭後に於ける場合。(三)、日露戰爭後に於ける場合。(四)、歐戰後に於ける此回の場合。との四つであるが、(一)の場合には、明治十年以後十三年に至る三ヶ年間が大好況期にして其他は當時金銀兩本位制であつた關係上明治二十三年乃至二十六年に於ける波瀾期を除ては、大體に於て明治十三年以後二十六年

に至る十三ヶ年間を繼續して其不景氣振りは徹底的であつた。(二)の場合には明治二十七年に於ける日清開戰により、(三)の場合には明治三十六年に於ける日露戰爭の開戰により、共に其不景氣は中途にしてチョン切られたのであるから甚だ不徹底にして止んだのである。最後は此回の不景氣期であるが、我國人は以上二つの場合に於ける不景氣期が中途にして打切られたのに就き、最早十年以後に於ける不景氣が徹底的であつた事を忘却して居つたと共に、此回の不景氣は今日以前に於て早く打切らるべく今日迄繼續する事は夢にも考へて居らなかつたのである。從つて此回の不景氣が今日迄繼續したのに就ては彼等は案外して居るのであるが、私は、今日迄は素より今日以後と雖當分の間は戰爭があるべくもない、從つて此回の不景氣は行く處迄行かねば止まぬものであるから、容易に回復の曙光を見る事が出来ぬ、此後少くとも二三年間若し長引くに於ては四五年間は現在の否な現在以上の不景氣を繼續すべし、と考へて居るのである。

大正九年に於ける大反動に際して私は大膽ではあつたが左の通り豫言したのである。

甲、此後物價は大體に戰前の標準に回復する。素より此回の戰爭によつて労働者が幾分自覺し